

# 八幡浜市地域福祉計画



令和2年6月  
八幡浜市

ごあいさつ

現在、急速な少子高齢化の進行や、核家族や単身世帯の増加、住民相互のつながりの希薄化など、地域福祉を取り巻く環境の大きな変容に伴い、虐待や孤独死、ひきこもりといった新たな課題が顕著になっております。また、度重なる災害に際して、これまでの「自助」や「公助」に加えて、特に地域内における助け合いの仕組みである「互助」が重要視されてきています。

このような状況下でこそ、地域の皆様の力を結集して、地域住民の一人ひとりが「支え手」「受け手」という関係を超えて、主体的に地域課題を把握し、自治会、ボランティア、行政をはじめとする多種多様な機関と連携し、それぞれの地域特性にあわせてお互いに支えあうコミュニティの再構築を推し進める必要があります。

八幡浜市地域福祉計画では、「地域住民」を地域福祉推進の主体として位置付けるとともに、地域住民と支援する関係機関との連携が円滑に行われ、それぞれの役割を果たしながら支えあい、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことのできるまちの実現に向けた道筋をお示しすることを主な内容としています。

また、本市では「過去に学び 現在を見つめ 共に創ろう 輝く未来」をまちづくりの基本理念とした第2次八幡浜市総合計画において、共に助け合う地域コミュニティを醸成し、市民一人ひとりが夢や希望を叶え、心の豊かさや生きがいを持って暮らすことができるまちづくりをその根幹と位置付けて着実に実行して参りたいと考えておりますので、皆様方の一層のご理解・ご協力をお願い申し上げます。

あとになりましたが、本計画策定にあたりお力添えを賜りました、策定委員会委員の皆様、アンケート調査にご協力をいただきました皆様に、心から感謝を申し上げます。

令和2年6月

八幡浜市長 大城 一郎



# 目 次

## 第1章 計画の策定にあたって

【1】 計画策定の趣旨.....	1
【2】 社会的背景.....	1
【3】 地域福祉とは.....	2
【4】 主な国の動き.....	3
【5】 計画の位置づけ.....	5
【6】 計画の期間.....	6
【7】 計画の策定体制.....	7

## 第2章 八幡浜市の現状

【1】 統計からみる八幡浜市の現状.....	8
【2】 アンケート調査結果からみる八幡浜市の現状.....	12
【3】 地域福祉の課題.....	67

## 第3章 計画の基本的な考え方

【1】 基本理念.....	70
【2】 八幡浜市地域福祉計画の骨子（体系）.....	71

## 第4章 基本目標ごとの取組み

【基本目標1】 誰もが地域福祉の主体となる基盤づくり.....	73
【基本目標2】 誰もが安心して暮らせる相談・支援体制づくり.....	77
【基本目標3】 地域福祉を推進するための仕組み・環境づくり.....	83

## 第5章 計画の推進

【1】 支えあうための地域の範囲.....	87
【2】 住民及び関係機関などとの連携・協働.....	88
【3】 計画の進捗管理.....	90

## 第6章 成年後見制度利用促進基本計画

【1】 成年後見制度利用促進に向けた取り組み.....	91
-----------------------------	----

## 資料編

【1】 八幡浜市地域福祉計画策定委員会設置要綱.....	94
【2】 八幡浜市地域福祉計画推進委員会委員名簿.....	96

## 第1章 計画の策定にあたって

### 【1】 計画策定の趣旨

地域福祉計画は、社会福祉法第107条第1項第1号から5号に基づき、市町村が、地域福祉の推進に関する事項として、「地域における高齢者の福祉、障がい者の福祉、児童の福祉その他の福祉に関し、共通して取り組むべき事項」、「地域における福祉サービスの適切な利用の推進に関する事項」、「地域における社会福祉を目的とする事業の健全な発達に関する事項」、「地域福祉に関する活動への住民の参加の促進に関する事項」、「各種事業の実施にあたっての事業に関する事項」を一体的に定める計画です。

### 【2】 社会的背景

全国的に、少子高齢化、単身世帯の増加、非正規労働者の増加等が進行しています。これらを背景として、自助のみで日常生活・地域生活を営むことが困難な人が増加しており、暮らしの支援ニーズが増大し、また、複雑化・多様化しています。

他方で、地域における人間関係の希薄化が進むとともに、従来の地域福祉活動の担い手の高齢化や後継者不足等も進んでおり、地域における互助力も弱まりつつあります。

これらの結果として、ダブルケアや生活困窮者の社会的な孤立、8050問題等、必要な支援につながりにくい事例が各地で顕在化しています。2025年には65歳以上の人口が国民の3分の1を占め、また、2040年には65歳以上の人口がピークに達すると見込まれており、今後、このような問題はさらに深刻になることが想定されます。

そのような状況の中、本市の現状を見ると、これまで地域福祉を担ってきたボランティア団体や、自治会活動などの担い手も高齢化が進み、新たな担い手の確保が課題となっています。また、地域の中で、孤立している高齢者、生活困窮者の増加など、様々な生活課題を抱える人が増えています。

そこで本市では、福祉に対するニーズや社会情勢の変化による新たな課題に対応し、国の動きとの整合を図りながら、「誰もがつながり、地域で支え合うまち 八幡浜」の実現に向けた取組を推進していく指針として八幡浜市地域福祉計画を策定します。

### 【3】 地域福祉とは

誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、地域住民や社会福祉関係者がお互いに協力し、地域の福祉課題の解決に取り組む考え方です。また、改正社会福祉法第4条第1項では「地域住民」を地域福祉の推進に努める主体と位置付けています。

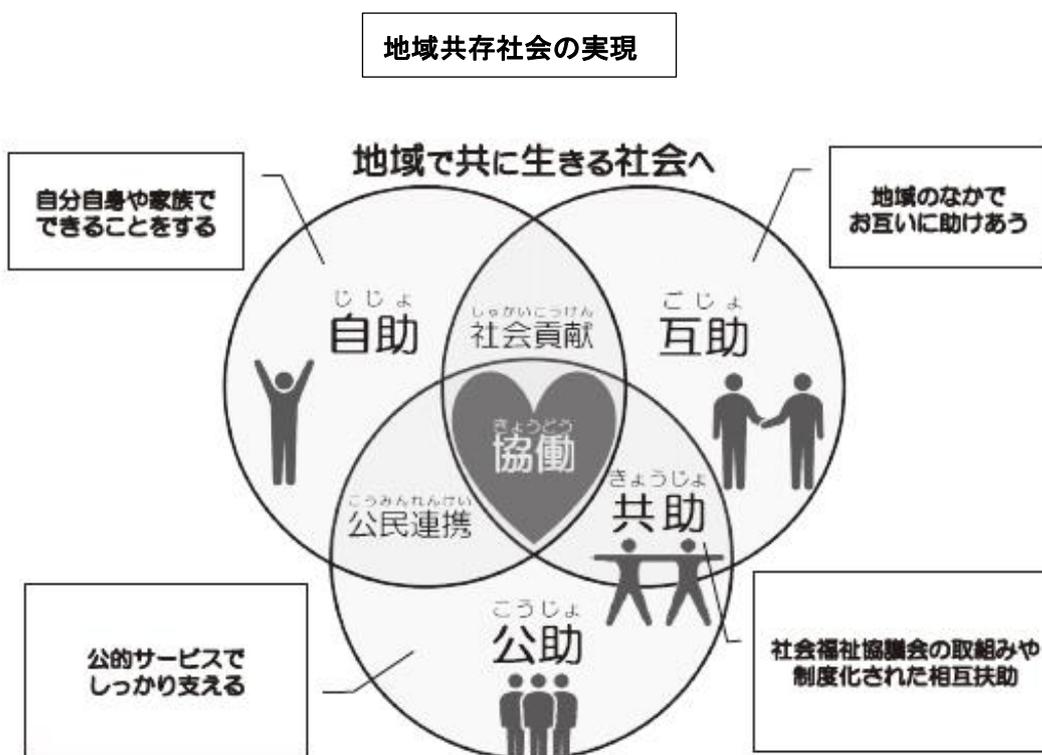
地域での支え合いを築いていくための考え方として、「自助」・「互助」・「共助」・「公助」というものがあり、これらが相互に働き合い、地域福祉活動に取り組んでいく必要があります。

自助（個人）：自分自身や家族でできることは自ら行う。

互助（近隣）：隣近所や友人・知人とお互いに支え合い、助け合う。

共助（保険）：制度化された互助扶助（医療、年金、介護保険など）

公助（行政）：行政機関などが提供する福祉サービス  
(生活保護、人権擁護、虐待対策など)



## 【4】 主な国の動き

### (1) 地域の福祉力の低下と新たな課題の出現、「社会福祉法」の一部改正

我が国全体で人口減少や少子高齢化が進む中で、伝統的な「家庭や地域の“支え合い”の力（＝地域の福祉力）」の低下が顕著となっています。

その結果、8050 問題やダブルケアといった複合的な課題など、これまでのように対象者ごとの縦割りの制度による公的な福祉サービスだけでは対応が困難な新たな課題が出現しています。

そこで、国は、高齢者支援として推進してきた、分野・主体間を越えた連携による支え合いの仕組み「地域包括ケアシステム」を、地域に暮らす全ての人々が支え合う仕組みとして深化・推進させるため、「地域包括ケアシステムの強化のための介護保険法等の一部を改正する法律」により、「介護保険法」、「障害者総合支援法」、「児童福祉法」、「医療法」とともに、「社会福祉法」の一部改正を行いました。

#### 地域包括ケアシステムの強化のための 介護保険法等の一部を改正する法律

##### 改正概要

- I 地域包括ケアシステムの深化・推進
  - 1 自立支援・重度化防止に向けた保険者機能等
  - 2 医療・介護の連携の推進等
  - 3 地域共生社会の実現に向けた取組
- II 介護保険制度の持続可能性の確保
  - 1 2割負担者の一部を3割負担に
  - 2 介護納付金への総報酬制の導入

・ 介護保険法改正（平成 30 年 4 月施行）

・ 障害者総合支援法改正（平成 30 年 4 月施行）

・ 児童福祉法改正（平成 30 年 4 月施行）

・ 医療法改正（平成 30 年 4 月施行）

・ 社会福祉法改正（平成 30 年 4 月施行）

## (2) 「社会福祉法」の改正による市町村地域福祉計画の重要性の高まり

「社会福祉法」の改正（平成30年4月1日施行）により、市町村地域福祉計画は、福祉分野の上位計画として位置づけられるとともに、計画の策定が努力義務化されました。

また、計画に記載すべき2つの追加事項として、地域における高齢者の福祉、障害者の福祉、児童の福祉その他の福祉に関し、共通して取り組むべき事項(16項目)と、市町村において地域生活課題の解決に資する支援が包括的に提供される体制の整備に関する事項が示されました。

## (3) 『我が事・丸ごとの地域共生社会の実現』に向けて

こうした動向の中で、これからの我が国の福祉改革を貫く基本コンセプトとして、『我が事・丸ごとの地域共生社会の実現』が打ち出されました。

「人々の生活の基盤としての地域の重要性が一層高まる中、地域において、住民がつながり支え合う取り組みを育んでいくことが必要となっている。このようなつながりのある地域をつくる取り組みは、自分の暮らす地域をよりよくしたいという地域住民の主体性に基づいて、『他人事』ではなく『我が事』として行われてこそ、参加する人の暮らしの豊かさを高めることができ、持続していく。また、社会保障などの分野の枠を超えて地域全体が連帯し、地域の様々な資源を活かしながら取り組むことで、人々の暮らしにも地域社会にも豊かさを生み出す」という考えに基づいたものであり、国は、『地域共生社会』を次のように説明しています。

### 地域共生社会とは？

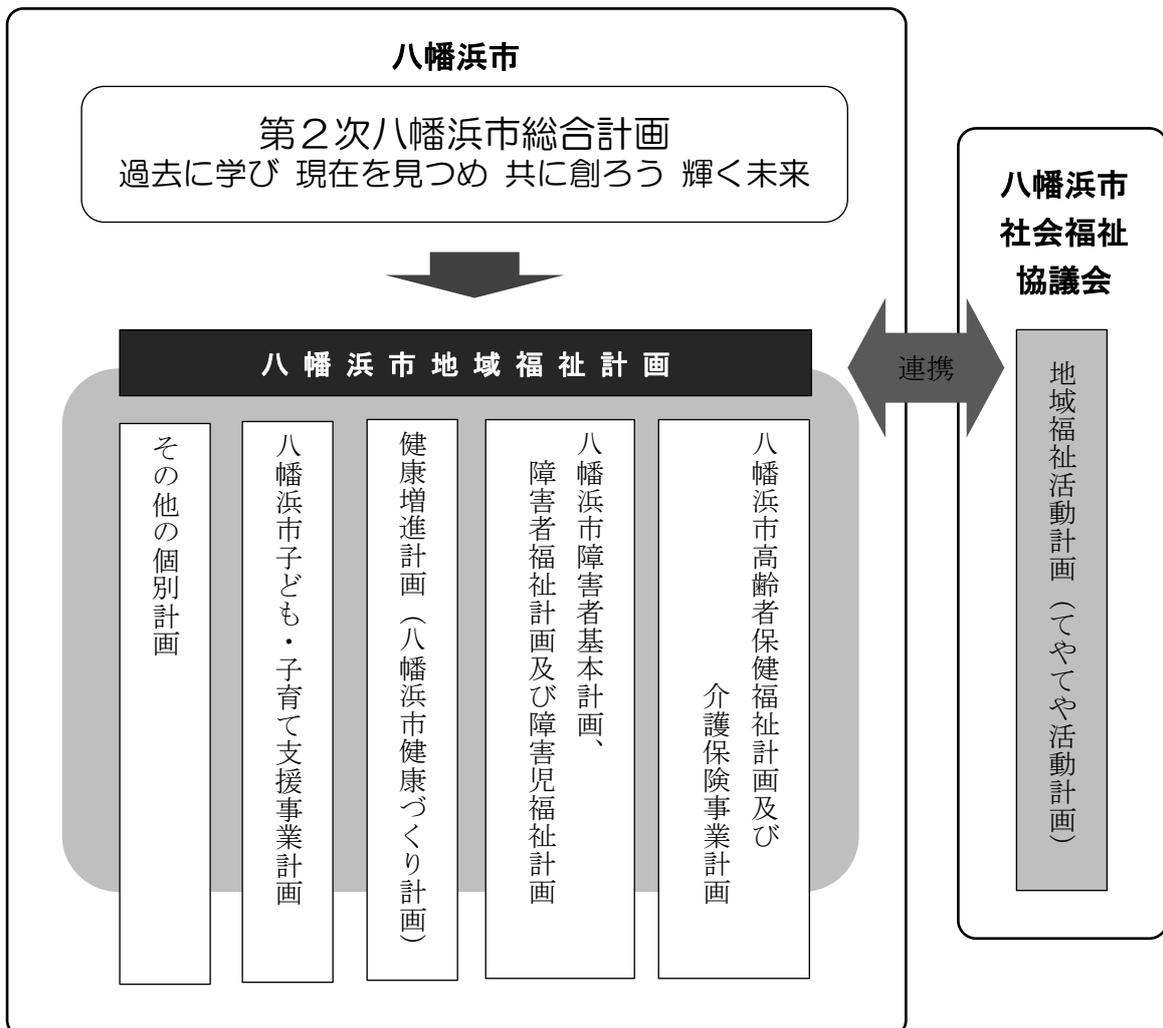
制度・分野ごとの「縦割り」や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が「我が事」として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて「丸ごと」つながることで、住民一人ひとりの暮らしを豊かにする生きがいのある地域を共に創っていく社会のこと。

## 【5】 計画の位置づけ

### (1) 地域福祉計画

地域福祉計画は、社会福祉法第107条に基づく市町村地域福祉計画です。地域福祉の推進のため、地域福祉活動への住民の参加を促し、住民の生活全般にわたる福祉の向上を図ることを目的とし、地域における生活課題を解決するため、高齢者や障害のある人、子育てなどの分野別の福祉施策を地域という視点でつなぐ役割があります。本計画は、八幡浜市総合計画に即して策定するもので、その他の関連計画との整合性及び連携を図り、これらの既存計画を内包する計画としており、平成30年に改正された社会福祉法により、地域福祉計画は福祉各分野の共通事項を記載した上位計画として位置づけられました。

また、本計画は、成年後見制度の利用の促進に関する法律第14条に基づく、市町村における「成年後見制度の利用の促進に関する施策についての基本的な計画」（成年後見制度利用促進基本計画）を包含したものとなっています（P91～93参照）。



## 【6】 計画の期間

本計画の期間は、令和2年度から令和6年度までの5年間とします。

なお、社会情勢や住民ニーズの変化などに対応するため、必要に応じて計画の見直しを行います。

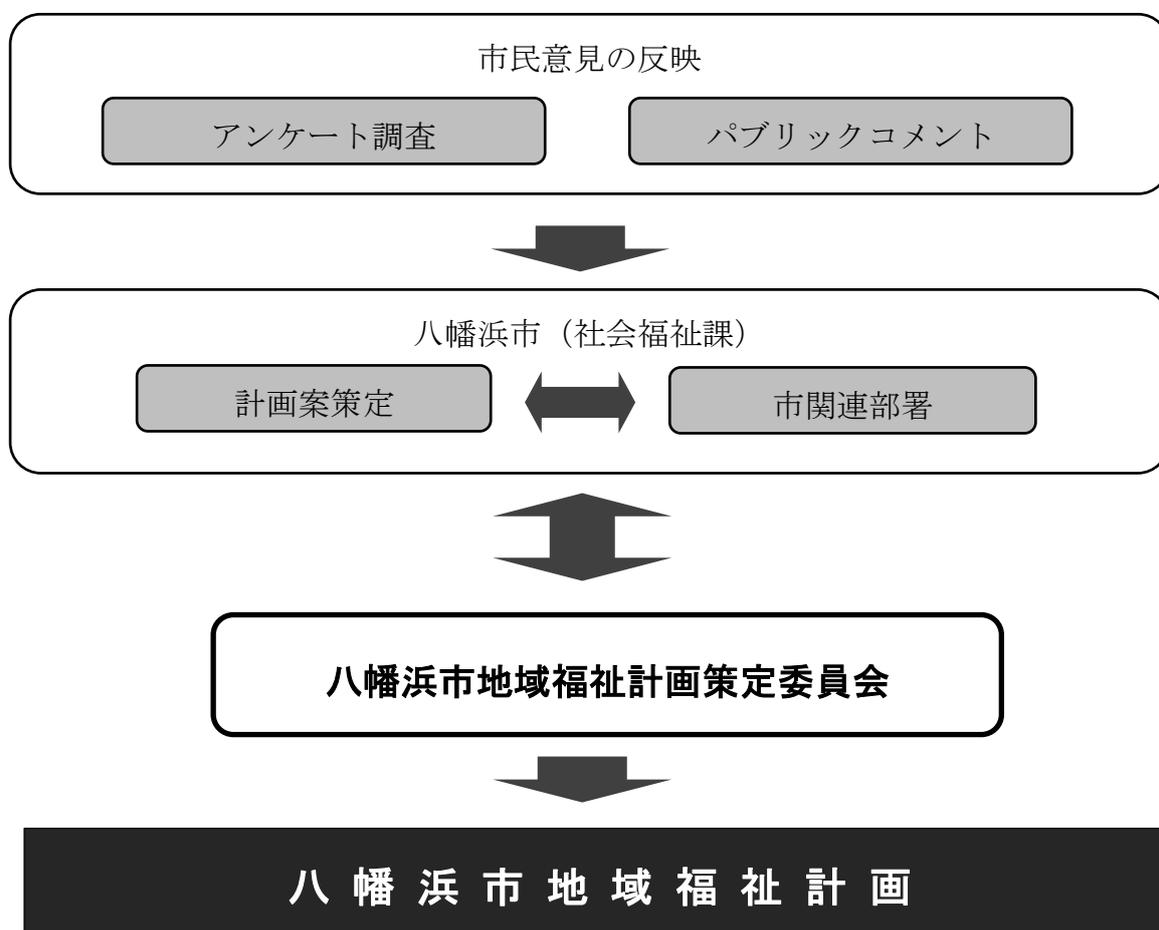
(計画の期間)

関連計画	2019 R1	2020 R2	2021 R3	2022 R4	2023 R5	2024 R6
八幡浜市総合計画	H28～R7 (第2次)					
八幡浜市地域福祉計画 成年後見制度利用促進基本計画		R2～R6 (第1期)				
八幡浜市高齢者保健福祉計画及び 介護保険事業計画	H30～R2 (第8次・第7期)		R3～R5 (第9次・第8期)			
八幡浜市障害者基本計画、 障害者福祉計画及び障害児福祉計画	H30～R2 (第4期・第5期・第1期)		R3～R5 (第5期・第6期・第2期)			
健康増進計画 (八幡浜市健康づくり計画)	H27～R1 (第2次)	R2～R6 (第3次)				
八幡浜市子ども・子育て支援事業計画	H27～R1 (第1期)	R2～R6 (第2期)				
八幡浜市自殺対策計画	H27～R1 (第1期)	R2～R6 (第2期)				

## 【7】 計画の策定体制

本計画の策定にあたっては、市民を対象としたアンケート調査を実施し、市役所内部の地域福祉に関する分野で施策の検討を行いました。

また、学識経験者や地域福祉に関する市内各種団体の代表者、社会福祉協議会職員などで構成する「八幡浜市地域福祉計画策定委員会」において審議をいただき、パブリックコメントの実施を通して、広く市民の意見を反映した計画策定に努めました。



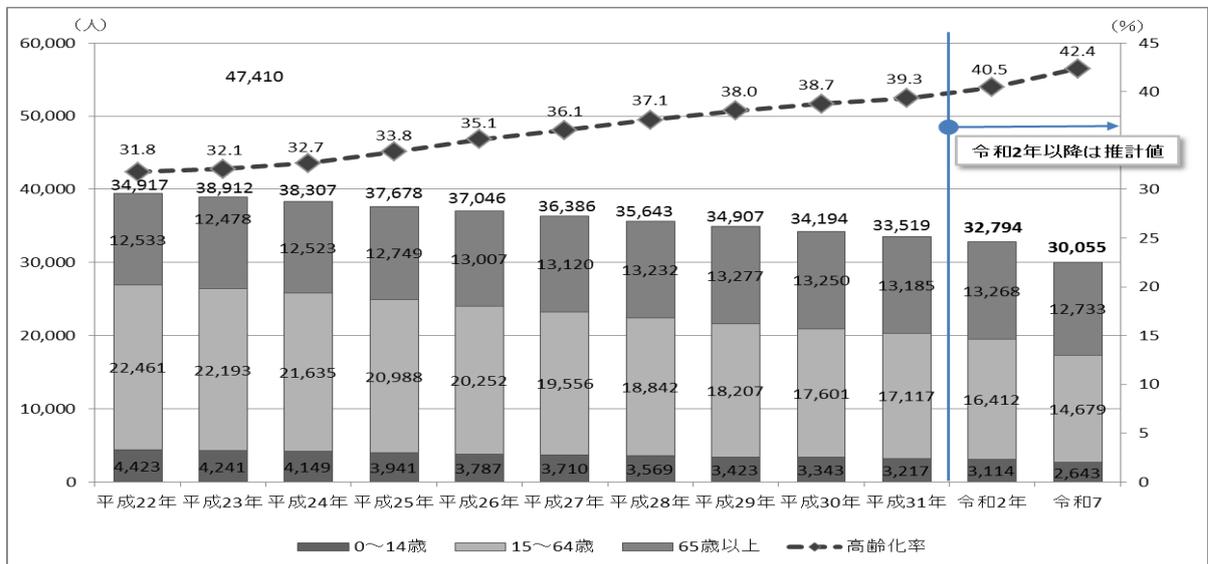
## 第2章 八幡浜市の現状

### 【1】 統計からみる八幡浜市の現状

#### (1) 人口・世帯の状況

本市の総人口は減少傾向が続いており、平成31年には33,519人となっています。年齢3区分別にみると、0～14歳の年少人口、15～64歳の生産年齢人口は減少傾向となっていますが、65歳以上の高齢者人口は増加傾向となっており、高齢化率の上昇も顕著となっています。

・総人口と高齢化比率の推移

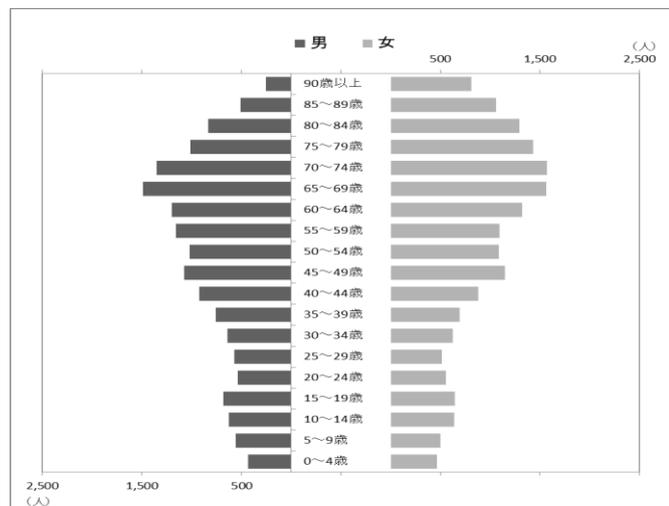


資料：住民基本台帳（各年4月1日）

#### (2) 人口ピラミッド

令和元年の人口ピラミッドをみると、65～70歳の高齢者人口の年齢層が総人口に占める割合が最も多く、続いて60～65歳の年齢層が多くなっています。

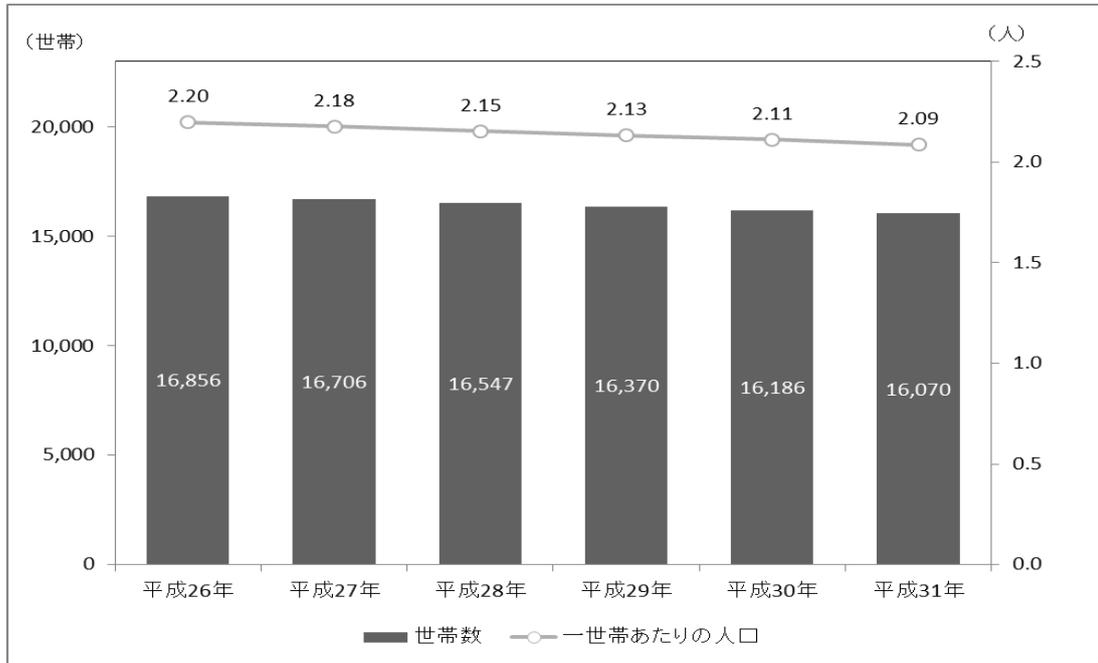
一方、0～14歳の年少人口は、乳児期にかけて減少しており、今後さらに少子高齢化が進行していくと予想されます。



資料：住民基本台帳（令和元年10月1日）

### (3) 世帯数

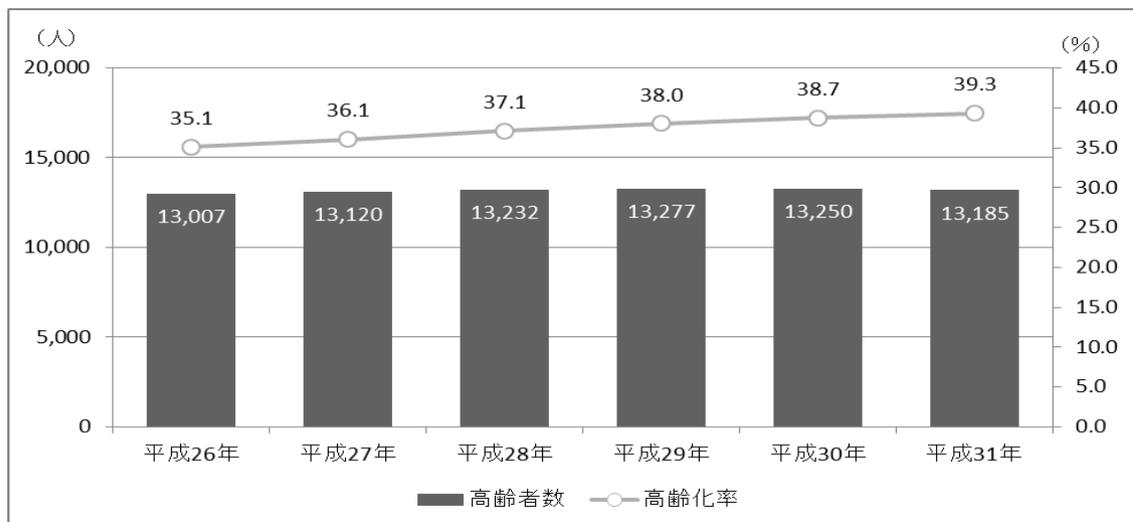
本市の世帯数・一世帯あたりの人口は、共に年々減少傾向にあり、ひとり暮らしや核家族が増加していると考えられます。



資料：住民基本台帳（各年4月1日）

### (4) 高齢者の状況

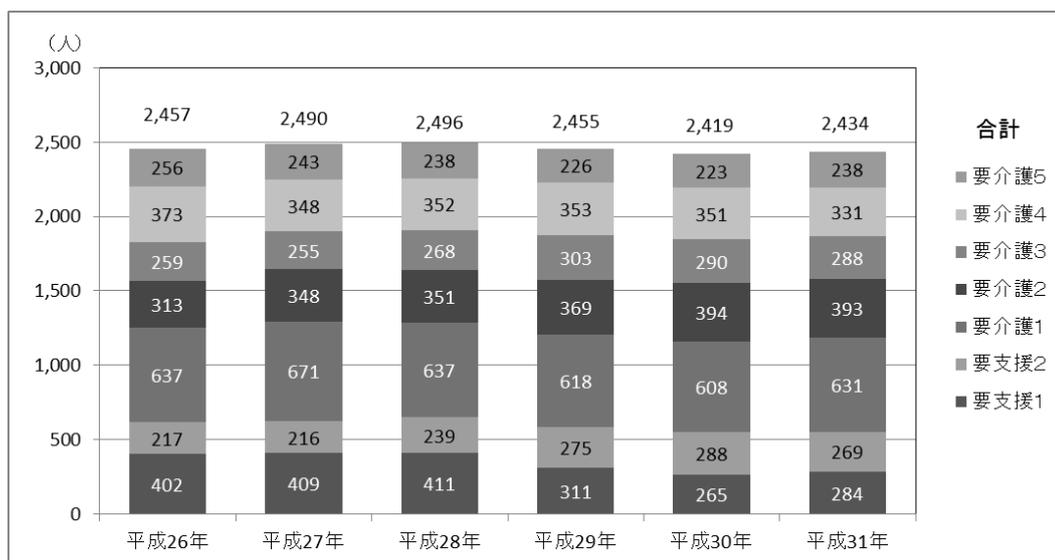
高齢者の人数は、年々増加しており、平成31年は13,185人となり、高齢化率は39.3%、人口の約4割が高齢者である状況です。



資料：住民基本台帳（各年4月1日）

## (5) 要介護認定者数

要介護（要支援）認定者数の推移をみると、近年では 2,400 人台で推移しており、平成 31 年では、高齢者人口のうち、約 18%が要介護認定を受けている状況です。

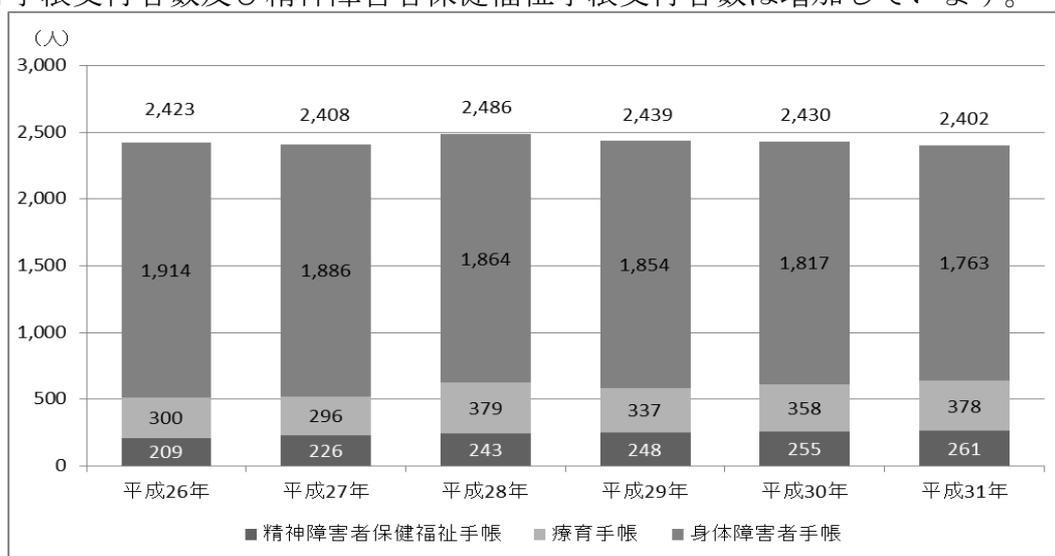


資料：介護保険事業状況報告（各年 4 月 1 日）

## (6) 各種障害者 手帳交付数

障害者手帳を交付されている人の数は、平成 29 年度からゆるやかに減少しており、平成 31 年度 2,402 人となっています。

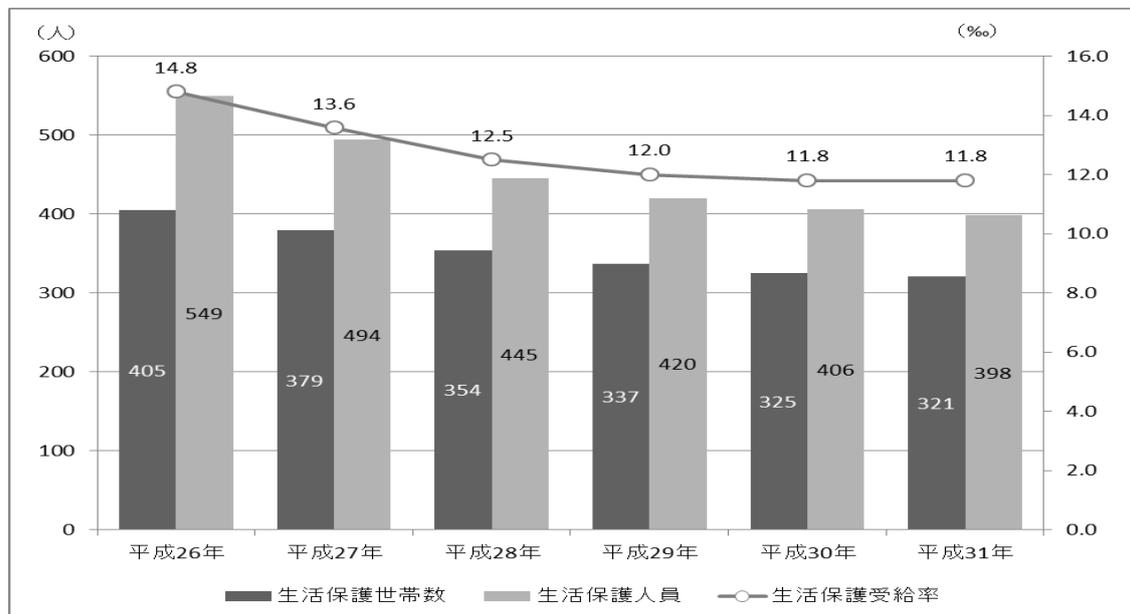
手帳の種類別にみると、身体障害者手帳交付者数は年々減少していますが、療育手帳交付者数及び精神障害者保健福祉手帳交付者数は増加しています。



資料：社会福祉課（各年 4 月 1 日）

## (7) 生活保護受給人員数・生活保護受給率

生活保護を受給している人数は、平成 26 年以降減少しており、平成 31 年は 398 人、人口の 11.8% (※) が受給している状況です。



資料：社会福祉課（各年 4 月 1 日）

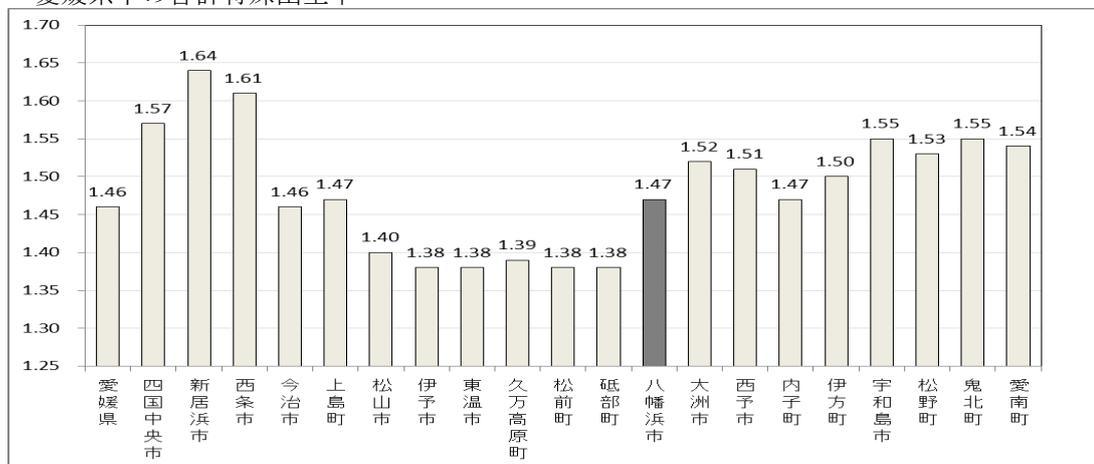
※ ‰ (パーミル) とは：

1,000 分の 1 を 1 とする単位のことです。

## (8) 少産化の動向

八幡浜市の合計特殊出生率は 1.47 となっており、愛媛県の 1.46 を上回っているが、県下 20 市町中 11 番目と決して高いほうではありません。

・愛媛県下の合計特殊出生率



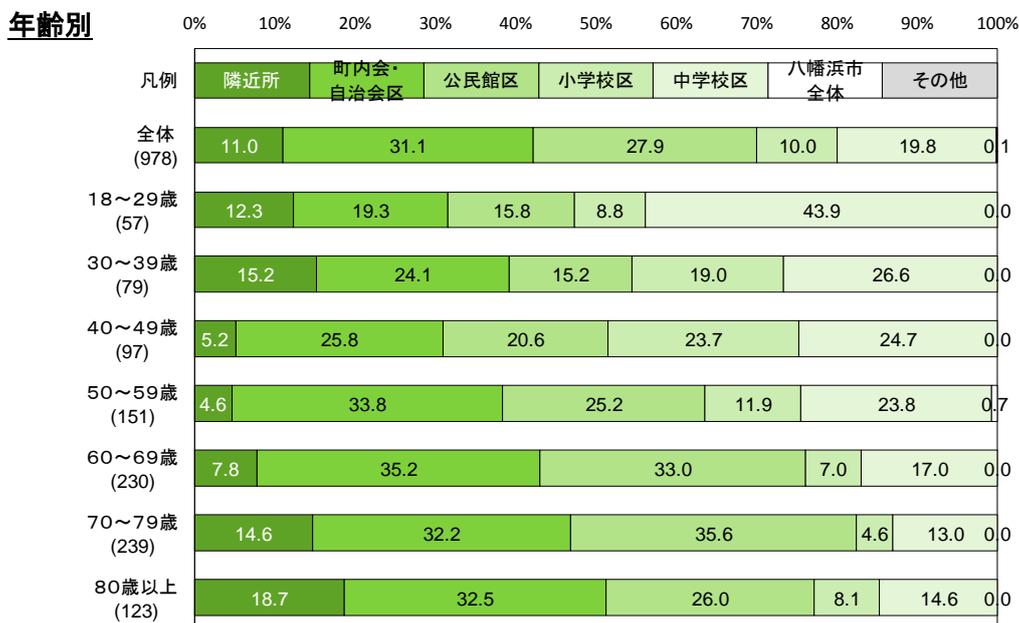
資料：合計特殊出生率地域別レポート（愛媛県平成 30 年 3 月）

## 【2】 アンケート調査結果からみる八幡浜市の現状

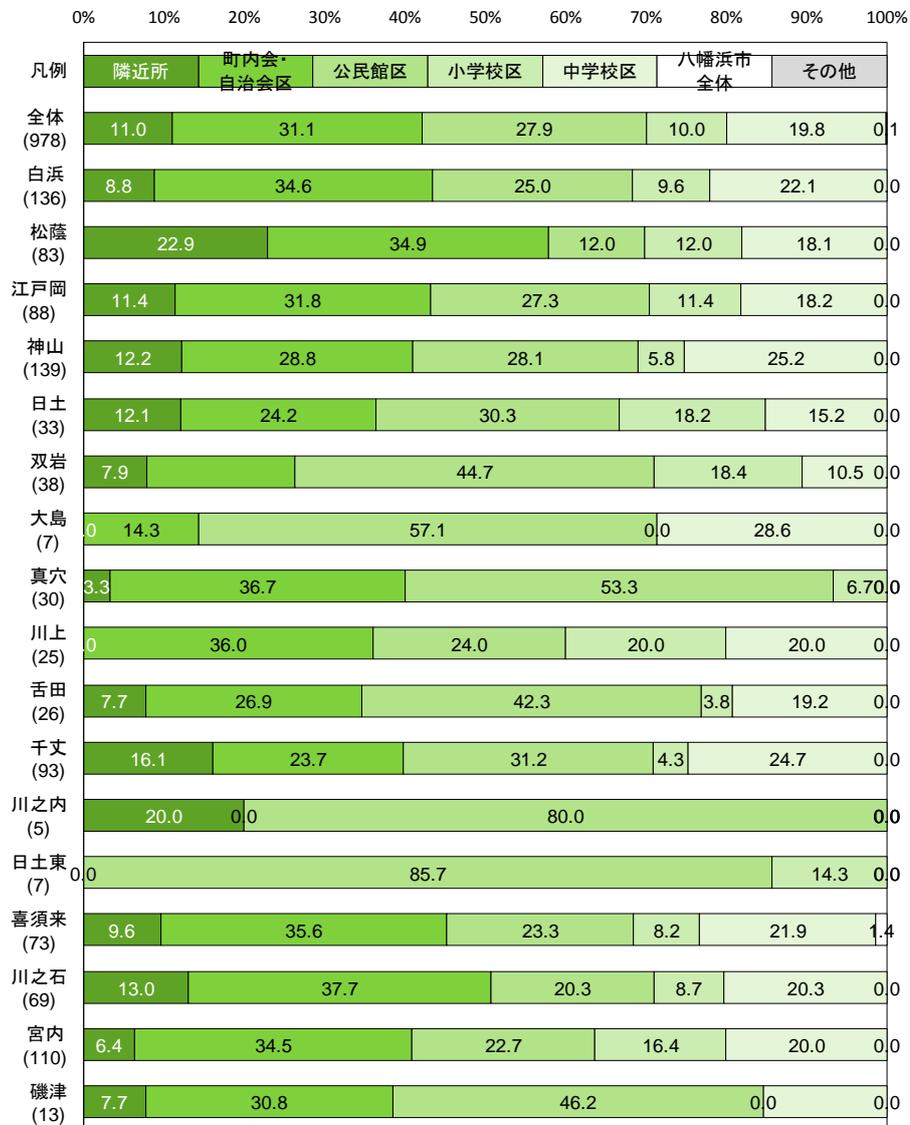
### ○市民向け調査の結果（抜粋）

問10 あなたにとって「地域」とは、どの範囲を思い浮かべますか。（○は1つ）

- 全体では、「町内会・自治会区」が31.1%と最も高く、「公民館区」(27.9%)、「中学校区」(10.0%)と続く。
- 性別では、順位に違いはみられないが、男性では「中学校区」の割合が高く、女性では「隣近所」の割合が高くなっており、女性の方が思い浮かべる範囲がやや狭いことがうかがえる。
- 年齢別では、年齢が若いほど「中学校区」の割合が高く、小学生ぐらいの子どもが多いと思われる30代～40代では「小学校区」の割合が高くなっている。



## 居住地別



### 考察 〈問10〉

- 高齢になるほど、「地域」として捉える範囲が小さくなる傾向がうかがえる。また、居住地によっても、「地域」として捉えられている範囲が異なっている。地域単位での活動を促したり、事業を計画したりするにあたっては、地域の単位も考慮しておくことが望ましいと考えられる。

※以降の設問では、「地域」は公民館区程度を想定して回答してもらってます。

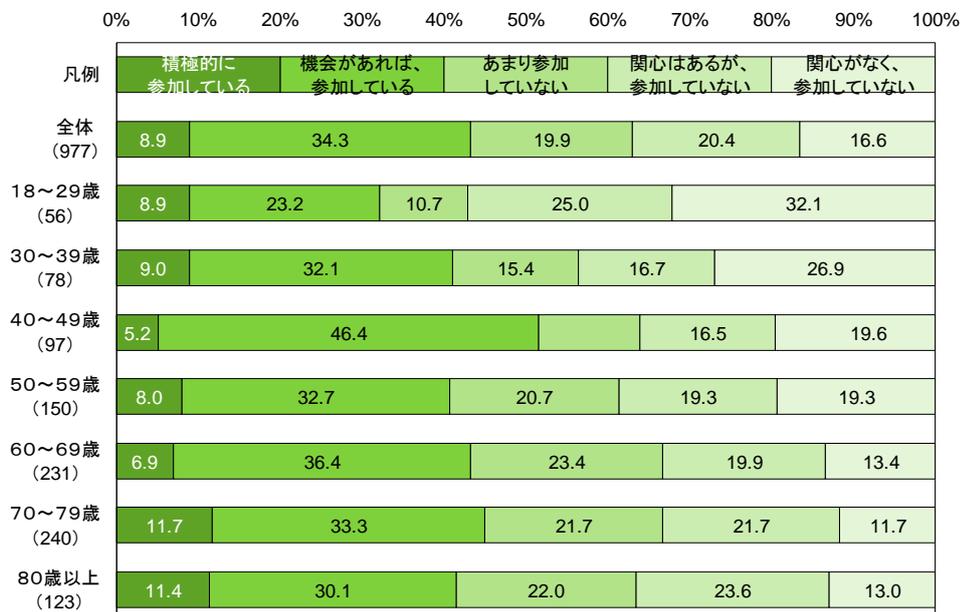
問11 あなたは、地域の行事や活動等に参加していますか。(〇は1つ)

- 全体では、「機会があれば、参加している」が34.3%と最も高く、「関心はあるが、参加していない」(20.4%)、「あまり参加していない」(19.9%)と続く。
- 性別では、大きな違いはみられないが、男性の方が「積極的に参加している」割合が高い一方で、「関心がなく、参加していない」も高くなっている。
- 年齢別では、年齢が若いほど「関心がなく、参加していない」の割合が高くなっているが、「積極的に参加している」人の割合は、年齢層に関係なく、概ね10%程度を占めている。

### 性別



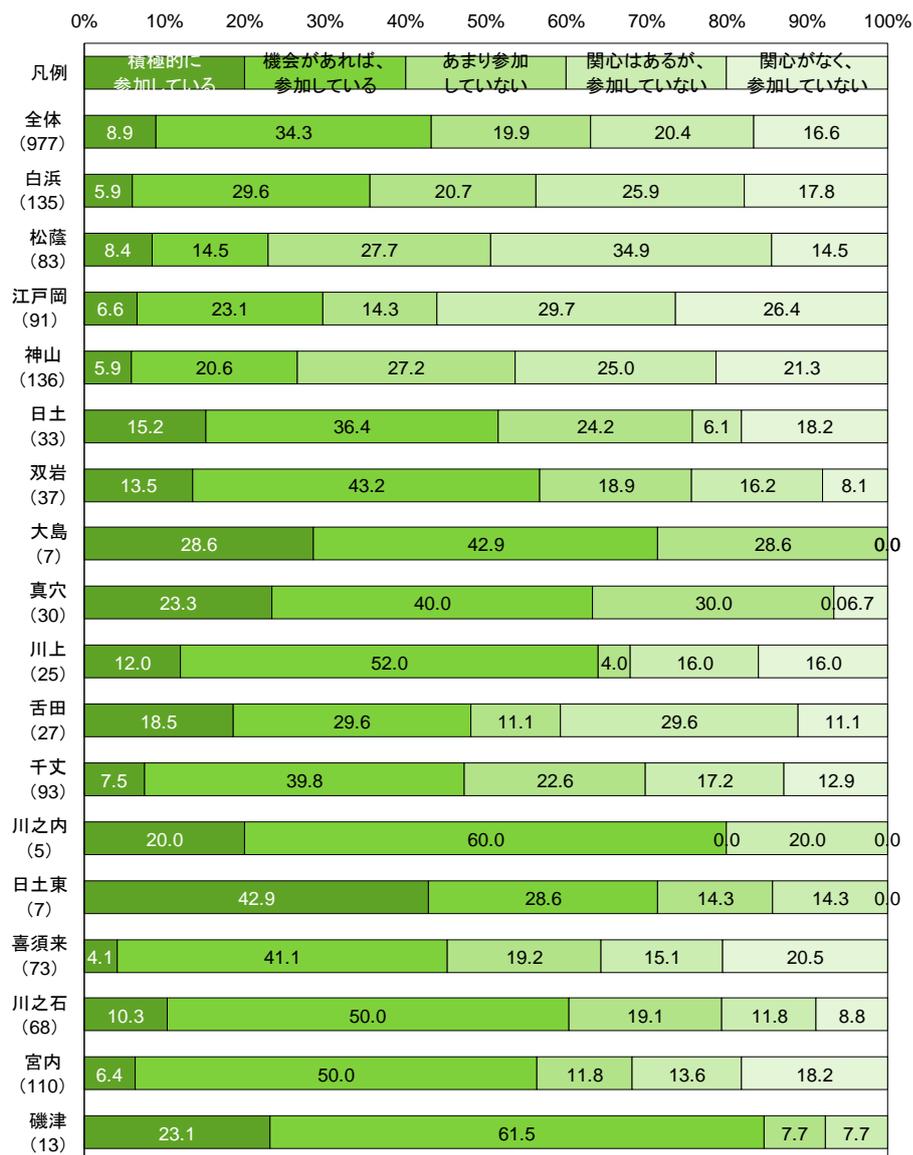
### 年齢別



【続き】(問11 あなたは、地域の行事や活動等に参加していますか。(〇は1つ))

- 居住地別では、旧八幡浜市の中心部及び周辺に位置する地区では、参加していない人の割合が高くなっている。特に、松蔭地区は「積極的に参加している」「機会があれば、参加している」を合わせた割合が22.9%と最も低い。

居住地別



【続き】(問11 あなたは、地域の行事や活動等に参加していますか。(〇は1つ))

●定住意向別では、地域の行事や活動等に参加している(「積極的に参加している」と「機会があれば、参加している」の合計)割合が高いほど、八幡浜市への定住意向が高い傾向がみられる。

※引っ越すつもりである、できるだけ早く引っ越したいの回答者数が少ないため、参考値としてみる必要あり

**定住意向別**



**考察〈問11〉**

●問11 地域の行事や活動に積極的に参加している人、機会があれば参加している人は、性別や年齢に関係なく40%程度存在しているが、年齢層が低いほど、無関心な人の割合が高くなっている。地区によっても参加率に差がみられ、特に、旧八幡浜市の中心部での参加率が低くなっている。

問13 問11で「4. 関心はあるが参加していない」を選んだ方におうかがいします。参加されない理由を教えてください。(〇は1つ)

- 地域活動等に参加していない理由としては、「仕事が忙しくて時間がない」が27.2%と最も高く、「健康や体力に自信がない」(19.5%)、「興味の持てる活動が見つからない」(13.3%)と続く。
- 年齢別では、若い年齢層ほど「仕事が忙しくて時間がない」の割合が高く、年齢層が上がるにつれて、「健康や体力に自信がない」や「興味の持てる活動が見つからない」の割合が高くなる傾向がみられる。
- 性別や居住地別では特に傾向はみられない。

	仕事が忙しい	家事や育児に忙しい	家族の理解がない	病人等の介護で時間がない	健康や体力に自信がない	行事や活動に関する情報がない	人間関係がわずらわしい	子どもをみてくれる人がいない	身近なところに活動の場がない	興味の持てる活動が見つからない	一緒に活動する仲間などがない	活動に経費がかかる	その他
全体(195)	27.2	0.5	1.0	6.2	19.5	8.7	5.1	0.5	2.1	13.3	8.7	0.5	6.7
男性(77)	35.1	0.0	0.0	6.5	19.5	6.5	3.9	1.3	0.0	11.7	9.1	0.0	6.5
女性(117)	22.2	0.9	1.7	6.0	19.7	10.3	5.1	0.0	3.4	14.5	8.5	0.9	6.8
18~29歳(14)	57.1	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	7.1	0.0	0.0	7.1	0.0	0.0	14.3
30~39歳(13)	38.5	0.0	0.0	0.0	7.7	7.7	15.4	0.0	0.0	7.7	23.1	0.0	0.0
40~49歳(16)	50.0	6.3	0.0	6.3	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3	0.0	6.3
50~59歳(29)	31.0	0.0	3.4	3.4	0.0	17.2	6.9	0.0	0.0	10.3	17.2	0.0	10.3
60~69歳(45)	26.7	0.0	2.2	11.1	4.4	6.7	8.9	0.0	2.2	17.8	8.9	0.0	11.1
70~79歳(51)	17.6	0.0	0.0	7.8	27.5	5.9	2.0	0.0	3.9	25.5	5.9	2.0	2.0
80歳以上(27)	7.4	0.0	0.0	3.7	63.0	11.1	0.0	3.7	3.7	0.0	3.7	0.0	3.7
白浜(34)	17.6	0.0	0.0	11.8	38.2	2.9	2.9	2.9	0.0	8.8	8.8	2.9	2.9
松蔭(29)	24.1	0.0	0.0	6.9	17.2	17.2	0.0	0.0	0.0	17.2	10.3	0.0	6.9
江戸岡(27)	22.2	0.0	3.7	3.7	7.4	11.1	7.4	0.0	7.4	14.8	14.8	0.0	7.4
神山(34)	32.4	0.0	0.0	2.9	17.6	8.8	5.9	0.0	0.0	11.8	14.7	0.0	5.9
日土(2)	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
双岩(6)	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0
大島(0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
真穴(0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
川上(4)	75.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
吉田(8)	25.0	0.0	0.0	12.5	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	12.5
千丈(14)	35.7	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	14.3	0.0	7.1	21.4	0.0	0.0	7.1
川之内(1)	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
日土東(1)	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
喜須来(10)	40.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	10.0
川之石(8)	12.5	0.0	0.0	0.0	62.5	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0
宮内(15)	26.7	0.0	6.7	6.7	13.3	13.3	0.0	0.0	0.0	13.3	6.7	0.0	13.3
磯津(1)	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

■は属性ごとに回答割合の高い上位3つ

### 考察〈問13〉

- 問13 参加しない理由として、「仕事が忙しい」が最も多いが、30代以下でみると、情報がない、活動する仲間や友人がないことが挙げられている。

問14 地域における活動や行事が、もっと活発に行われるようにしていくためには、  
どのようなことが大切だと思いますか。(あてはまる番号すべてに○)

- 全体的には「住民同士が今以上に助け合える関係をつくる」ことが55.1%と最も高く、「顔見知りの関係を広げる」(43.5%)、「交流の機会となる地域の行事をもっと増やす」(21.9%)と続く。
- 性別では特に傾向はみられない。
- 年齢別では、18～29歳では全体的に割合が高く、年齢層が若くなるにつれて、「新たに住む人との関係づくりを強化する」や「学校と住民の交流やつながりを深める」の割合が高くなる傾向がみられる。

	住民同士が今以上に助け合える関係をつくる	顔見知りの関係を広げる	新たに住む人との関係づくりを強化する	地域の自治会などの活動をもっと活発にしている	学校と住民の交流やつながりを深める	事業者と住民のつながりをもっと深める	交流の機会となる地域の行事をもっと増やす	その他	わからない
全体(804)	55.1	43.5	18.7	17.7	11.2	5.6	21.9	1.9	8.8
男性(312)	55.1	41.7	18.9	18.6	11.2	7.7	20.8	1.0	9.0
女性(475)	54.9	44.4	18.3	17.3	11.4	4.2	22.7	2.3	8.6
18～29歳(37)	59.5	64.9	27.0	24.3	24.3	13.5	32.4	2.7	0.0
30～39歳(57)	40.4	47.4	28.1	12.3	26.3	7.0	17.5	1.8	10.5
40～49歳(79)	48.1	41.8	20.3	17.7	26.6	7.6	25.3	0.0	8.9
50～59歳(124)	57.3	37.9	22.6	13.7	8.9	7.3	25.8	3.2	6.5
60～69歳(198)	59.6	40.9	16.7	16.2	10.1	4.5	21.2	1.0	8.6
70～79歳(207)	57.0	45.4	14.5	19.3	5.8	4.3	21.3	2.4	9.7
80歳以上(100)	51.0	43.0	17.0	23.0	2.0	3.0	16.0	2.0	13.0
白浜(109)	50.5	43.1	17.4	14.7	9.2	5.5	20.2	0.9	11.9
松蔭(71)	43.7	47.9	7.0	14.1	7.0	5.6	21.1	4.2	11.3
江戸岡(69)	50.7	52.2	30.4	23.2	17.4	7.2	30.4	4.3	5.8
神山(109)	56.0	41.3	15.6	13.8	7.3	4.6	20.2	0.0	8.3
日土(28)	60.7	35.7	10.7	17.9	10.7	7.1	21.4	3.6	3.6
双岩(33)	51.5	24.2	15.2	27.3	18.2	9.1	39.4	0.0	9.1
大島(7)	85.7	42.9	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3
真穴(26)	57.7	30.8	23.1	15.4	11.5	0.0	26.9	0.0	3.8
川上(20)	85.0	35.0	15.0	15.0	15.0	0.0	5.0	0.0	5.0
舌田(22)	81.8	54.5	13.6	18.2	4.5	9.1	9.1	0.0	4.5
千丈(81)	58.0	44.4	19.8	24.7	12.3	8.6	23.5	2.5	11.1
川之内(5)	60.0	40.0	20.0	40.0	20.0	0.0	20.0	0.0	20.0
日土東(6)	66.7	16.7	33.3	16.7	16.7	0.0	50.0	16.7	16.7
喜須来(57)	49.1	42.1	21.1	26.3	22.8	3.5	19.3	3.5	7.0
川之石(55)	54.5	45.5	29.1	10.9	9.1	3.6	16.4	0.0	10.9
宮内(92)	52.2	51.1	17.4	13.0	7.6	5.4	21.7	2.2	7.6
磯津(11)	72.7	36.4	27.3	18.2	18.2	9.1	18.2	0.0	9.1

■は属性ごとに回答割合の高い上位3つ

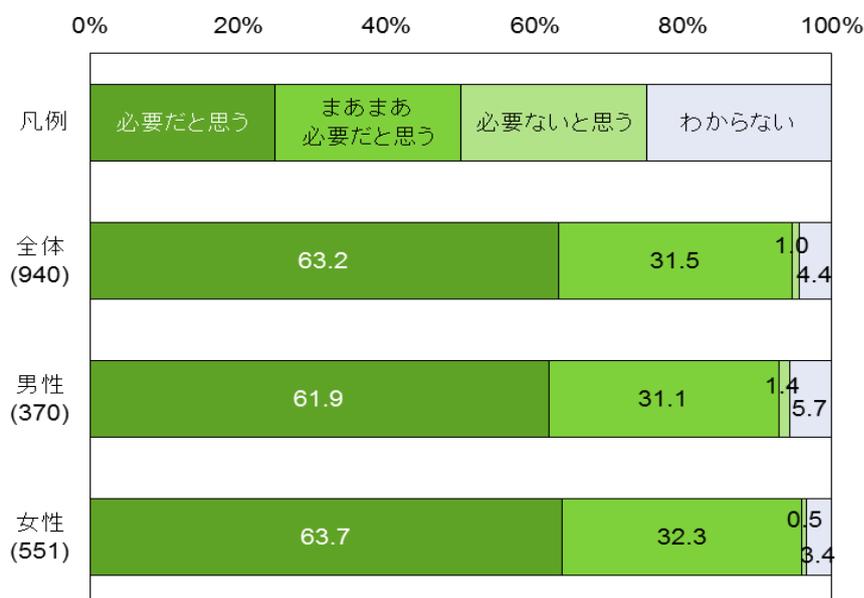
考察〈問14〉

- 問14 一方、地域活動等が活発になるために重要なこととして、若い層では、「顔見知りの関係を広げる」や「新たな住人との関係づくりの強化」、「地域行事の増加」などが挙げられている。

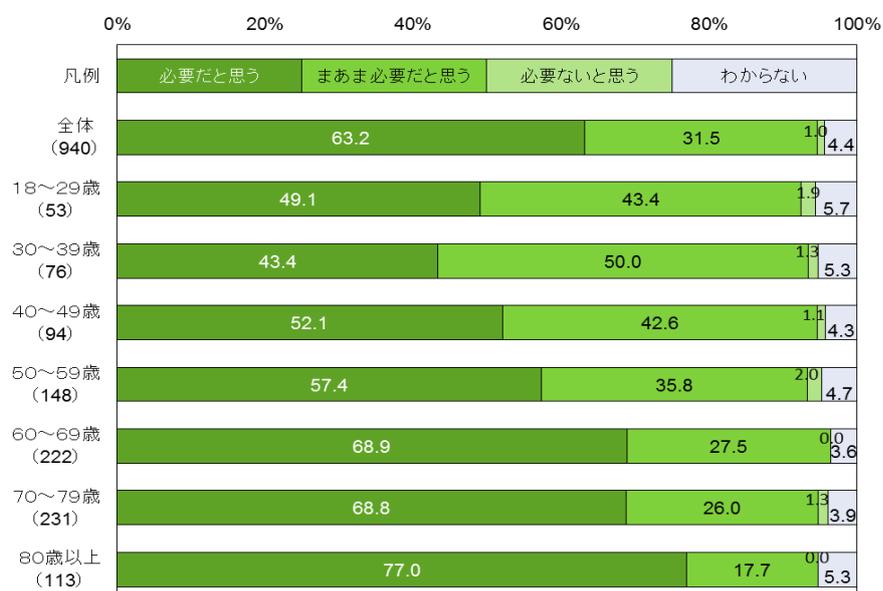
問15 あなたは、地域での人とのつきあいや関わり、助け合いが必要だと考えますか。  
(〇は1つ)

- 全体的には「必要だと思う」が63.2%と最も高く、「まあまあ必要だと思う」(31.5%)と合わせると95%近くの人が必要だと思っている。
- 性別では特に傾向はみられない。
- 年齢別では、「必要だと思う」と「まあまあ必要だと思う」を合わせた割合はどの年齢層も95%程度で変わらないが、年齢層が上がるにつれて、「必要だと思う」の割合が高まる傾向がみられる。

### 性別



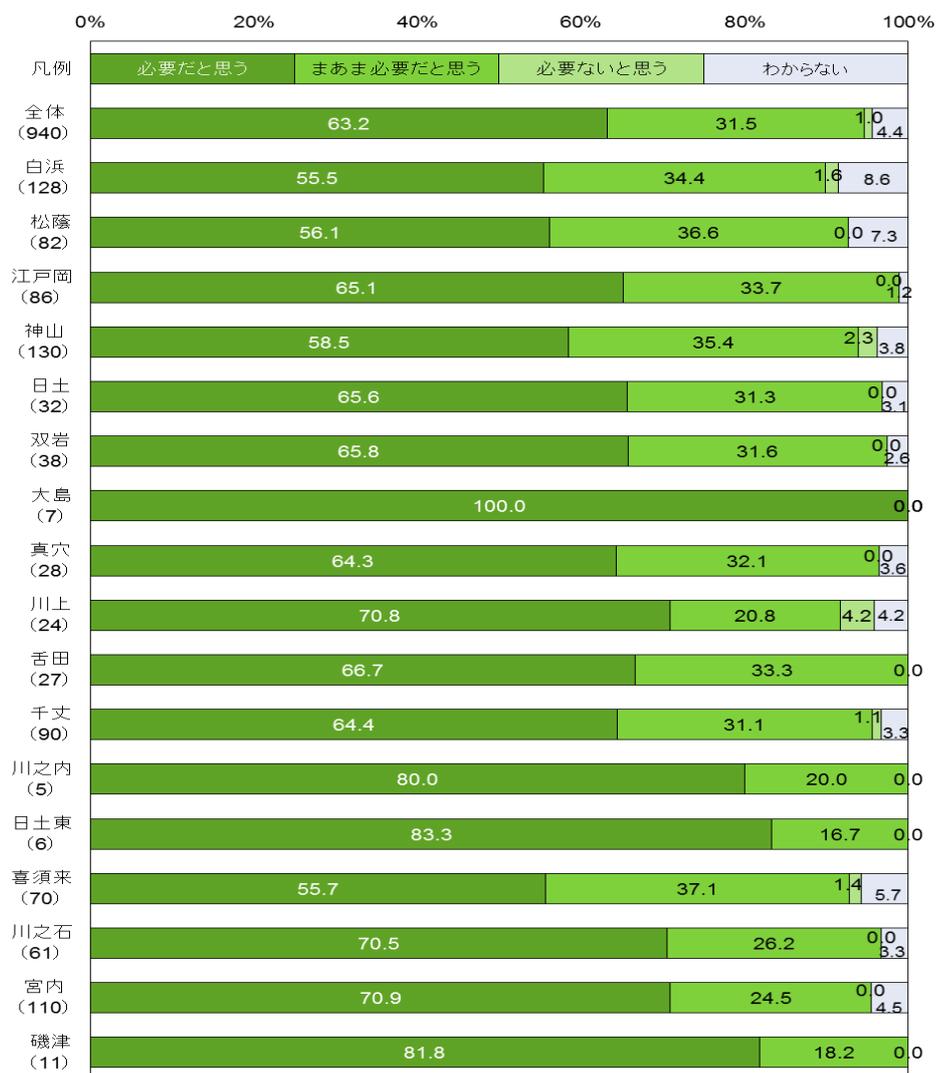
### 年齢別



【続き】(問15 あなたは、地域での人とのつきあいや関わり、助け合いが必要だと考えますか。(〇は1つ))

●居住地別では、特に傾向はみられない。

### 居住地別



#### 考察〈問15〉

- 問15 地域行事に対して無関心な人も一定程度みられるが、地域での人とのつきあいや助け合いは、年齢に関係なく90%程度の人が必要と感じている。
- 地域行事への参加率と定住意向には相関性がみられる(問11)ことから、住み続けられるまちづくりを推進していくにあたっては、地域内での人と人との交流や関係づくりを深めるような情報発信の充実、場の提供などが求められているとも考えられ、特に参加率の低い地区においては、それらへの対応が効果的と考えられる。

問16 問15で「1. 必要だと思う」「2. まあまあ必要だと思う」を選んだ方におうかがい  
 します。あなたは、どのようなときに地域との関わりや助け合いの必要性を感じま  
 すか。(あてはまる番号すべてに○)

- 全体的には「被災地での助け合い等の話題を聞いたとき」が58.1%と最も高く、「高齢者の孤独死等の事件を聞いたとき」(19.4%)、「近所で手助けが必要な人を見かけたとき」(13.9%)と続く。
- 性別では特に傾向はみられない。
- 年齢別では、大きな傾向はみられないが、「高齢者の孤独死等の事件を聞いたとき」の割合が、年齢層が高いほど高くなる傾向がみられる。
- 居住地別では、「地域の行事に参加したとき」の割合が、市の中心部の地区に比べ、それ以外の地区の方が高くなっている。

	被災地での助け 合い等の話題を 聞いたとき	高齢者の孤独死 等の事件を聞い たとき	子どもの虐待等 の話題を聞いた とき	近所での空き集 の被害等を聞い たとき	近所で手助けが 必要な人を見か けたとき	近所に気軽に相 談できる人がい ないとき	防犯防災活動な ど地域活動のこ とを聞いたとき	地域の行事に参 加したとき	地域になじめな い外国人を見か けたとき	その他
全体(873)	58.1	19.4	9.0	7.2	13.9	6.4	7.9	10.5	0.5	0.3
男性(339)	54.6	19.8	10.3	9.4	11.5	4.7	9.1	12.4	0.0	0.3
女性(517)	60.0	19.3	8.1	5.8	15.5	7.5	7.2	9.7	0.8	0.4
18～29歳(49)	57.1	16.3	10.2	6.1	12.2	4.1	2.0	6.1	0.0	0.0
30～39歳(71)	59.2	12.7	7.0	5.6	15.5	7.0	12.7	12.7	0.0	0.0
40～49歳(88)	69.3	26.1	14.8	8.0	9.1	6.8	11.4	11.4	1.1	0.0
50～59歳(137)	67.2	12.4	7.3	6.6	14.6	4.4	9.5	8.8	0.0	0.0
60～69歳(212)	59.9	16.5	9.4	8.5	13.7	6.6	8.0	11.3	0.5	0.9
70～79歳(212)	51.9	25.9	9.0	7.5	13.7	6.6	6.6	9.0	0.9	0.5
80歳以上(101)	43.6	21.8	6.9	5.0	16.8	8.9	5.0	14.9	0.0	0.0
白浜(113)	55.8	21.2	14.2	8.8	15.0	7.1	10.6	8.8	0.9	0.0
松蔭(73)	60.3	13.7	4.1	5.5	8.2	4.1	6.8	5.5	1.4	0.0
江戸岡(84)	65.5	20.2	10.7	9.5	10.7	8.3	8.3	4.8	1.2	0.0
神山(118)	55.9	17.8	9.3	5.1	11.9	9.3	5.9	7.6	0.0	0.8
日土(31)	48.4	12.9	12.9	9.7	19.4	3.2	6.5	3.2	0.0	0.0
双岩(37)	59.5	18.9	8.1	8.1	16.2	2.7	8.1	18.9	0.0	0.0
大島(7)	42.9	28.6	0.0	0.0	14.3	14.3	0.0	14.3	0.0	0.0
真穴(25)	40.0	8.0	12.0	0.0	28.0	12.0	8.0	16.0	0.0	0.0
川上(22)	63.6	4.5	9.1	4.5	9.1	4.5	4.5	22.7	0.0	0.0
舌田(27)	51.9	18.5	0.0	3.7	14.8	3.7	3.7	11.1	0.0	3.7
千丈(84)	64.3	25.0	9.5	8.3	14.3	7.1	8.3	14.3	1.2	0.0
川之内(5)	80.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0
日土東(6)	50.0	33.3	0.0	0.0	50.0	16.7	16.7	50.0	0.0	0.0
喜須来(64)	54.7	12.5	7.8	6.3	14.1	4.7	9.4	15.6	0.0	0.0
川之石(59)	59.3	27.1	8.5	13.6	18.6	3.4	11.9	10.2	0.0	0.0
宮内(104)	60.6	25.0	8.7	4.8	11.5	5.8	5.8	9.6	0.0	1.0
磯津(10)	40.0	30.0	0.0	20.0	10.0	10.0	20.0	20.0	0.0	0.0

■は属性ごとに回答割合の高い上位3つ

問17 今後、地域との関わりを深めたり、地域で助け合ったりするために、どのような場所が必要だと思いますか。(あてはまる番号すべてに○)

- 全体的には「高齢者から子どもまで、誰でも参加できる場所」が54.8%と最も高く、「暮らしに役に立つ情報が得られる」(34.8%)、「困りごとを相談できる人がいる場所」(30.8%)と続く。
- 性別では特に傾向はみられない。
- 年齢別では、どの年齢層も上位3つは概ね同じだが、18歳～39歳では「気軽に食事などができる場所」や「子育て中の親が気軽に悩みを話し合える場所」の割合が高く、年齢層が高いほど、「仲間と一緒に簡単な体操などができる場所」の割合が高くなっている。
- 居住地別では特に傾向はみられない。

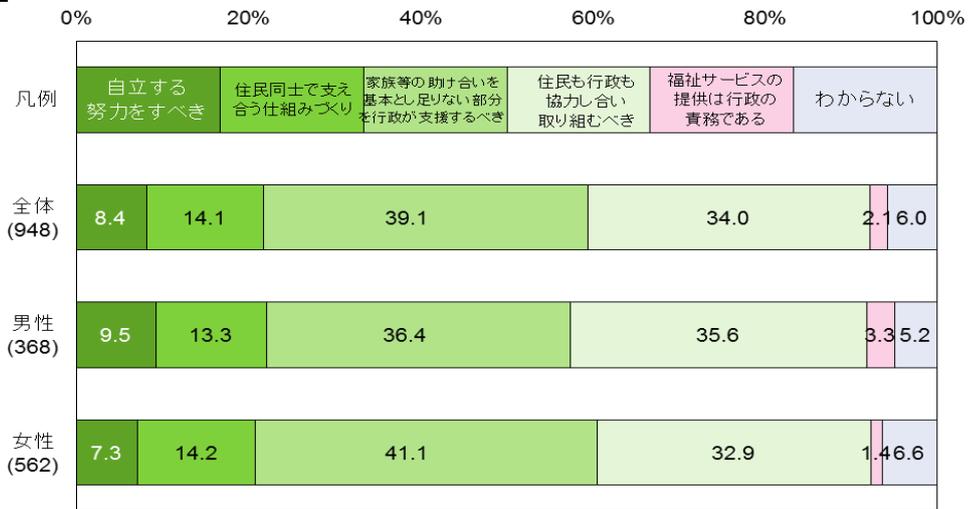
	高齢者から子どもまで、誰でも参加できる	いつでも開いていて、誰かがいる	気軽に食事などができる	困りごとを相談できる人がいる	送り迎えをしてもらえる	食料品などの買物ができる	子どもの学習支援をしてくれる人がいる	子育て中の親が気軽に悩みを話し合える	仲間と一緒に簡単な体操などができる	暮らしに役に立つ情報が得られる	その他	わからない
全体(904)	54.8	23.7	10.4	30.8	9.4	11.8	5.3	15.4	11.4	34.8	0.8	8.5
男性(345)	53.0	21.2	8.1	28.1	7.0	10.1	4.6	13.3	7.0	33.3	0.9	9.9
女性(542)	56.1	25.5	11.8	32.7	11.1	13.1	5.7	16.8	14.0	36.3	0.6	7.4
18～29歳(56)	64.3	32.1	21.4	30.4	14.3	16.1	8.9	25.0	8.9	21.4	0.0	3.6
30～39歳(73)	60.3	17.8	21.9	27.4	9.6	8.2	19.2	35.6	2.7	31.5	0.0	6.8
40～49歳(90)	57.8	18.9	6.7	26.7	5.6	4.4	7.8	18.9	2.2	35.6	1.1	14.4
50～59歳(143)	53.8	23.8	8.4	35.0	9.1	14.7	4.2	16.1	10.5	35.0	2.1	7.0
60～69歳(215)	54.4	26.0	7.0	31.2	8.8	8.8	3.3	14.0	7.0	40.9	0.0	8.8
70～79歳(216)	55.1	23.1	9.7	26.9	8.8	12.5	3.2	10.6	14.8	33.8	1.4	9.3
80歳以上(109)	44.0	22.0	10.1	37.6	12.8	19.3	1.8	5.5	16.5	33.9	0.0	7.3
白浜(119)	53.8	26.9	7.6	30.3	5.9	12.6	5.9	10.9	9.2	38.7	0.0	6.7
松蔭(74)	60.8	29.7	8.1	33.8	1.4	1.4	1.4	17.6	12.2	35.1	1.4	4.1
江戸岡(85)	61.2	31.8	11.8	37.6	7.1	4.7	7.1	20.0	11.8	37.6	2.4	9.4
神山(130)	49.2	16.9	5.4	27.7	10.0	12.3	5.4	10.8	8.5	34.6	0.8	9.2
日土(31)	58.1	25.8	9.7	35.5	16.1	19.4	0.0	9.7	19.4	29.0	0.0	3.2
双岩(33)	54.5	18.2	15.2	24.2	6.1	15.2	9.1	21.2	18.2	24.2	3.0	3.0
大島(7)	14.3	0.0	14.3	57.1	42.9	28.6	0.0	0.0	0.0	28.6	0.0	14.3
真穴(30)	40.0	26.7	6.7	26.7	6.7	20.0	6.7	26.7	10.0	30.0	0.0	10.0
川上(25)	44.0	28.0	20.0	28.0	12.0	20.0	4.0	12.0	8.0	24.0	0.0	12.0
舌田(26)	65.4	19.2	7.7	38.5	11.5	3.8	3.8	15.4	11.5	26.9	0.0	19.2
千丈(88)	55.7	23.9	10.2	36.4	17.0	12.5	9.1	19.3	13.6	38.6	0.0	9.1
川之内(3)	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0
日土東(7)	42.9	42.9	14.3	28.6	28.6	42.9	0.0	0.0	28.6	28.6	0.0	14.3
喜須来(66)	43.9	16.7	10.6	31.8	13.6	12.1	7.6	19.7	7.6	42.4	1.5	10.6
川之石(61)	50.8	24.6	14.8	23.0	6.6	13.1	1.6	11.5	13.1	29.5	0.0	11.5
宮内(103)	67.0	23.3	15.5	27.2	5.8	13.6	4.9	17.5	11.7	36.9	1.0	5.8
磯津(12)	58.3	16.7	16.7	33.3	25.0	8.3	8.3	16.7	16.7	25.0	0.0	25.0

■は属性ごとに回答割合の高い上位3つ

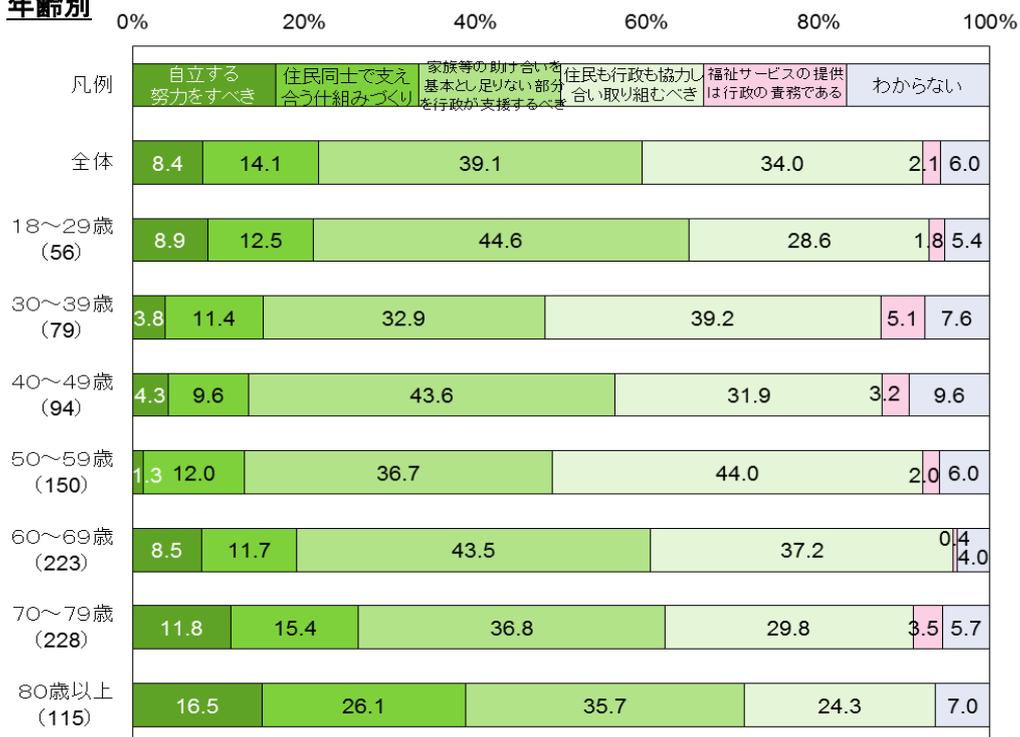
問18 あなたは、地域における福祉について市民と行政との関係はどうあるべきか、あなたの考えは次のどれに近いですか。(〇は1つ)

- 全体的には「家族等の助け合いを基本とし足りない部分を行政が支援するべき」が39.1%と最も高く、「住民も行政も協力し合い取り組むべき」(34.0%)、「住民同士で支え合う仕組みづくり」(14.1%)と続く。
- 性別では特に傾向はみられない。
- 年齢別では、年齢層が高くなるほど「自立する努力をすべき」や「住民同士で支え合う仕組みづくり」の割合が高くなる傾向がみられ、自助・共助の意識が高くなっていることがうかがえる。

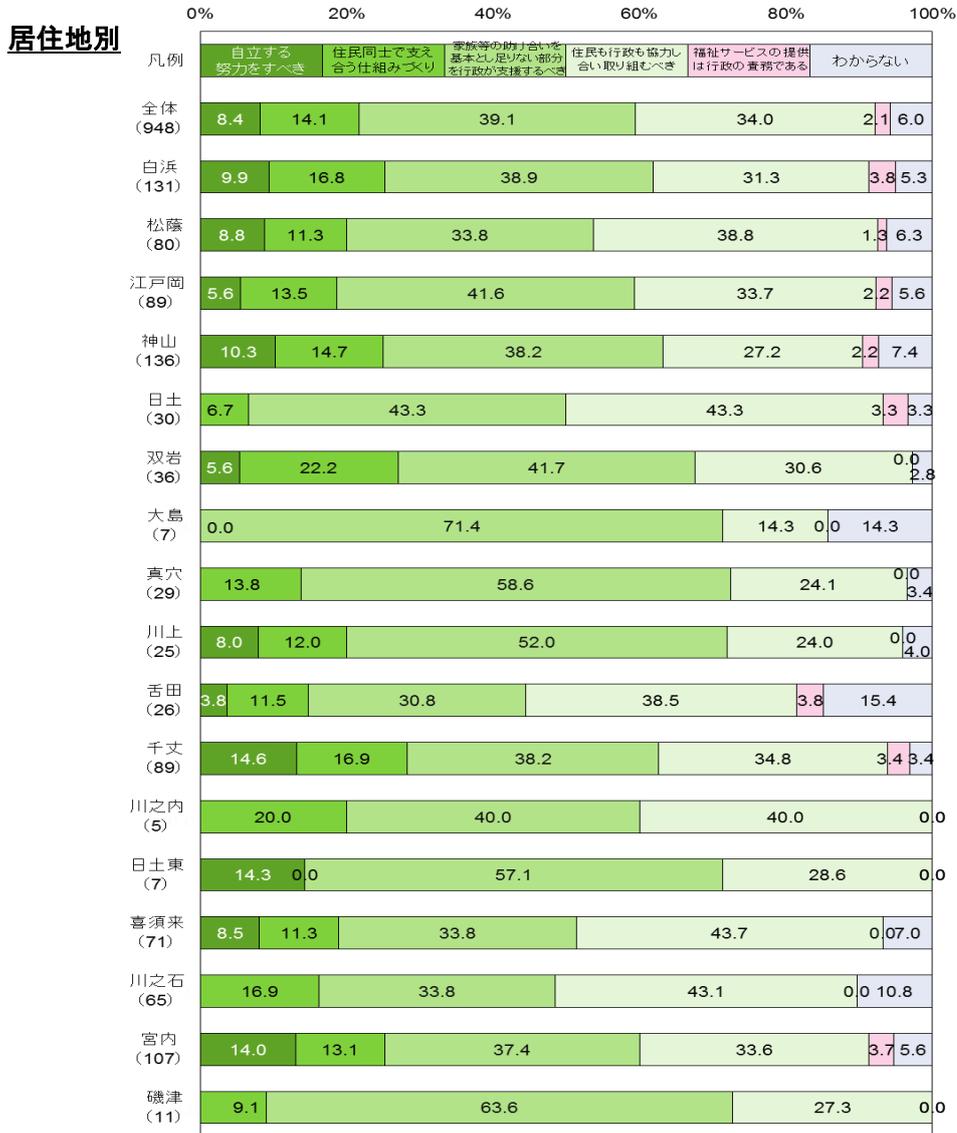
**性別**



**年齢別**



●居住地別では、「自立する努力をすべき」や「住民同士で支え合う仕組みづくり」の自助・共助の意識が強い地域(例. 千丈、双岩、宮内等)がある一方で、「住民と行政が協力し合い取り組むべき」という公民連携の意識が強い地域(例. 喜須来、川之石、日土等)がある。



**考察〈問18〉**

- 一億総活躍社会づくりが進められる中、福祉分野においても、「支え手」と「受け手」に分かれるのではなく、地域のあらゆる住民が役割を持ち、支えながら、自分らしく活躍できるコミュニティを育成し、公的なサービスと協働して助け合いながら暮らすことのできる「地域共生社会」の実現が求められている。
- 本設問の結果からは、回答者の半数以上が「自助」や「共助」を主として、足りない部分を「公助」で支援していくのが望ましいと回答を行っているが、若年層においては、その回答割合がやや少ない傾向がみられる。地域福祉を“我が事”として考えることを理解してもらえよう、よりわかりやすく身近に感じられるような情報提供等が求められると考えられる。

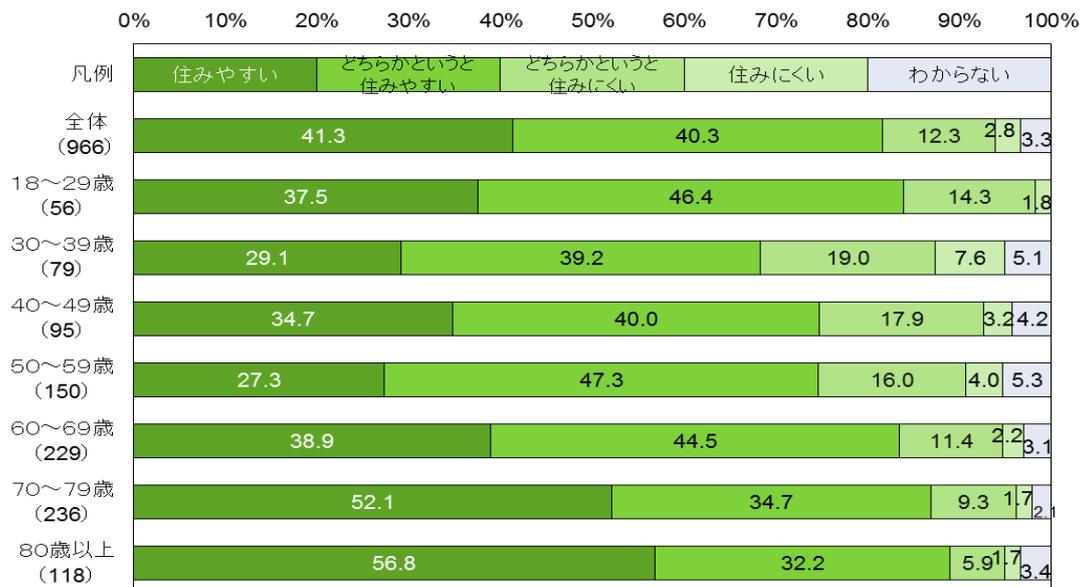
問19 お住まいの地域は、住みやすい地域だと思いますか。(〇は1つ)

- 全体的には「住みやすい」と「どちらかというに住みやすい」を合わせると80%程度となり、住みやすいと感じている市民が多いことがうかがえる。
- 性別では特に傾向はみられない。
- 年齢別では、30代、40代、50代で特に「どちらかというに住みにくい」「住みにくい」の割合が高くなっており、20%近くに達している。一方、60代以上になると、年齢層が高くなるほど「住みやすい」の割合が高くなってきている。

**性別**



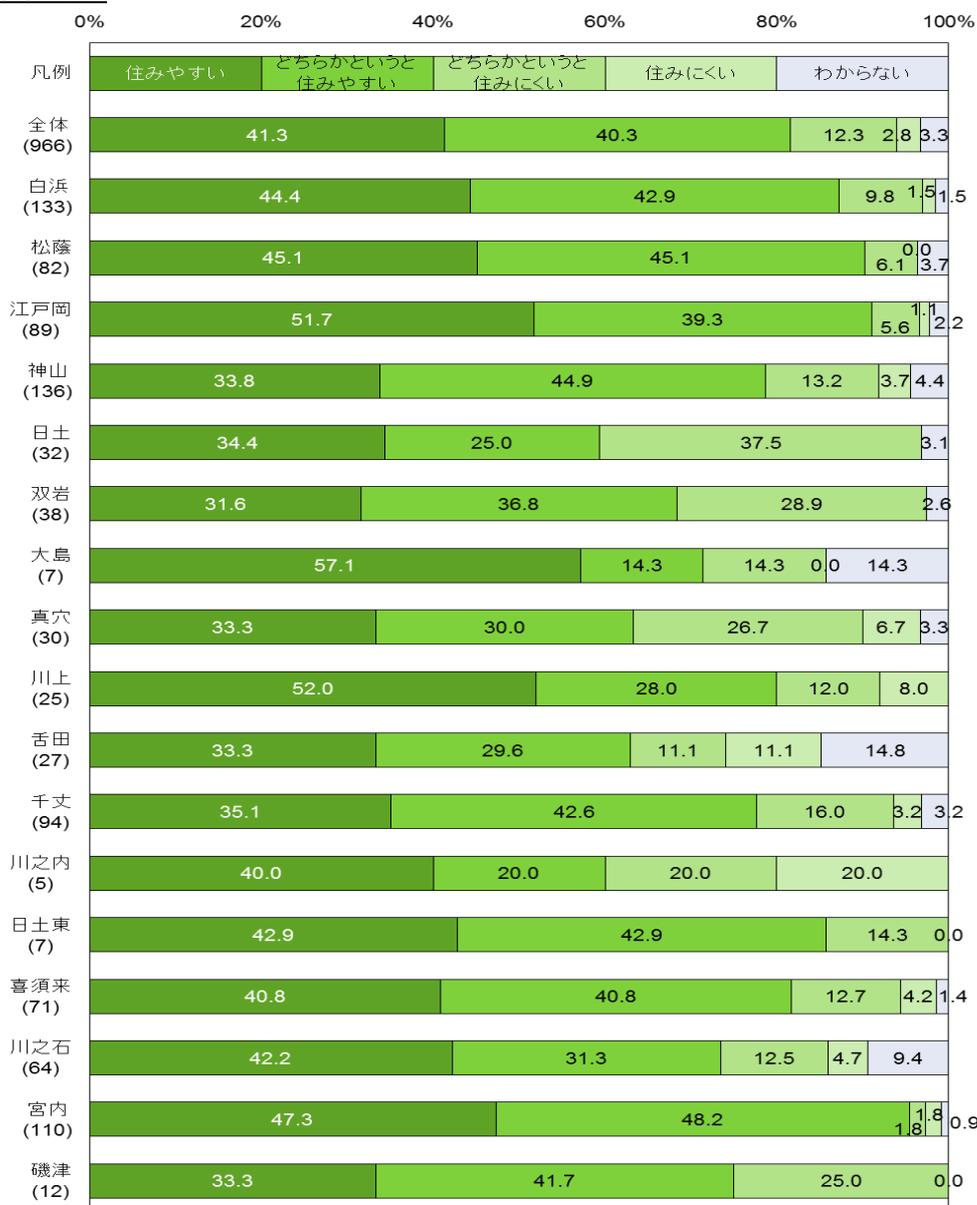
**年齢別**



【続き】(問19 お住まいの地域は、住みやすい地域だと思いますか。(〇は1つ))

- 居住地別では、江戸岡地区、松蔭地区、白浜地区のように、「住みやすい」と「どちらか」というと住みやすい」の合計が90%程度を占める地区がある一方で、日土地区、双岩地区、真穴地区のように、「住みにくい」と「どちらか」というと住みにくい」の合計が30%程度を占める地区がみられ、旧市町の中心部に近い地区ほど、住みやすいと感じる人の割合が高い。

居住地別



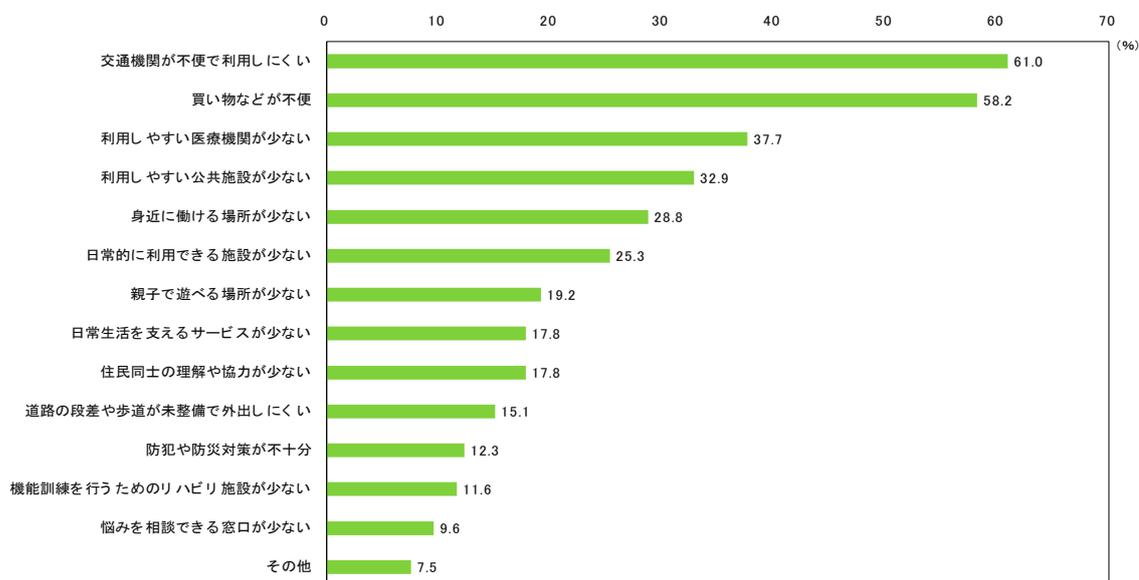
考察〈問19〉

- 問19 本市での暮らしに関して、80%程度の人が住みやすいと感じている。

問20 問19で「3. どちらかというに住みにくい」「4. 住みにくい」を選んだ方におうかがいします。住みにくい理由を教えてください。(あてはまる番号すべてに〇)

- 「どちらかというに住みにくい」「住みにくい」の理由としては、「交通機関が不便で利用しにくい」が61.0%と最も割合が高く、「買物などが不便」(58.2%)、「利用しやすい医療機関が少ない」(37.7%)と続く。
- 性別では、上位3つは変わらないが、男性の「身近に働ける場所が少ない」の割合が高く、女性の「日常生活を支えるサービスが少ない」の割合が高くなっている。
- 年齢別では、30～59歳に「住みにくい」の割合が高くなっており、20%近くに達している。一方、60代以上になると、年齢層が高くなるほど「住みやすい」の割合が高くなっている。

※居住地別については、各居住地の回答数が少ないため、分析の対象外



	買物などが不便	交通機関が不便で利用しにくい	利用しやすい公共施設が少ない	利用しやすい医療機関が少ない	日常生活を支えるサービスが少ない	日常的に利用できる施設が少ない	住民同士の理解や協力が少ない	悩みを相談できる窓口が少ない	親子で遊べる場所が少ない	防犯や防災対策が不十分	道路の段差や歩道が未整備で外出しにくい	身近に働ける場所が少ない	機能訓練を行うためのリハビリ施設が少ない	その他
全体(146)	58.2	61.0	32.9	37.7	17.8	25.3	17.8	9.6	19.2	12.3	15.1	28.8	11.6	7.5
男性(51)	62.7	60.8	31.4	33.3	9.8	21.6	21.6	7.8	21.6	9.8	11.8	23.5	7.8	5.9
女性(93)	55.9	61.3	34.4	39.8	21.5	28.0	15.1	9.7	18.3	14.0	17.2	32.3	14.0	8.6
18～29歳(9)	66.7	66.7	55.6	44.4	11.1	44.4	11.1	11.1	22.2	22.2	11.1	22.2	22.2	0.0
30～39歳(21)	66.7	57.1	47.6	47.6	28.6	38.1	4.8	19.0	47.6	19.0	14.3	57.1	14.3	9.5
40～49歳(20)	50.0	60.0	20.0	35.0	10.0	35.0	25.0	5.0	15.0	5.0	20.0	15.0	5.0	15.0
50～59歳(30)	63.3	63.3	40.0	46.7	20.0	30.0	13.3	13.3	30.0	16.7	20.0	46.7	20.0	3.3
60～69歳(31)	54.8	64.5	35.5	32.3	12.9	12.9	19.4	0.0	6.5	9.7	9.7	35.5	6.5	9.7
70～79歳(26)	46.2	61.5	19.2	30.8	19.2	11.5	30.8	11.5	7.7	11.5	15.4	0.0	7.7	7.7
80歳以上(9)	77.8	44.4	11.1	22.2	22.2	22.2	11.1	11.1	0.0	0.0	11.1	0.0	11.1	0.0

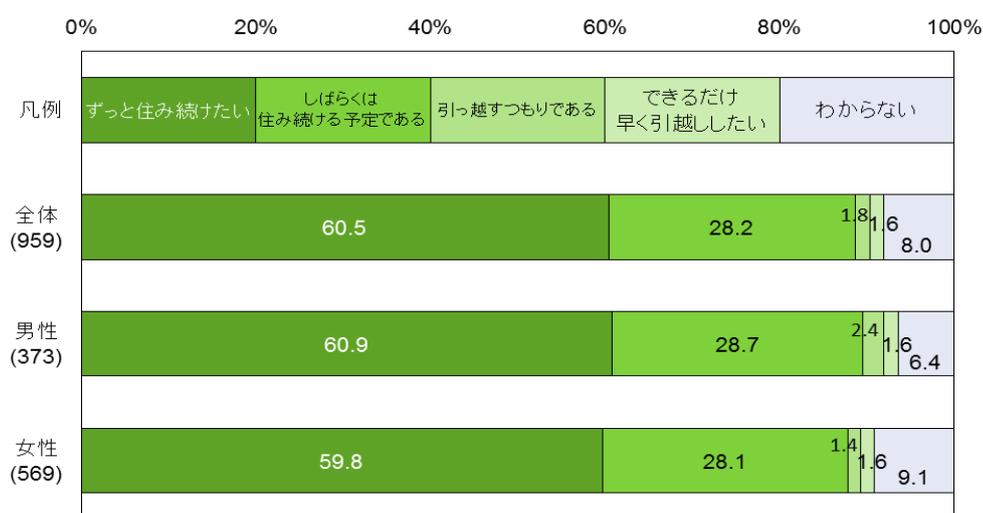
考察〈問20〉

●問20 住みにくさの主な要因としては、交通や買物の利便性が挙げられているが、医療機関の少なさや子どもが遊べる場の不足なども比較的割合が高くなっている。

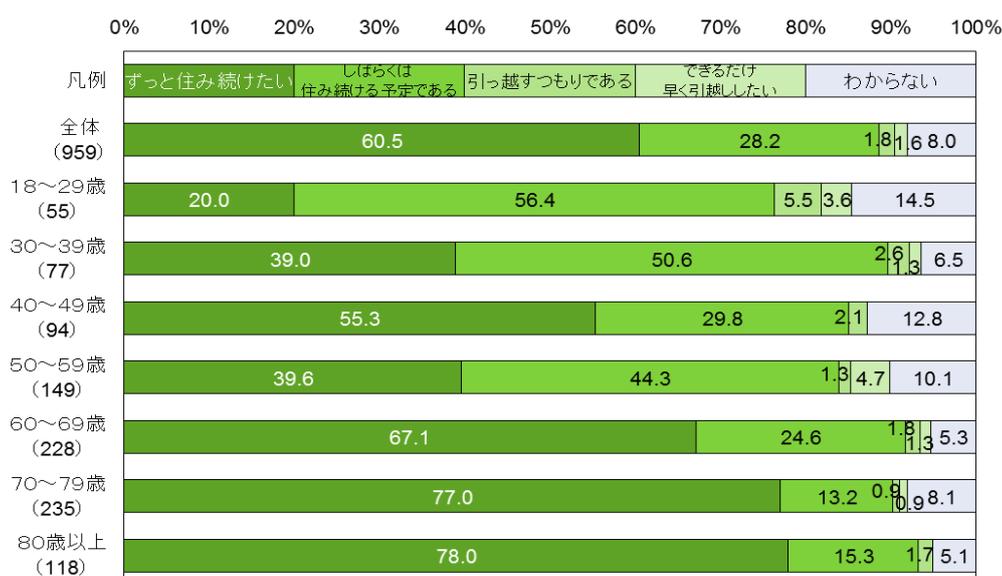
問21 現在お住まいの地域に今後も住みたいと思いますか。(○は1つ)

- 全体的には「ずっと住みたい」と「しばらくは住み続ける予定である」という人が90%程度いる。
- 性別では特に傾向はみられない。
- 年齢別では、年齢層が低いほど、「ずっと住みたい」の割合が低くなっており、70代、80代以上では80%程度と高いが、18～29歳では20%と4分の1程度となっている。年齢によって定住意向の高さが大きく異なっている。

**性別**



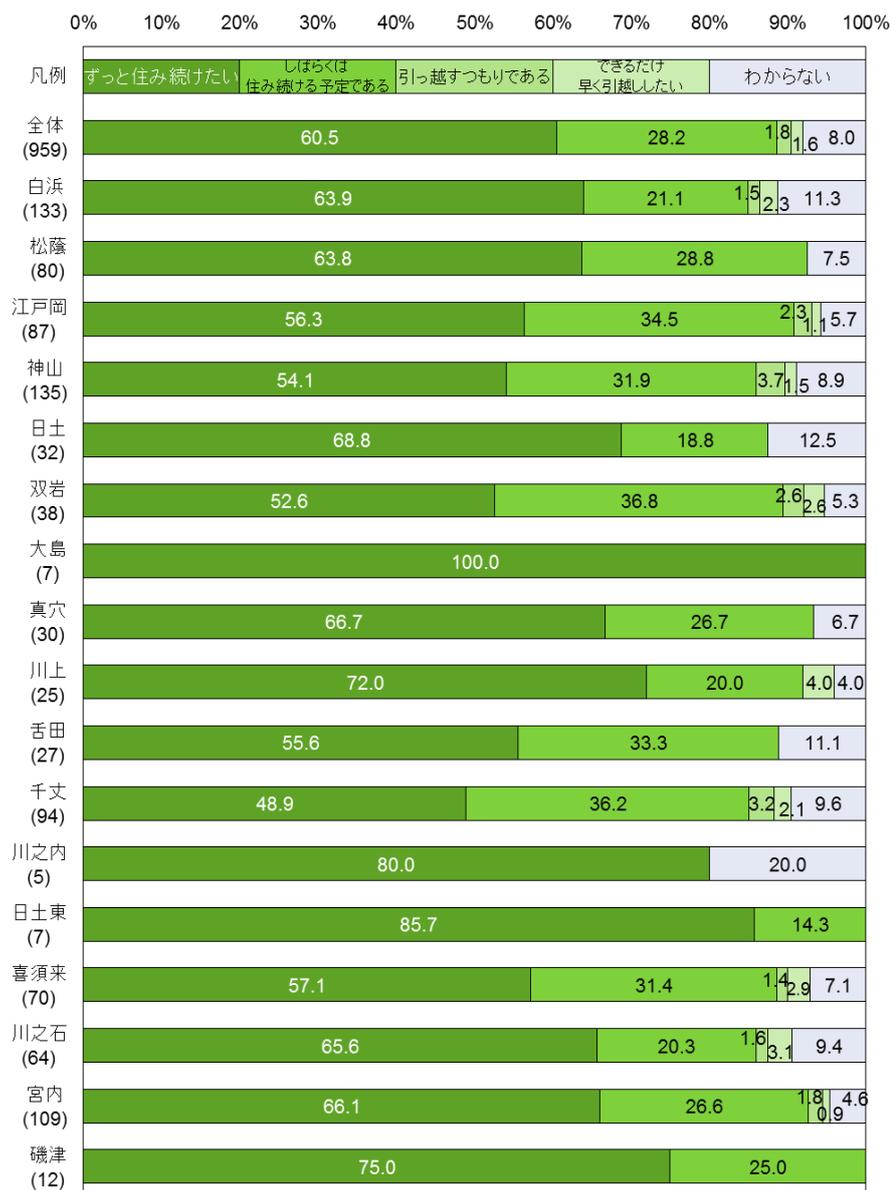
**年齢別**



【続き】(問21 現在お住まいの地域に今後も住み続けたいと思いますか。(〇は1つ))

- 居住地別では、特に傾向はみられないが、「ずっと住み続けたい」の割合が低い地区(例. 千丈-48.9%等)と高い地区(例. 磯津-75%等)との間で、26%程度の開きがみられ、地区によって定住意向に差がみられる。

居住地別



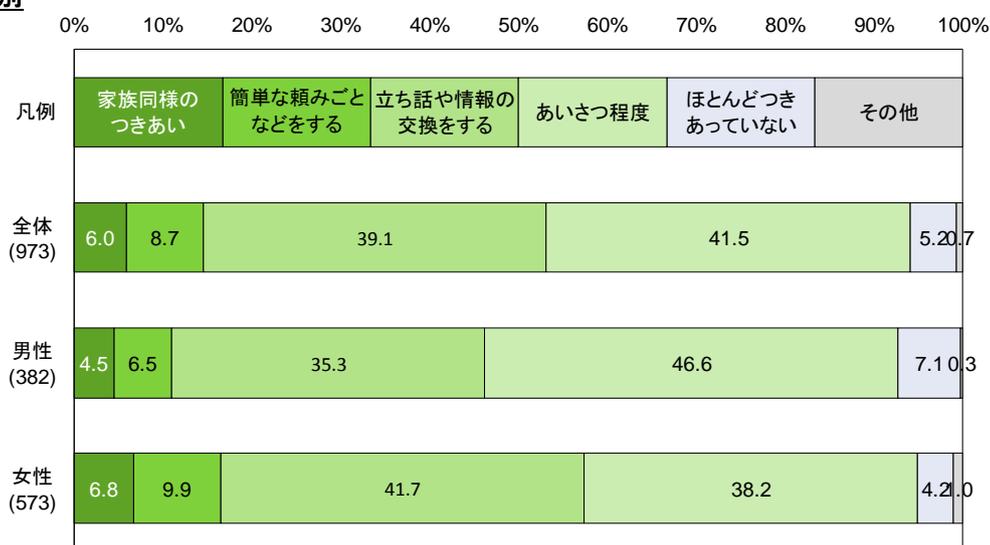
考察〈問21〉

- 問21 また、現在住んでいる地域に今後も住み続けたいという人が90%程度を占めている。ただし、住みやすさ、定住意向の強さをみると、特に年齢層が低いほど、住みにくい割合が高くなり、ずっと住み続けたい割合が低くなる傾向がみられる。本調査の回答者は高齢者の割合が高いため、相対的にこれらの割合が低くなっているが、若年層における子育て支援への対応も暮らしやすい環境づくりにおいて重要と考えられる。

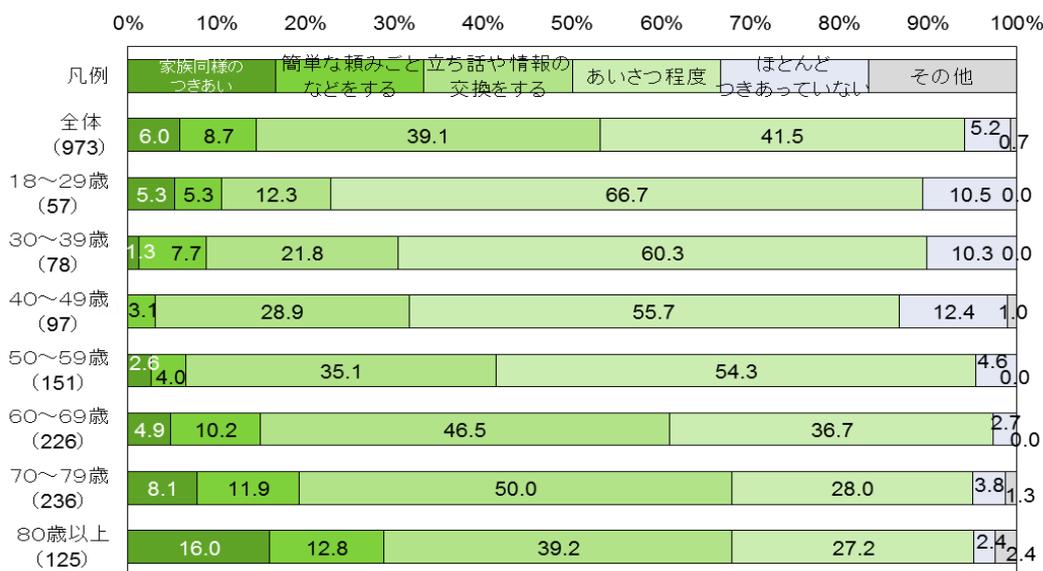
問22 あなたは、ご近所(徒歩数分圏内)の人とどのようなつきあいが多いですか。(〇は1つ)

- 全体的には「あいさつ程度」が41.5%と最も高く、「立ち話や情報の交換をする」(39.1%)、「簡単な頼みごとなどをする」(8.7%)と続く。
- 性別では、女性の方が、「家族同様のつきあい」など、密度の濃いつきあいをしている人の割合が高い。
- 年齢別では、年齢層が高いほど、「家族同様の付き合い」や「簡単な頼みごとなどをする」等の割合が高くなっており、18～29歳や30代、40代では、「ほとんどつきあっていない」人が10%程度存在している。

### 性別



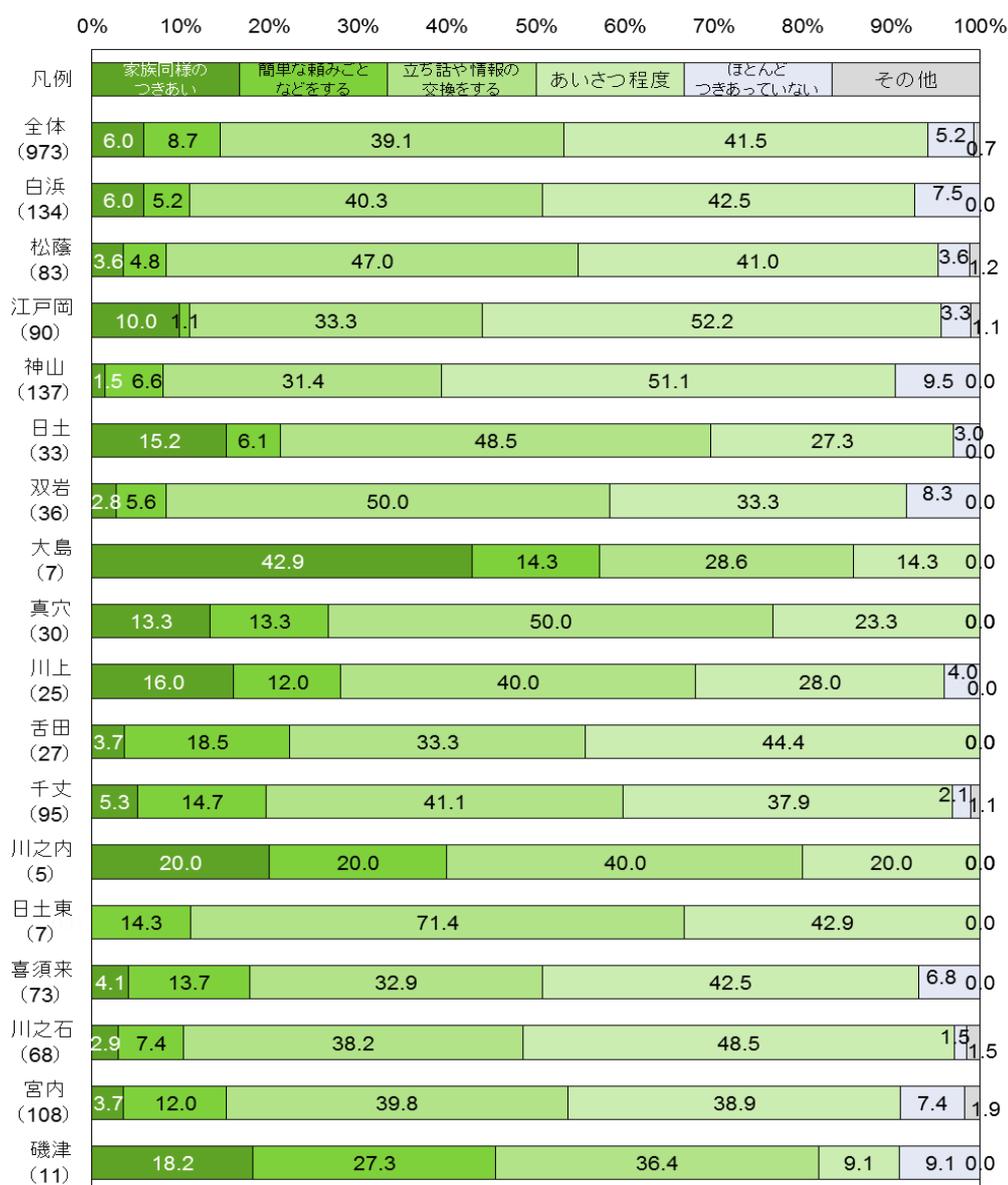
### 年齢別



【続き】(問22 あなたは、ご近所(徒歩数分圏内)の人とどのようなつきあいが多いですか。(〇は1つ))

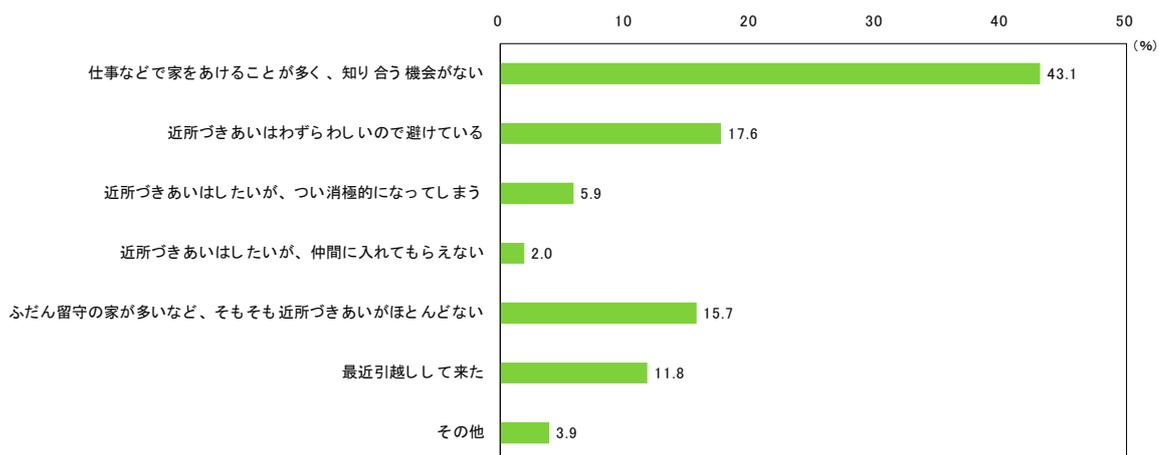
- 居住地別では、特に傾向はみられないが、「家族同様のつきあい」や「簡単な頼みごとなどをする」といった密度の濃いつきあいをしている人の割合が低い地区(例. 双岩地区、松蔭地区等)と高い地区(例. 大島地区、川之内等)の間では、大きな開きが見られ、地区によって近所付き合いの濃淡に差がみられる。

### 居住地別



問23 問22で「5. ほとんどつきあっていない」を選んだ方におうかがいします。あまり近所づきあいをされていない理由は何ですか。(〇は1つ)

- 「仕事などで家をあけることが多く、知り合う機会がない」が43.1%と最も高く、「近所づきあいはわずらわしいので避けている」(17.6%)、「ふだん留守が多いなど、そもそも近所づきあいがほとんどない」(15.7%)と続く。

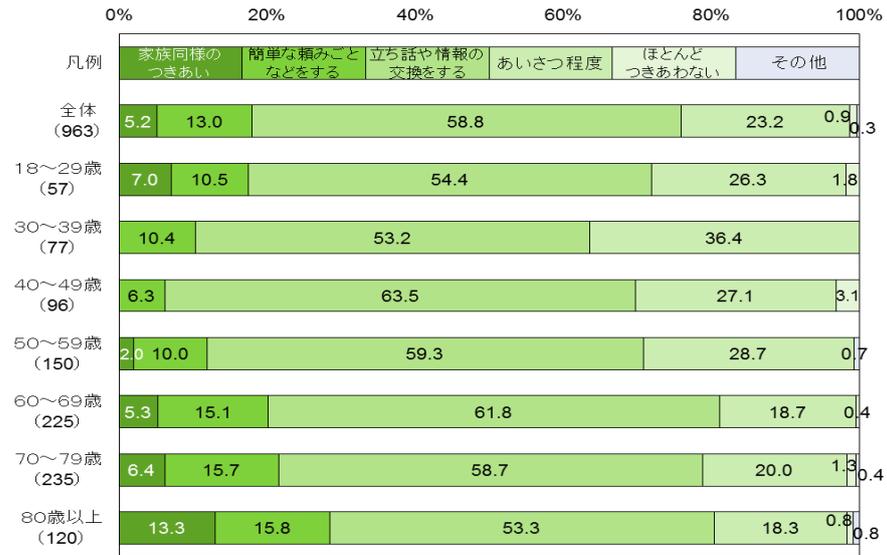


問24 ご近所(徒歩数分圏内)の人とのつきあいは、どの程度が望ましいと思いますか。(〇は1つ)

- 全体的には「立ち話や情報の交換をする」が58.8%と最も高く、「あいさつ程度」(23.2%)、「簡単な頼みごとなどをする」(13.0%)と続く。実際に行っている近所づきあい(問22)よりも、より密度の濃いつきあいが望まれていることがうかがえる。
- 性別では特に傾向はみられないが、女性の方が「家族同様のつきあい」など密度の濃いつきあいを望む人の割合がやや高い。
- 年齢別では、実際に行っている近所づきあいと同様に、年齢層が高いほど、「家族同様の付き合い」や「簡単な頼みごとなどをする」等の割合が高くなっている。

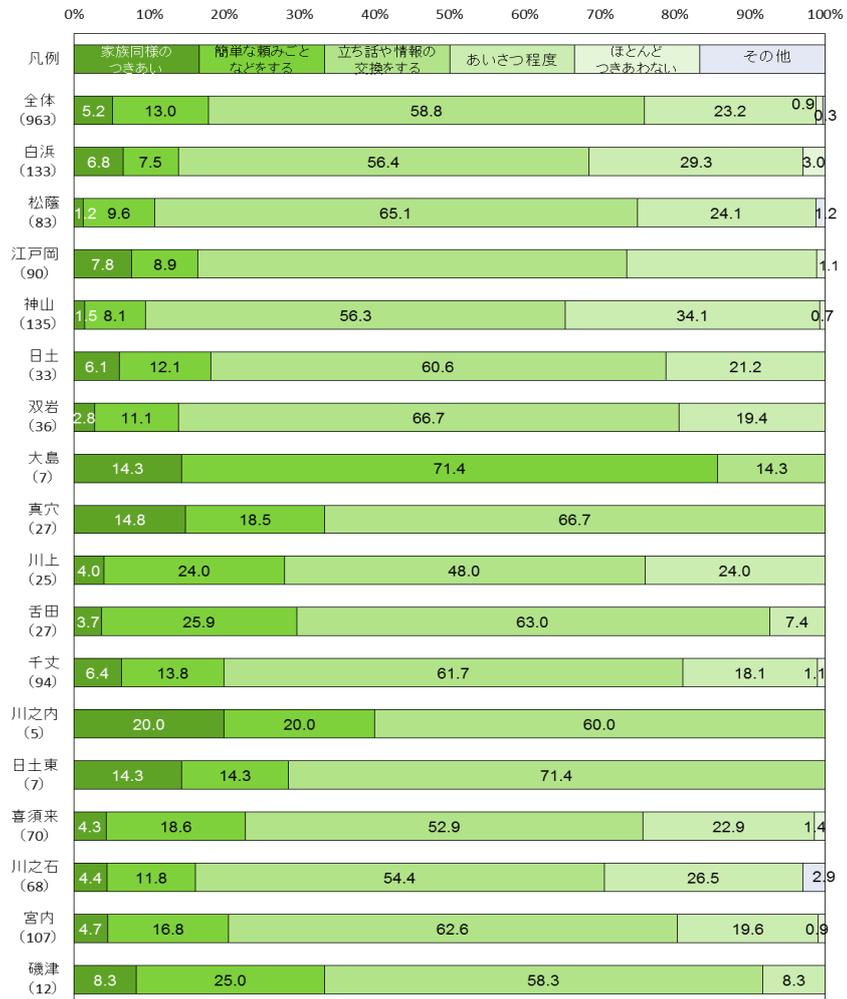


## 年齢別



●居住地別では、特に傾向はみられないが、「家族同様のつきあい」や「簡単な頼みごとなどをする」といった密度の濃いつきあいを望む人の割合が低い地区(例. 神山地区、松蔭地区等)と高い地区(例. 大島地区、川之内地区等)との間では、大きな開きがみられ、地区によって望ましいと考える近所付き合いの濃淡に差がみられる。

## 居住地別



考察〈問22～24〉

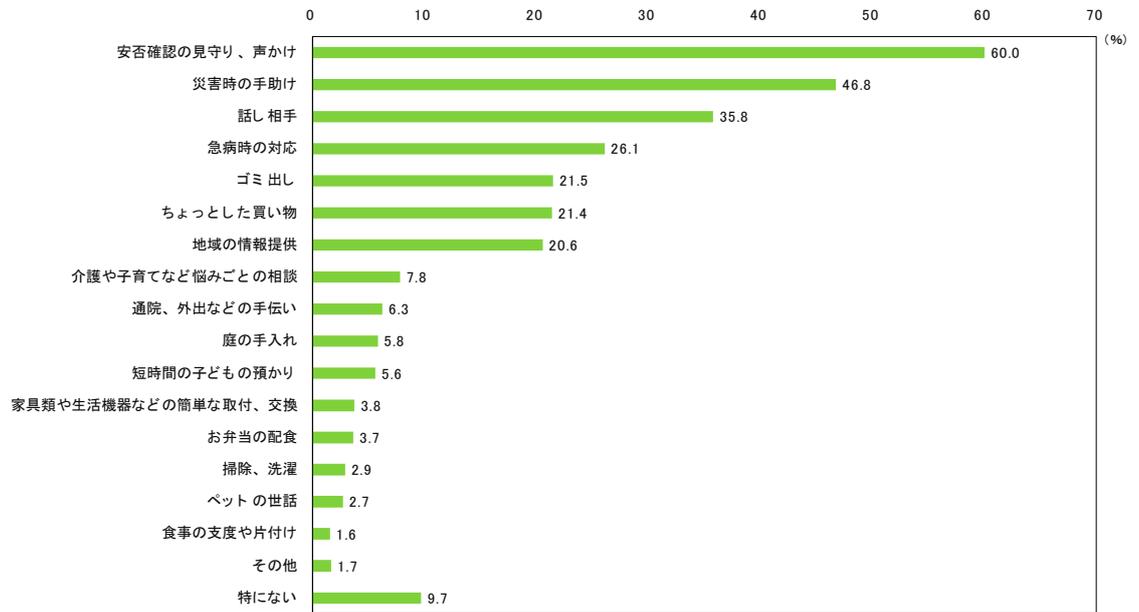
- 問22～24 現在行っている近所づきあいは立ち話やあいさつが多いが、望ましいつきあいの程度としては、簡単な頼みごとをしたり、あいさつだけよりは立ち話をしたりするなど、より密度の濃いつきあいの割合が高くなっている。問15においても、ほとんどの人が地域づきあいや助け合いは必要と考えており、現状以上の近所づきあいの必要性を感じている人が多いことがうかがえる。
- 問10で認識されている「地域」の範囲なども考慮した、近所づきあいや地域内での交流を深めるような行事、活動の場の提供などが求められていると考えられる。

問25 あなたのご近所に介護や看護、子育て等で困っている家庭があった場合、あなたはどのような手助けができますか。(あてはまる番号すべてに○)

- 全体的には「安否確認の見守り、声かけ」が60.0%と最も高く、「災害時の手助け」(46.8%)、「話し相手」(35.8%)、「急病時の対応」(26.1%)と続く。日常的な手助けについては、見守りや話し相手といった高くの負担を掛けずにできるものが多いが、災害時、急病時での対応といった緊急時の手助けも割合は高い。
- 性別では、男性は「急病時の対応」が高く、女性は「話し相手」や「ちょっとした買い物」の割合が高くなっている。
- 年齢別では、年齢層が高いほど、手助けできる割合がやや低くなる傾向がみられ、80歳以上では「特になし」が19%となっている。一方、18～29歳や30代では、「介護や子育てなど悩みごとの相談」などの割合がやや高くなっている。
- 居住地別では特に傾向はみられない。

	安否確認の見守り、声かけ	災害時の手助け	ちょっとした買い物	急病時の対応	ゴミ出し	話し相手	通院、外出などの手伝い	掃除、洗濯	地域の情報提供	近所の子どもの預かり	介護や子育てなど悩みごとの相談	車の手入れ	食事の支度や片付け	お弁当の配達	家具類や生活機器などの簡単な取付、交換	ペットの世話	その他	特になし
全体(95)	60.0	46.8	21.4	26.1	21.5	35.8	6.3	2.9	20.6	5.6	7.8	5.8	1.6	3.7	3.8	2.7	1.7	9.7
男性(75)	52.5	53.1	13.6	28.3	15.7	23.2	5.6	1.1	20.0	3.5	6.4	7.2	1.1	2.1	5.9	2.4	0.8	13.3
女性(96)	65.2	42.8	28.5	24.7	24.7	44.0	6.9	4.1	21.0	6.9	9.0	4.9	1.9	4.8	2.1	3.0	2.3	7.2
18～29歳(57)	63.2	59.6	10.5	22.8	15.8	47.4	5.3	3.5	15.8	5.3	10.5	1.8	1.8	0.0	1.8	3.5	0.0	10.5
30～39歳(77)	61.0	59.7	20.8	29.9	11.7	33.8	7.8	1.3	22.1	10.4	11.7	3.9	1.3	7.8	2.6	3.9	0.0	10.4
40～49歳(97)	63.9	64.9	14.4	32.0	12.4	26.8	6.2	2.1	17.5	5.2	8.2	5.2	1.0	4.1	3.1	1.0	1.0	15.5
50～59歳(150)	66.0	62.7	19.3	30.0	19.3	26.7	3.3	1.3	24.0	5.3	4.0	6.0	1.3	4.7	7.3	2.0	0.7	7.3
60～69歳(223)	66.8	52.0	29.1	31.4	27.4	37.7	6.3	2.7	22.4	5.4	11.2	6.3	1.8	3.1	2.7	3.6	1.3	5.8
70～79歳(235)	56.2	33.6	24.3	22.1	27.2	41.7	7.7	4.7	22.1	6.8	6.8	6.8	2.1	3.4	5.1	3.4	1.7	7.7
80歳以上(116)	41.4	11.2	13.8	12.1	18.1	34.5	6.9	3.4	13.8	1.7	4.3	6.9	0.9	2.6	0.9	0.9	6.0	19.0
白浜(134)	54.5	41.8	20.1	20.9	22.4	29.9	4.5	3.7	20.1	3.0	6.7	3.0	2.2	4.5	2.2	2.2	3.7	13.4
松蔭(81)	64.2	40.7	16.0	22.2	18.5	38.3	2.5	0.0	19.8	3.7	4.9	7.4	0.0	1.2	1.2	0.0	1.2	8.6
江戸岡(90)	61.1	42.2	18.9	26.7	15.6	36.7	3.3	1.1	25.6	8.9	5.6	2.2	2.2	4.4	2.2	3.3	2.2	12.2
神山(137)	51.1	46.0	21.2	23.4	17.5	29.9	7.3	2.2	14.6	5.8	7.3	5.8	1.5	2.2	5.1	2.9	0.7	10.9
日土(33)	66.7	39.4	36.4	30.3	18.2	42.4	9.1	3.0	18.2	12.1	12.1	6.1	3.0	6.1	0.0	6.1	0.0	6.1
双岩(34)	73.5	50.0	17.6	35.3	26.5	20.6	2.9	0.0	32.4	2.9	23.5	8.8	2.9	2.9	5.9	2.9	0.0	5.9
大島(7)	85.7	28.6	57.1	28.6	14.3	57.1	0.0	0.0	42.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	14.3
真穴(28)	53.6	50.0	21.4	28.6	25.0	39.3	0.0	0.0	28.6	7.1	14.3	3.6	3.6	0.0	7.1	3.6	0.0	14.3
川上(25)	64.0	72.0	40.0	36.0	24.0	32.0	4.0	4.0	16.0	0.0	0.0	4.0	0.0	4.0	8.0	0.0	0.0	0.0
吉田(26)	61.5	30.8	19.2	23.1	34.6	30.8	19.2	7.7	23.1	11.5	7.7	0.0	0.0	0.0	3.8	3.8	0.0	11.5
千丈(3)	62.4	38.7	26.9	24.7	22.6	38.7	10.8	5.4	17.2	3.2	4.3	9.7	3.2	6.5	4.3	5.4	3.2	7.5
川之内(5)	40.0	40.0	60.0	20.0	20.0	60.0	0.0	0.0	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0
日土東(7)	57.1	85.7	28.6	42.9	28.6	28.6	14.3	0.0	28.6	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0
喜浜東(70)	57.1	50.0	17.1	28.6	18.6	50.0	8.6	2.9	20.0	5.7	17.1	4.3	0.0	5.7	2.9	1.4	0.0	11.4
川之石(6)	56.1	54.5	12.1	25.8	31.8	31.8	3.0	4.5	16.7	3.0	7.6	7.6	0.0	4.5	1.5	1.5	3.0	12.1
宮内(106)	67.9	56.6	18.9	29.2	19.8	39.6	6.6	2.8	24.5	9.4	4.7	7.5	0.9	2.8	3.8	1.9	0.9	5.7
磯津(12)	83.3	58.3	33.3	33.3	33.3	41.7	16.7	16.7	16.7	8.3	16.7	25.0	8.3	8.3	25.0	8.3	0.0	8.3

■は属性ごとに回答割合の高い上位3つ



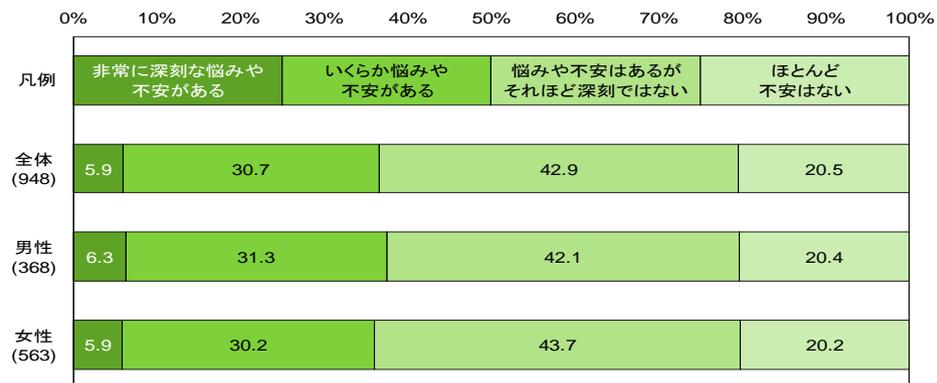
#### 考察〈問25〉

●問25 近所に介護や子育て等で困っている家庭がある場合、見守りや話し相手、災害時・急病時の手助け・対応ができると回答した人が多いことから、地域や家庭での悩みごととそれらに対応できるサービス等をうまくマッチングすることで、自助・共助による地域共生社会の推進の一助となることが考えられる。

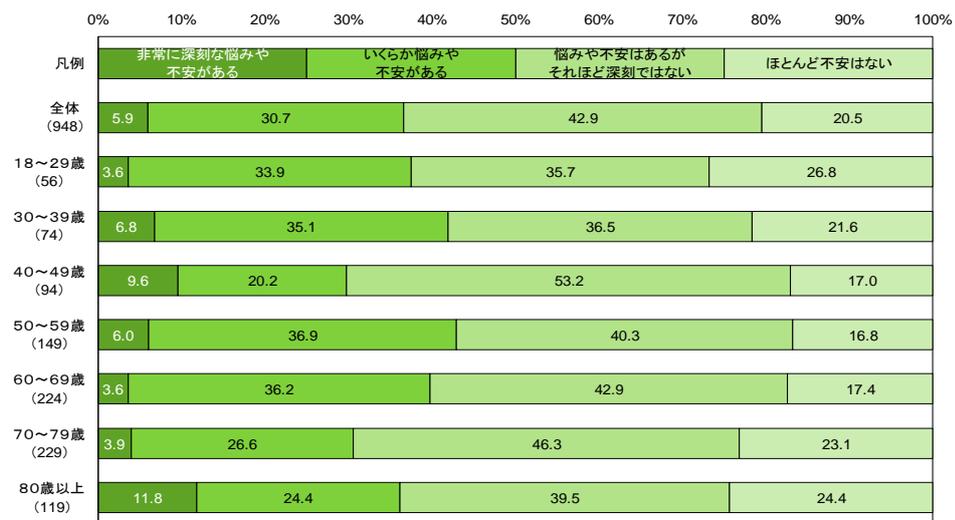
問 26 あなたは、日頃の生活で悩みや不安を感じていますか。(〇は1つ)

- 全体的には「悩みや不安はあるがそれほど深刻ではない」が42.9%と最も高く、「いくらか悩みや不安がある」(30.7%)、「ほとんど悩みはない」(20.5%)と続く。
- 性別では、特に傾向はみられない。
- 年齢別では、特に傾向はみられない。

**性別**

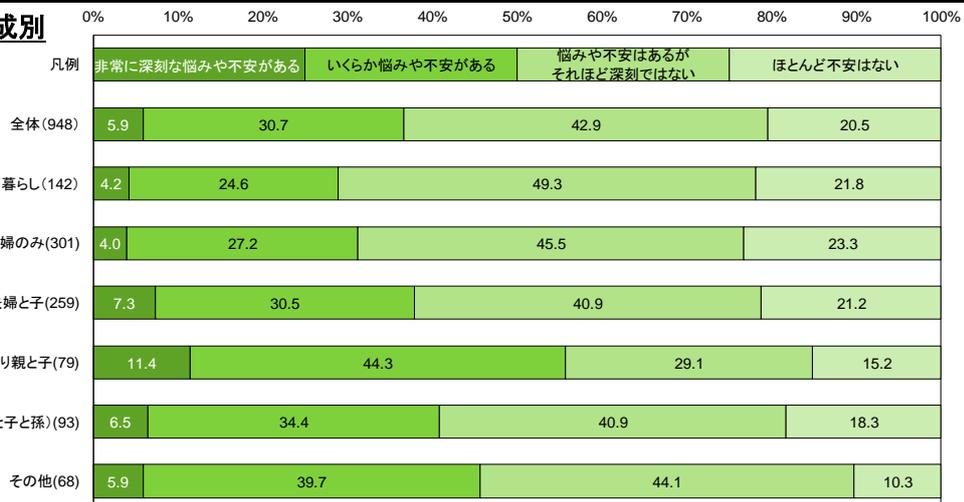


**年齢別**



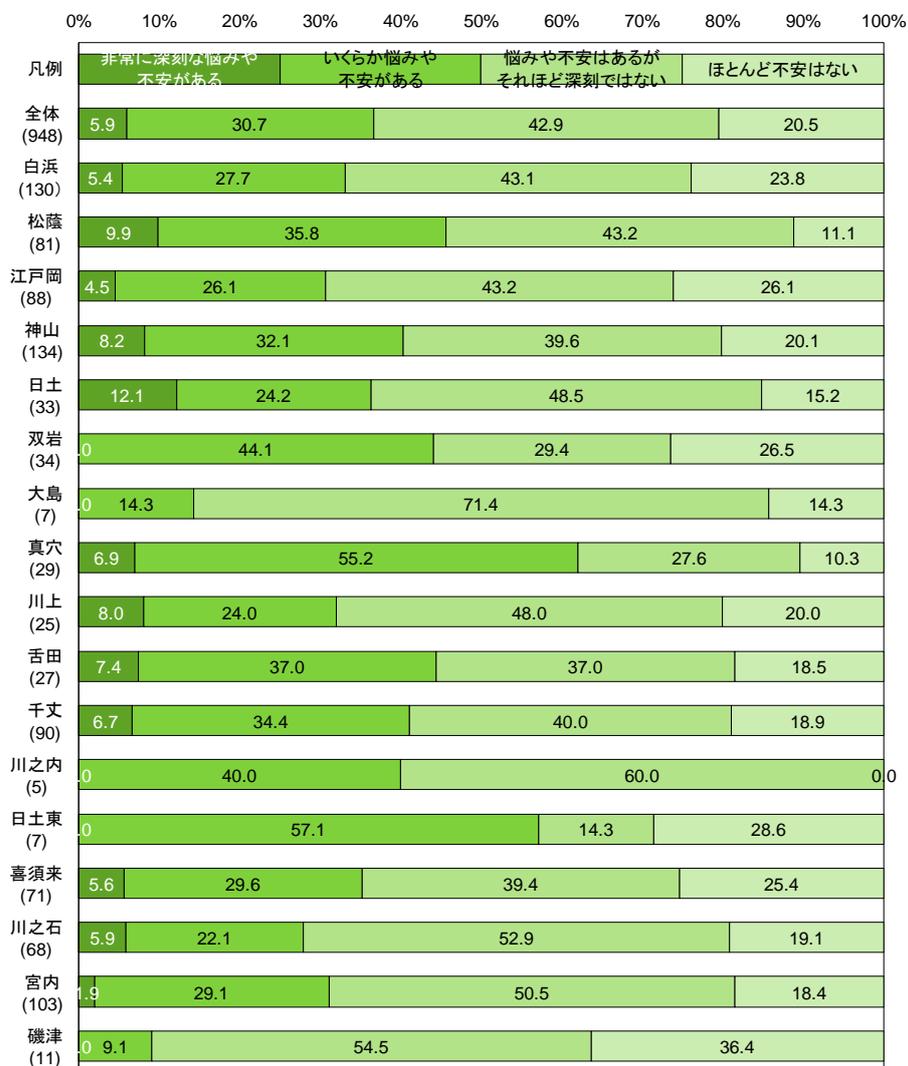
- 家族構成別では、他の家族構成に比べ、ひとり親と子の家庭の「非常に深刻な悩みや不安がある」(11.4%)や「いくらか悩みや不安がある」の割合が高くなっている。

**家族構成別**



●居住地別では、特に傾向はみられない。

### 居住地別



### 考察〈問26〉

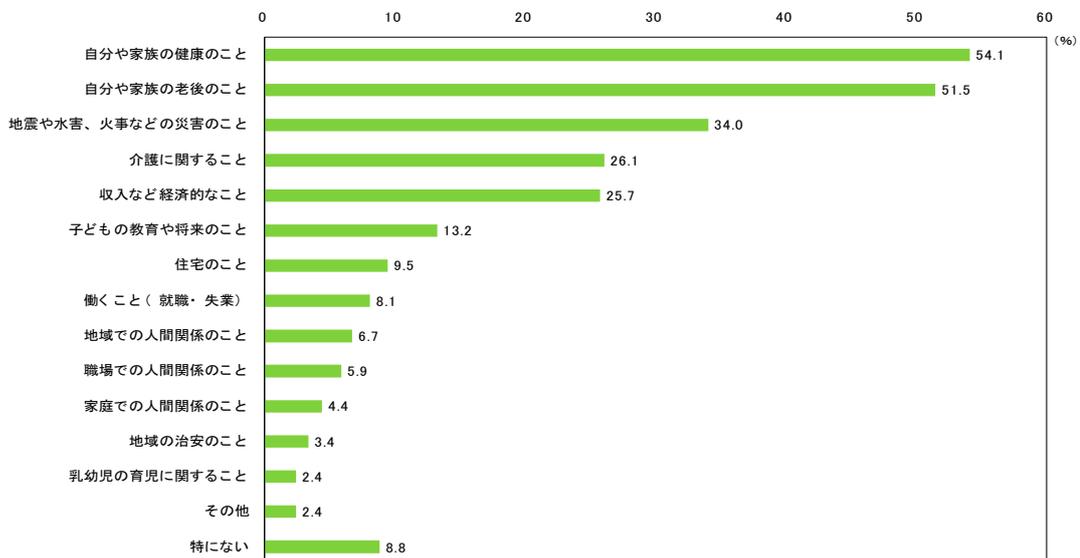
●問26 性別や年齢に関係なく、40%程度の人が、日ごろの生活で悩みや不安を感じている。家族構成別にみると、特に、ひとり親と子での割合が高く、10%以上の家庭が非常に深刻な悩みや不安を抱えている。

問27 あなたは、日頃の生活でどのようなことに悩みや不安を感じていますか。(あてはまる番号すべてに○)

- 全体的には「自分や家族の健康のこと」が54.1%と最も高く、「自分や家族の老後のこと」(51.5%)、「地震や水害、火事などの災害のこと」(34.0%)と続く。
- 性別では、特に傾向はみられないが、女性の方が、全体的に回答割合が高い。
- 年齢別では、30代、40代において「子どもの教育や将来のこと」や「収入など経済的なこと」、「働くこと」の割合が高くなっている。また、50代以上で、「介護に関すること」の割合が高くなっている。
- 居住地別では、上位2つの項目は全体傾向と変わらないが、「地震や水害、火事などの災害のこと」は高い地区(例. 日土地区(54.5%)、喜須来地区(43.7%))と低い地区(例. 川上地区(20.0%)、真穴地区(21.4%))との間に20~30%の開きがみられる。

	自分や家族の健康のこと	自分や家族の老後のこと	子どもの教育や将来のこと	乳幼児の育児に関すること	介護に関すること	収入など経済的なこと	地域での人間関係のこと	家庭での人間関係のこと	職場での人間関係のこと	住宅のこと	地域の治安のこと	地震や水害、火事などの災害のこと	働くこと(就職・失業)	その他	特にない
全体(952)	54.1	51.5	13.2	2.4	26.1	25.7	6.7	4.4	5.9	9.5	3.4	34.0	8.1	2.4	8.8
男性(71)	50.7	47.4	13.2	1.9	25.3	23.5	6.2	4.0	5.7	7.8	3.0	26.7	10.0	1.9	10.8
女性(564)	56.4	54.3	13.7	2.8	26.8	26.4	6.6	4.8	6.2	10.8	3.5	38.7	6.7	2.7	7.6
18~29歳(56)	25.0	33.9	19.6	8.9	12.5	23.2	3.6	7.1	19.6	8.9	0.0	33.9	25.0	5.4	8.9
30~39歳(77)	54.5	37.7	35.1	18.2	13.0	35.1	11.7	6.5	23.4	20.8	3.9	39.0	26.0	3.9	9.1
40~49歳(95)	49.5	52.6	38.9	1.1	23.2	37.9	6.3	7.4	9.5	11.6	4.2	34.7	14.7	0.0	8.4
50~59歳(151)	50.3	60.3	17.2	0.0	29.1	27.8	6.0	4.0	9.3	11.3	4.0	31.8	9.9	4.6	5.3
60~69歳(222)	55.4	58.6	9.5	0.9	32.9	27.5	6.3	3.6	1.4	10.8	4.1	33.8	5.9	0.9	6.8
70~79歳(231)	64.1	50.2	0.9	0.4	25.1	16.0	8.7	3.0	0.4	4.8	2.6	36.8	0.4	2.2	10.4
80歳以上(117)	54.7	46.2	0.9	0.0	28.2	23.9	3.4	4.3	0.0	5.1	2.6	28.2	0.0	2.6	14.5
白浜(134)	56.4	51.1	7.5	1.5	28.6	27.1	4.5	1.5	5.3	5.3	4.5	36.1	6.0	0.8	10.5
松隆(81)	67.1	57.3	14.6	3.7	24.4	19.5	3.7	11.0	0.0	11.0	1.2	32.9	4.9	3.7	4.9
江戸岡(90)	48.3	46.1	7.9	2.2	24.7	22.5	6.7	4.5	3.4	14.6	4.5	38.2	7.9	3.4	11.2
神山(137)	49.3	49.3	11.2	2.2	23.9	26.9	7.5	4.5	11.2	9.0	2.2	26.1	9.7	2.2	6.0
日土(33)	57.6	54.5	15.2	0.0	27.3	30.3	6.1	3.0	9.1	27.3	0.0	54.5	9.1	3.0	9.1
双岩(34)	50.0	58.8	14.7	0.0	35.3	29.4	2.9	8.8	11.8	2.9	2.9	35.3	17.6	5.9	14.7
大島(7)	100.0	60.0	0.0	0.0	40.0	60.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0
真穴(28)	50.0	50.0	14.3	3.6	35.7	35.7	3.6	7.1	0.0	3.6	0.0	21.4	14.3	3.6	3.6
川上(25)	48.0	48.0	20.0	4.0	24.0	16.0	16.0	0.0	0.0	12.0	0.0	20.0	0.0	0.0	8.0
香田(26)	51.9	63.0	11.1	0.0	18.5	33.3	11.1	3.7	11.1	11.1	3.7	22.2	3.7	3.7	7.4
千丈(93)	58.2	53.8	16.5	3.3	25.3	24.2	11.0	3.3	3.3	6.6	5.5	29.7	5.5	4.4	8.8
川之内(5)	40.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0
日土家(7)	85.7	57.1	14.3	0.0	14.3	0.0	0.0	14.3	0.0	14.3	0.0	14.3	0.0	0.0	14.3
喜須来(70)	53.5	54.9	16.9	2.8	25.4	21.1	9.9	7.0	9.9	12.7	7.0	43.7	9.9	1.4	11.3
川之石(66)	48.5	47.1	10.3	0.0	26.5	30.9	1.5	1.5	5.9	5.9	2.9	41.2	8.8	1.5	5.9
宮内(106)	52.4	48.5	19.4	5.8	26.2	27.2	5.8	2.9	5.8	10.7	1.9	36.9	10.7	0.0	12.6
磯津(12)	58.3	58.3	16.7	0.0	33.3	25.0	16.7	0.0	0.0	8.3	8.3	41.7	8.3	8.3	8.3

■は属性ごとに回答割合の高い上位3つ



考察〈問27〉

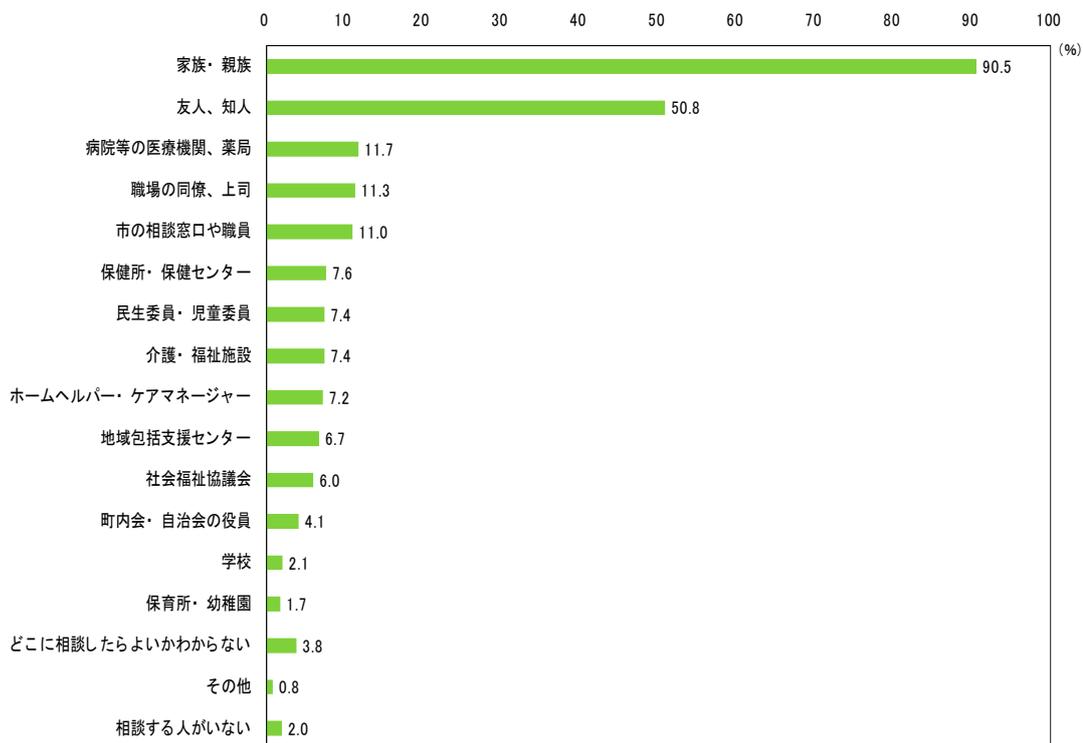
●問27 具体的な悩みや不安として、主には自分や家族といった近い人の健康や老後のことであるが、災害に関することは3割を超えており、30代・40代の子育て世代では、子どもの教育や将来のことも3割を超えている。日常生活のさまざまな悩みや不安に対応する地域福祉は、多くの人にとって他人事ではないことが示されている。

問28 もし、あなたがさまざまな場面で困ったとき、だれに相談しますか。(あてはまる番号すべてに○)

- 全体的には「家族・親族」が90.5%と最も高く、「友人・知人」(50.8%)、「病院等の医療機関、薬局」(11.7%)と続く。
- 性別では、特に傾向はみられない。
- 年齢別では、18歳～59歳の年齢層において、「職場の同僚、上司」が20～30%程度となっているのに対して、60歳以上では5%以下となっている。一方、60歳以上では、「市の相談窓口や職員」「病院等の医療機関、薬局」「民生委員・児童委員」の割合が高くなっている。
- 居住地別では、特に傾向はみられないが、日土地区では「市の相談窓口や職員」、双岩地区・真穴地区・大島地区では「ホームヘルパー・ケアマネージャー」などが高くなっているなど、他の地区とやや傾向が異なる地区もみられる。

	家族・親族	友人、知人	職場の同僚、上司	民生委員・児童委員	町内会・自治会の役員	学校	保育所・幼稚園	市の相談窓口や職員	社会福祉協議会	保健所・保健センター	ホームヘルパー・ケアマネージャー	地域包括支援センター	病院等の医療機関、薬局	介護・福祉施設	どこに相談したらいかがわからない	その他	相談する人がいない
全体(972)	90.5	50.8	11.3	7.4	4.1	2.1	1.7	11.0	6.0	7.6	7.2	6.7	11.7	7.4	3.8	0.8	2.0
男性(381)	89.2	48.0	11.8	5.8	5.2	1.0	1.0	10.2	6.3	6.8	5.8	3.7	12.3	7.3	2.6	0.8	3.1
女性(574)	91.6	53.1	11.0	8.7	3.5	2.8	2.3	11.7	5.7	8.0	8.2	8.9	11.0	7.3	4.7	0.9	1.0
18～29歳(58)	94.8	75.9	31.0	0.0	0.0	3.4	3.4	0.0	0.0	5.2	0.0	0.0	5.2	1.7	1.7	0.0	0.0
30～39歳(79)	92.4	65.8	27.8	2.5	2.5	7.6	8.9	13.9	1.3	11.4	0.0	2.5	2.5	1.3	5.1	1.3	2.5
40～49歳(97)	90.7	55.7	23.7	1.0	1.0	11.3	7.2	7.2	1.0	4.1	0.0	2.1	10.3	4.1	2.1	1.0	3.1
50～59歳(151)	92.1	57.6	22.5	2.0	3.3	0.0	0.0	11.3	4.0	4.6	4.6	3.3	8.6	2.0	3.3	0.7	1.3
60～69歳(227)	92.5	52.0	4.8	7.0	6.6	0.0	0.4	14.1	5.3	7.5	9.7	8.4	14.1	7.0	3.1	1.3	1.8
70～79歳(234)	86.3	43.2	0.9	9.4	3.4	0.4	0.0	13.2	8.5	10.7	9.8	11.1	15.0	11.5	5.1	0.9	3.0
80歳以上(124)	89.5	29.8	0.0	22.6	7.3	0.0	0.0	7.3	14.5	7.3	14.5	8.9	15.3	16.1	4.8	0.0	0.8
白浜(130)	91.2	45.6	13.2	9.6	4.4	2.2	0.0	12.5	6.6	5.1	7.4	8.1	11.8	7.4	2.9	0.0	1.5
松蔭(81)	86.7	57.8	8.4	9.6	3.6	1.2	2.4	12.0	8.4	9.6	9.6	7.2	12.0	10.8	4.8	2.4	2.4
江戸岡(88)	93.3	48.9	6.7	4.4	0.0	2.2	1.1	12.2	5.6	10.0	8.9	3.3	12.2	10.0	3.3	2.2	1.1
神山(134)	88.1	53.3	13.3	2.2	2.2	0.7	1.5	9.6	3.7	8.1	6.7	6.7	13.3	7.4	2.2	0.7	0.7
日土(33)	93.9	39.4	9.1	12.1	0.0	6.1	3.0	27.3	0.0	6.1	3.0	3.0	12.1	9.1	6.1	3.0	0.0
双岩(34)	94.4	38.9	11.1	2.8	11.1	0.0	0.0	2.8	2.8	2.8	16.7	5.6	8.3	11.1	5.6	0.0	0.0
大島(7)	100.0	57.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	14.3	0.0	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0
真穴(29)	86.7	46.7	6.7	3.3	3.3	3.3	6.7	10.0	3.3	0.0	16.7	10.0	10.0	13.3	3.3	0.0	3.3
川上(25)	88.0	60.0	8.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.0	0.0	4.0	8.0	4.0	12.0	8.0	0.0	0.0	4.0
舌田(27)	96.3	51.9	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0	14.8	7.4	0.0	3.7	7.4	3.7	0.0	7.4	0.0	0.0
千丈(90)	96.8	52.1	12.8	11.7	5.3	3.2	2.1	11.7	10.6	9.6	8.5	7.4	16.0	9.6	1.1	0.0	2.1
川之内(5)	80.0	40.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0	20.0
日土東(7)	100.0	57.1	14.3	0.0	0.0	28.6	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0
喜須家(71)	83.6	46.6	12.3	5.5	4.1	2.7	1.4	15.1	4.1	8.2	2.7	8.2	11.0	2.7	8.2	2.7	2.7
川之石(88)	82.6	50.7	7.2	11.6	10.1	0.0	0.0	10.1	5.8	7.2	2.9	5.8	8.7	4.3	8.7	0.0	4.3
宮内(103)	93.4	55.7	16.0	6.6	4.7	2.8	3.8	4.7	9.4	10.4	4.7	5.7	10.4	4.7	2.8	0.0	1.9
磯津(11)	100.0	66.7	8.3	33.3	25.0	0.0	8.3	16.7	0.0	16.7	8.3	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0	8.3

■は属性ごとに回答割合の高い上位3つ



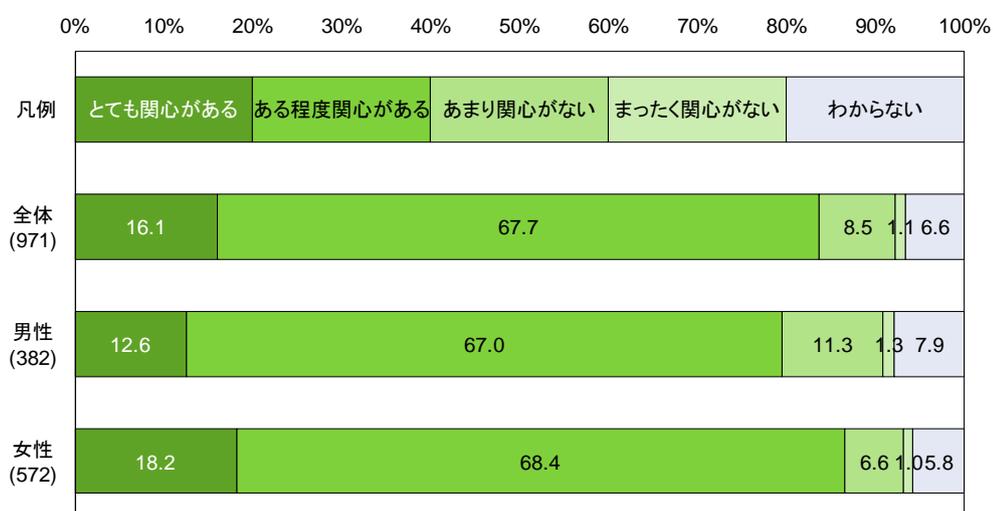
#### 考察〈問28〉

- 問28 具体的な相談相手としては、家族・親族(91%)、友人・知人(51%)がほとんどを占め、公的な施設・サービスや町内会などの割合はほとんどが1割に満たない。また、どこに相談したらよいかわからない人も4%と、割合はわずかながらも存在しており、市全体の人口ベースで推計すると、1,350人程度に相当する。
- プライバシーに関わる悩みや不安の場合は、相談相手が主に身内等になることは仕方がないと考えられるが、公的な施設やサービスなどでも相談対応できるケースもあると想定される。問38-41にあるように、公的なサービス等の活動内容の認知状況を踏まえても、それらの先に相談できることが十分に理解されていないために、身内等に相談せざるを得ない状況になっていることも考えられる。さらに、そもそも相談先を見つけられない人もいることから、悩んでいる人・困っている人などに対して、適切で効果的な方法で情報を伝達していくことが求められる。

問29 あなたは、地域の福祉課題(ひとり暮らし高齢者の見守り、子どもへの虐待、孤独死など)に関心をお持ちですか。(〇は1つ)

- 全体的には「ある程度関心がある」が67.7%と最も高く、「とても関心がある」(16.1%)、「あまり関心がない」(8.5%)と続く。
- 性別では、特に傾向はみられない。
- 年齢別では、「ある程度関心がある」の割合は、年齢による違いはあまりみられないが、「とても関心がある」の割合は、18歳～59歳の層は10%前後となっているが、60歳以上では、年齢が高くなるにつれて高くなっている。「あまり関心がない」の割合も、その逆に、年齢が高くなるにつれて低くなっている。

**性別**



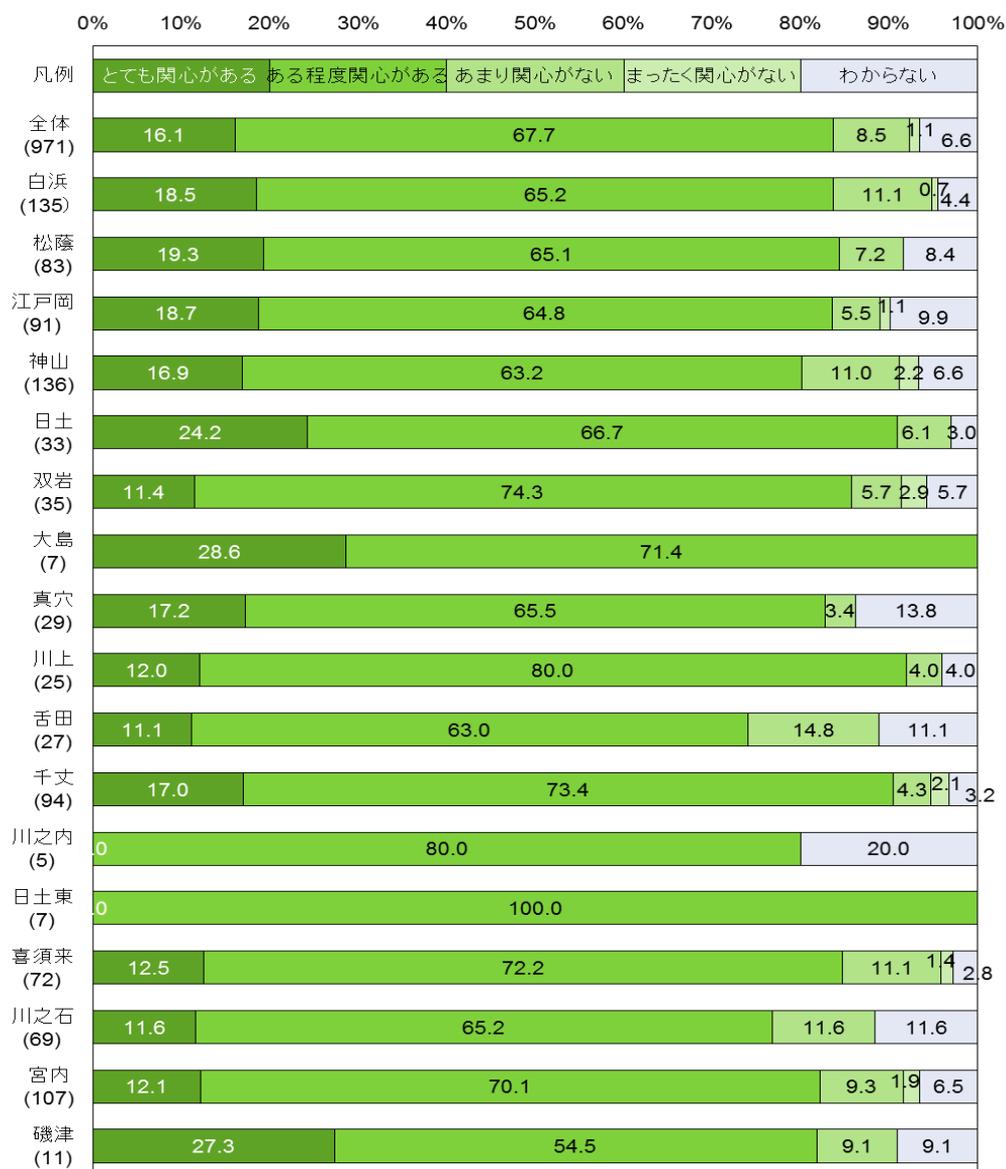
**年齢別**



【続き】(問29 あなたは、地域の福祉課題(ひとり暮らし高齢者の見守り、子どもへの虐待、孤独死など)に関心をお持ちですか。(〇は1つ))

●居住地別では、特に傾向はみられない。

### 居住地別



#### 考察〈問29〉

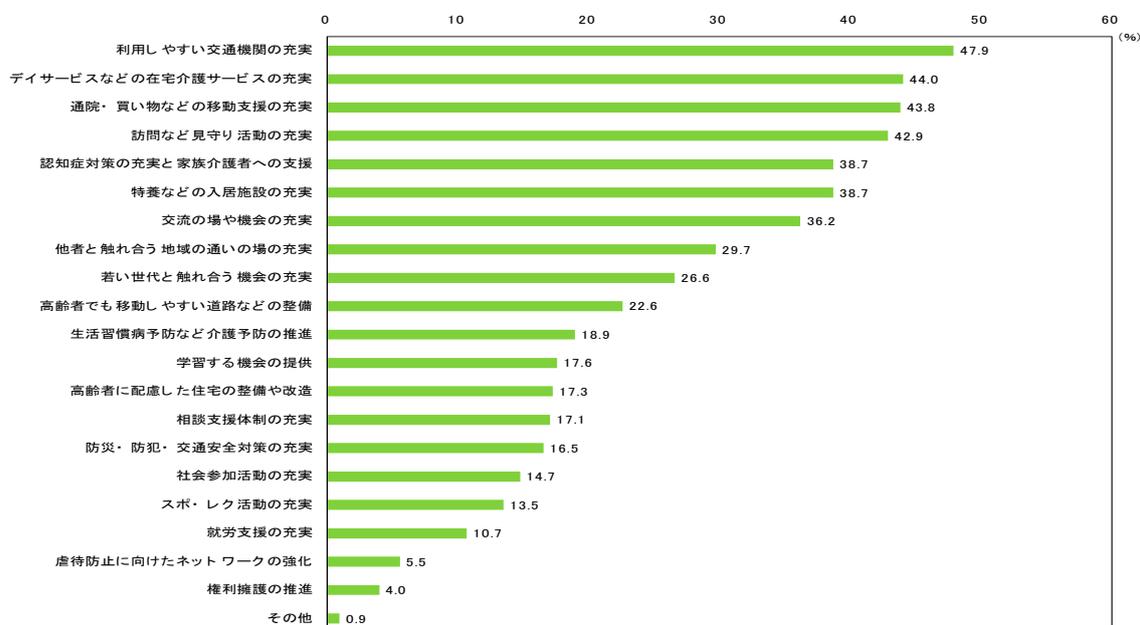
●問29 子どもへの虐待、孤独死など、全国的に報道等で見聞きする機会が多くなったこともあり、市民における地域の福祉課題に対する関心度は95%程度と非常に高く、身近な問題として捉えられている。

問30 高齢者が安心して暮らしていくため、あなたはどのようなことが重要だと考えますか。(あてはまる番号すべてに○)

- 全体的には「利用しやすい交通機関の充実」が47.9%と最も高く、「デイサービスなどの在宅介護サービスの充実」(44.0%)、「通院・買い物などの移動支援の充実」(43.8%)と続く。
- 性別では、特に傾向はみられない。
- 居住地別では、特に傾向はみられない。

	若い世代と触れ合う機会の充実	学習する機会の提供	社会参加活動の充実	スポ・レク活動の充実	交流の場や機会の充実	他者と触れ合う地域の通いの場の充実	就労支援の充実	虐待防止に向けたネットワークの強化	訪問など見守り活動の充実	認知症対策の充実と家族介護者への支援	生活習慣病予防など介護予防の推進	特養などの入居施設の充実	デイサービスなどの在宅介護サービスの充実	高齢者に配慮した住宅の整備や改造	高齢者でも移動しやすい道路などの整備	利用しやすい交通機関の充実	防災・防犯・交通安全対策の充実	通院・買い物などの移動支援の充実	相談支援体制の充実	権利擁護の推進	その他
全体(72)	28.6	17.6	14.7	13.5	36.2	29.7	10.7	5.5	42.9	38.7	18.9	38.7	44.0	17.3	22.6	47.9	16.5	43.8	17.1	4.0	0.9
男性(81)	29.7	14.7	15.0	14.4	34.2	21.7	11.2	4.8	37.4	34.5	17.6	37.4	42.8	16.8	24.1	43.3	19.8	40.6	17.1	2.7	0.8
女性(54)	25.0	19.7	14.7	12.1	37.8	35.1	10.3	6.0	47.2	41.8	20.0	39.5	44.7	17.6	21.8	50.9	13.7	46.3	16.7	4.8	1.1
白米(26)	22.1	13.0	13.0	11.5	32.1	22.9	9.2	5.3	38.9	42.0	15.3	43.5	42.7	15.3	19.8	42.7	17.6	34.4	19.6	2.3	3.1
松島(8)	27.2	16.0	11.1	12.3	30.9	30.9	9.8	4.9	45.7	42.0	14.8	35.8	39.5	17.3	21.0	34.6	16.0	23.5	19.8	2.5	0.0
江津(90)	27.0	21.2	18.0	11.2	33.7	37.1	6.7	5.6	34.8	41.6	23.6	41.6	49.4	19.1	24.7	48.3	19.1	37.1	21.3	2.2	1.1
神山(25)	24.4	16.3	15.6	12.6	37.0	32.6	14.1	3.7	42.2	43.0	20.0	33.3	40.0	13.3	20.0	43.0	11.1	43.7	16.3	3.7	0.0
日本(33)	28.1	15.6	12.5	3.1	25.0	46.9	9.4	0.0	46.9	37.5	15.6	40.6	46.9	21.9	25.0	71.9	6.3	59.4	6.3	3.1	0.0
京前(4)	26.3	21.1	10.5	15.8	42.1	26.3	5.3	7.9	44.7	28.9	18.4	34.2	36.8	21.1	28.9	44.7	10.5	31.6	13.2	2.6	0.0
大島(7)	57.1	28.6	0.0	0.0	42.9	57.1	0.0	0.0	85.7	42.9	14.3	0.0	28.6	0.0	0.0	28.6	0.0	28.6	14.3	0.0	0.0
真穴(20)	32.1	10.7	10.7	10.7	46.4	28.6	7.1	0.0	42.9	39.3	17.9	32.1	46.4	28.6	28.6	35.7	17.9	60.7	14.3	2.6	2.6
川上(25)	40.0	36.0	20.0	24.0	40.0	20.0	8.0	0.0	36.0	44.0	32.0	28.0	44.0	8.0	20.0	52.0	20.0	60.0	16.0	8.0	0.0
香田(7)	37.0	11.1	14.8	7.4	48.1	44.4	11.1	7.4	51.9	33.3	25.9	37.0	29.6	11.1	18.5	51.9	7.4	59.3	7.4	3.7	0.0
千支(9)	30.1	21.5	17.2	17.2	33.3	25.8	12.9	8.6	45.2	36.6	25.8	49.5	57.0	23.7	22.6	48.4	20.4	51.6	20.4	9.7	0.0
川之内(5)	20.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0	0.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	40.0	20.0	40.0	60.0	20.0	80.0	20.0	20.0	0.0
日本(7)	28.6	14.3	14.3	14.3	57.1	28.6	14.3	0.0	57.1	42.9	28.6	14.3	28.6	14.3	14.3	71.4	14.3	57.1	14.3	0.0	0.0
香濱(7)	20.0	30.0	14.3	18.6	34.3	25.7	17.1	5.7	41.4	27.1	17.1	32.9	40.0	14.3	21.4	52.9	15.7	40.0	11.4	1.4	1.4
川石(8)	25.8	10.6	16.7	19.7	36.4	33.3	10.6	3.0	43.9	36.4	10.6	42.4	42.4	18.2	24.2	62.1	19.7	57.6	16.7	1.5	0.0
宮内(6)	20.8	14.2	15.1	11.3	39.6	25.5	10.4	8.5	42.5	34.9	16.0	40.6	49.1	16.0	23.6	50.9	21.7	49.1	14.2	4.7	0.9
磯原(2)	66.7	16.7	16.7	20.0	50.0	33.3	16.7	16.7	66.7	66.7	33.3	50.0	41.7	16.7	41.7	50.0	16.7	50.0	33.3	25.0	8.3

■は属性ごとに回答割合の高い上位3つ



考察〈問30〉

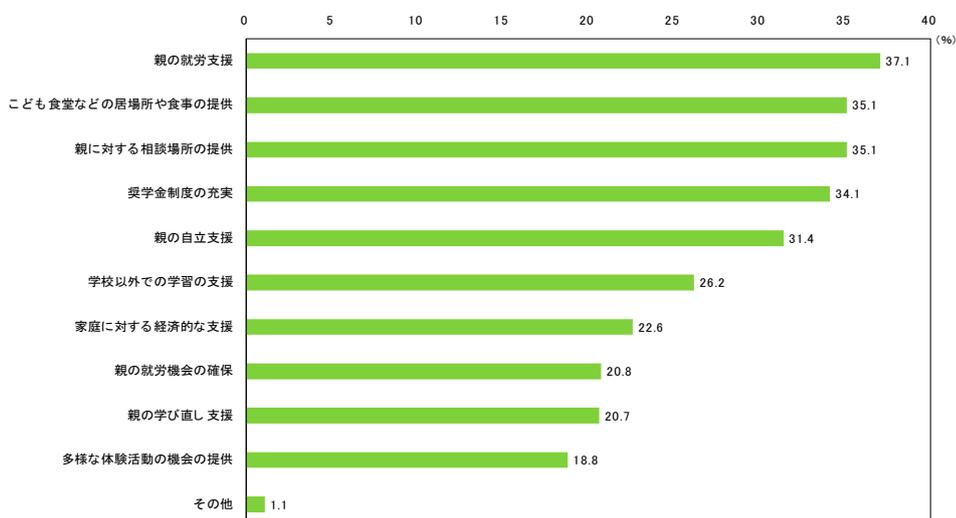
- 問30 高齢者が安心して暮らせるために重要なこととしては、交通機関の充実など移動の支援に関わるものや、在宅介護サービスや見守り活動などの充実が多く挙げられている。

問31 子どもの貧困が社会問題となっていますが、あなたはどのような支援が必要だと考えますか。(あてはまる番号すべてに○)

- 全体的には「親の就労支援」が37.1%と最も高く、「こども食堂などの居場所や食事の提供」(35.1%)、「親に対する相談場所の提供」(35.1%)と続く。
- 性別では、59歳以下の現役世代では、特に、「奨学金制度の充実」や「親の就労支援」の割合が高く、子どもへの直接的な支援よりも、家庭への経済的な支援、親の雇用面での支援を求める傾向がみられる。
- 居住地別では、特に傾向はみられない。

	学校以外での学習の支援	奨学金制度の充実	多様な体験活動の機会の提供	こども食堂などの居場所や食事の提供	親の自立支援	親に対する相談場所の提供	親の就労支援	親の学び直し支援	親の就労機会の確保	家庭に対する経済的な支援	その他
全体(20)	26.2	34.1	18.8	35.1	31.4	35.1	37.1	20.7	20.8	22.6	1.1
男性(365)	25.5	36.4	16.4	30.1	31.2	31.8	35.9	17.3	21.1	20.8	1.9
女性(539)	27.1	32.8	20.4	39.0	31.0	37.8	38.0	22.8	20.4	23.4	0.6
18~29歳(58)	31.0	41.4	25.9	41.4	19.0	37.9	34.5	17.2	19.0	25.9	1.7
30~39歳(79)	29.1	40.5	25.3	34.2	32.9	39.2	40.5	17.7	19.0	26.6	1.3
40~49歳(93)	21.5	39.8	20.4	39.8	23.7	36.6	37.6	20.4	17.2	25.8	3.2
50~59歳(145)	26.2	35.2	13.1	40.7	32.4	34.5	40.0	21.4	21.4	20.0	2.1
60~69歳(221)	26.2	29.9	19.9	34.4	38.5	38.0	47.1	22.2	23.1	19.0	0.5
70~79歳(219)	24.2	33.3	14.6	34.7	30.1	32.0	29.2	19.6	23.3	21.5	0.5
80歳以上(103)	29.1	29.1	23.3	23.3	31.1	30.1	27.2	22.3	15.5	28.2	0.0
白浜(124)	26.6	31.5	20.2	38.7	32.3	40.3	39.5	20.2	16.9	19.4	2.4
松蔭(79)	36.7	30.4	11.4	39.2	43.0	35.4	40.5	21.5	29.1	21.5	1.3
江戸岡(87)	32.2	32.2	18.4	37.9	29.9	36.8	43.7	23.0	28.7	23.0	1.1
神山(130)	23.1	32.3	14.6	33.8	26.2	30.8	24.6	20.0	20.8	23.8	0.8
日土(32)	18.8	34.4	25.0	31.3	34.4	34.4	31.3	37.5	15.6	31.3	0.0
双岩(35)	14.3	42.9	14.3	31.4	25.7	17.1	25.7	22.9	20.0	20.0	0.0
大島(7)	42.9	14.3	14.3	14.3	28.6	28.6	57.1	42.9	14.3	28.6	0.0
真穴(26)	15.4	26.9	19.2	34.6	23.1	30.8	34.6	15.4	23.1	23.1	0.0
川上(23)	34.8	21.7	13.0	34.8	34.8	56.5	39.1	17.4	17.4	26.1	0.0
舌田(26)	26.9	42.3	23.1	34.6	30.8	38.5	46.2	15.4	19.2	34.6	3.8
千丈(88)	33.0	36.4	28.4	36.4	29.5	35.2	42.0	20.5	19.3	23.9	0.0
川之内(4)	50.0	50.0	25.0	25.0	25.0	50.0	25.0	25.0	50.0	25.0	0.0
日土東(6)	16.7	50.0	33.3	16.7	50.0	50.0	50.0	16.7	16.7	16.7	0.0
喜須来(69)	14.5	31.9	23.2	30.4	30.4	34.8	40.6	10.1	21.7	20.3	1.4
川之石(63)	22.2	31.7	14.3	34.9	27.0	30.2	41.3	25.4	14.3	23.8	1.6
宮内(106)	26.4	41.5	17.0	33.0	34.0	35.8	34.9	17.0	18.9	17.9	0.9
磯津(11)	27.3	54.5	27.3	45.5	45.5	45.5	27.3	45.5	27.3	36.4	0.0

■は属性ごとに回答割合の高い上位3つ



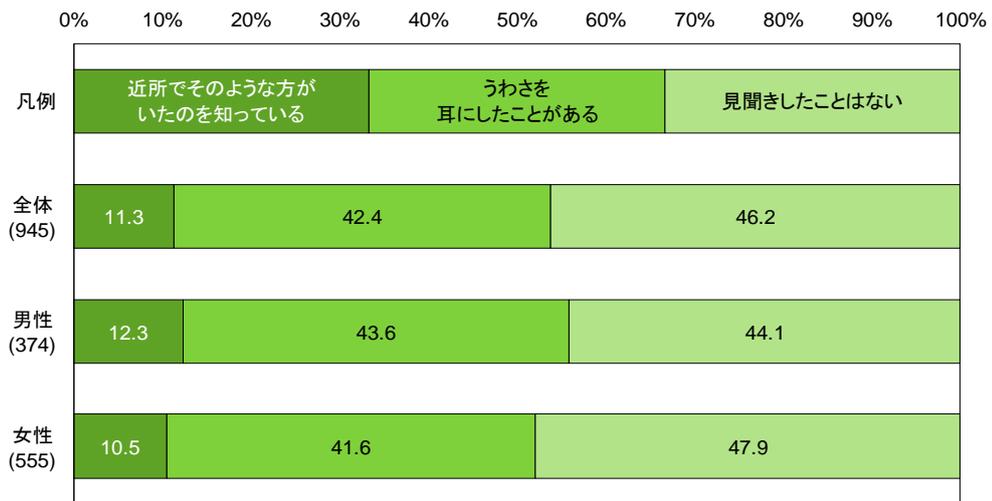
考察〈問31〉

●問31 子どもの貧困問題については、特に59歳以下の現役世代では、奨学金制度の充実や親の就労支援など、子どもへの直接的な支援よりも、家庭への経済的支援、親の雇用面での支援ニーズが高くなっている。

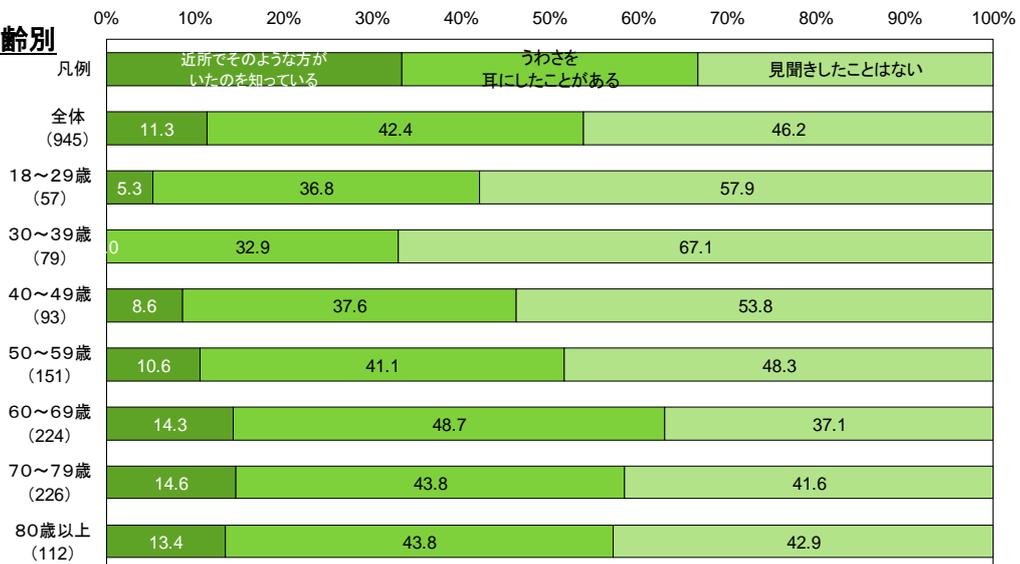
問32 あなたは、孤立死について見聞きしたことがありますか。(○は1つ)

- 全体的には「見聞きしたことはない」が46.2%と最も高く、「うわさを耳にしたことがある」(42.4%)、「近所でそのような方がいたのを知っている」(11.3%)と続く。
- 性別では、特に傾向はみられない。
- 年齢別では、18～29歳、30代では「近所でそのような方がいたのを知っている」の割合が低いが、年齢が高くなるにつれて、「近所でそのような方がいたのを知っている」「うわさを耳にしたことがある」の割合が高くなっている。

性別



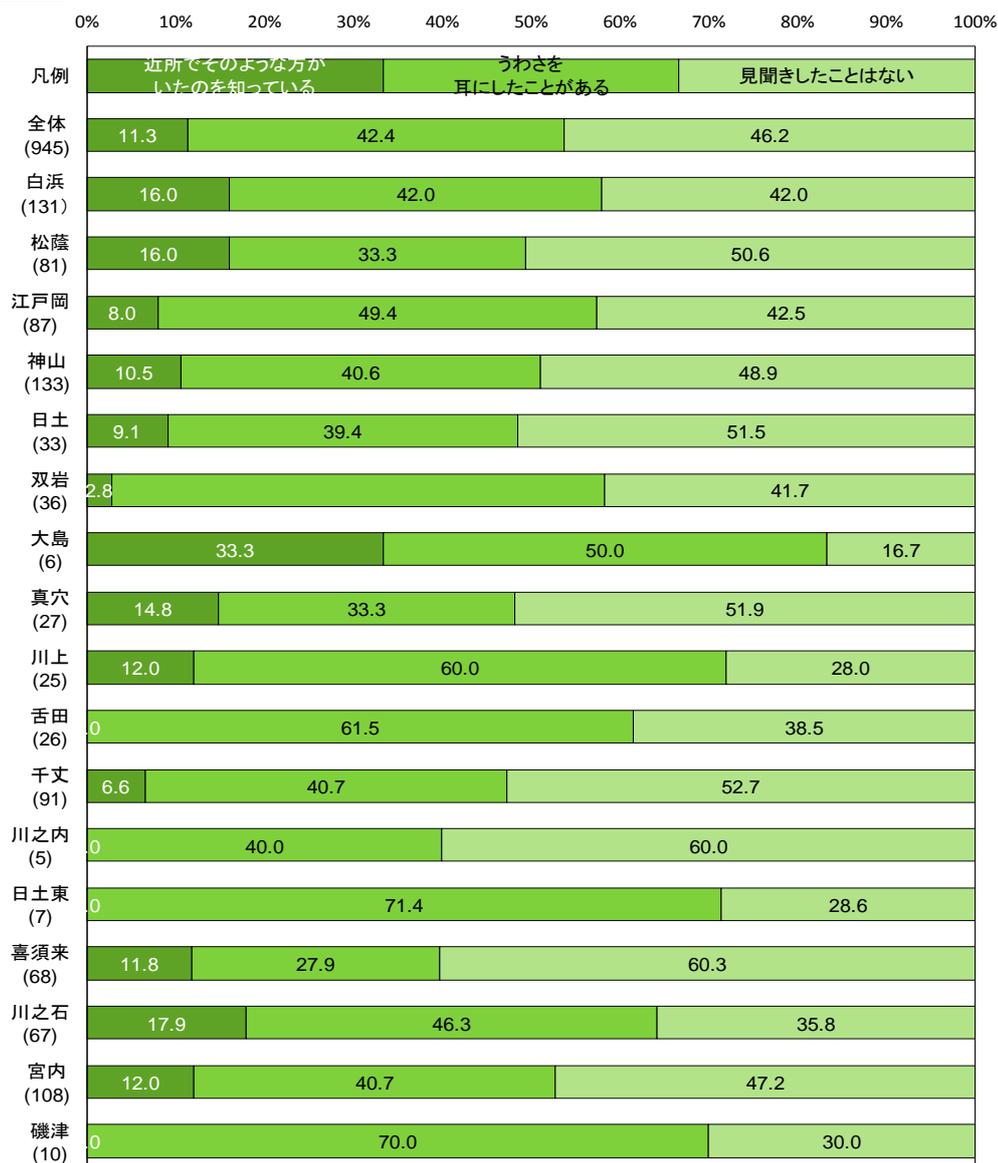
年齢別



【続き】(問32 あなたは、孤立死について見聞きしたことがありますか。(〇は1つ))

- 居住地別では、旧八幡浜市の中心部及び旧保内町の中心部において、「近所でそのような方がいたのを知っている」の割合がやや高くなっている。人口密度が高い分、身近で孤立死について見聞きする可能性が高いことが想定される。

### 居住地別



#### 考察 〈問32〉

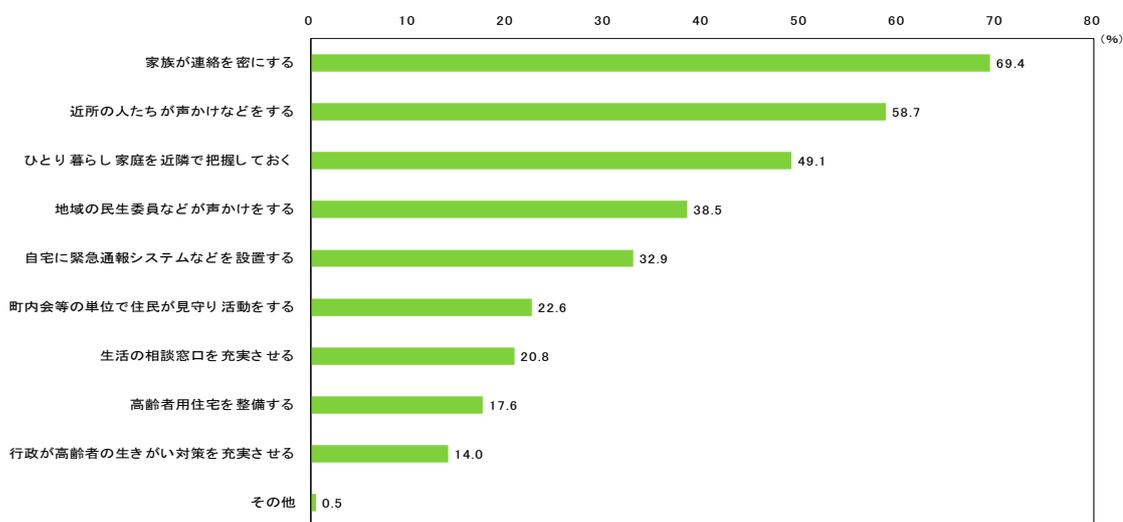
- 問32 孤立死については、1割以上の方が近所で孤立死をした人がいたことを知っている。うわさを耳にしたことがある人も含めると、半数以上を占めており、極めて身近な問題となっていることがうかがえる。

問33 孤立死を防止するには、どうしたらよいと思いますか。(あてはまる番号すべてに○)

- 全体的には「日ごろから、家族が連絡を密にする」が69.4%と最も高く、「日ごろから、近所の人たちが声かけや見守りをする」(58.7%)、「どこの家庭がひとり暮らしかを近隣の人たちが把握しておく」(49.1%)と続く。
- 性別では、順位に違いはみられないが、全体的に各選択肢に対する女性の回答割合が高くなっている。
- 年齢別では、特に傾向はみられないが、「自宅に緊急通報システムなどを設置する」の割合が50代以下では20～30%となっているのに対して、60代以上では35～40%と高く、年齢の高い層でのニーズがやや高いことがうかがえる。
- 居住地別では、特に傾向の違いはみられない。

	家族が連絡を密にする	近所の人たちが声かけなどをとする	地域の民生委員などが声かけをする	ひとり暮らし家庭を近隣で把握しておく	町内会等の単位で住民が見守り活動をする	高齢者用住宅を整備する	自宅に緊急通報システムなどを設置する	行政が高齢者の生きがい対策を充実させる	生活の相談窓口を充実させる	その他
全体(957)	69.4	58.7	38.5	49.1	22.6	17.6	32.9	14.0	20.8	0.5
男性(374)	66.3	54.3	35.3	46.0	20.3	14.2	30.2	15.2	20.3	0.5
女性(565)	71.2	61.9	40.9	51.2	24.2	19.6	34.5	13.5	21.2	0.4
18～29歳(57)	63.2	56.1	24.6	38.6	19.3	21.1	26.3	12.3	15.8	0.0
30～39歳(78)	69.2	47.4	44.9	43.6	24.4	25.6	20.5	16.7	26.9	1.3
40～49歳(95)	70.5	52.6	44.2	47.4	28.4	21.1	26.3	20.0	16.8	1.1
50～59歳(151)	66.9	57.0	41.1	48.3	28.5	20.5	29.1	13.2	18.5	0.7
60～69歳(224)	71.9	60.3	40.6	54.9	23.7	18.8	41.1	12.9	24.1	0.0
70～79歳(234)	67.1	61.5	35.5	50.0	19.2	12.4	35.0	13.2	19.7	0.4
80歳以上(115)	73.9	66.1	35.7	47.8	15.7	12.2	35.7	13.0	20.9	0.9
白浜(132)	66.7	56.1	39.4	38.6	18.9	20.5	33.3	17.4	23.5	0.8
松蔭(81)	72.8	54.3	34.6	45.7	29.6	19.8	34.6	12.3	19.8	2.5
江戸岡(90)	67.8	56.7	41.1	46.7	27.8	20.0	41.1	23.3	26.7	0.0
神山(135)	61.5	55.6	40.0	43.7	25.9	17.8	27.4	10.4	18.5	0.0
日土(33)	75.8	81.8	30.3	69.7	15.2	9.1	27.3	15.2	24.2	0.0
双岩(7)	67.6	51.4	37.8	51.4	24.3	10.8	35.1	8.1	8.1	2.7
大島(7)	71.4	57.1	28.6	28.6	14.3	0.0	0.0	0.0	28.6	0.0
真穴(26)	57.7	50.0	46.2	61.5	11.5	11.5	26.9	19.2	34.6	0.0
川上(25)	80.0	76.0	36.0	56.0	32.0	8.0	28.0	4.0	20.0	0.0
舌田(27)	77.8	70.4	48.1	81.5	14.8	3.7	11.1	7.4	25.9	0.0
千丈(93)	76.3	61.3	35.5	57.0	23.7	18.3	40.9	14.0	20.4	1.1
川之内(5)	100.0	100.0	20.0	40.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	0.0
日土東(6)	50.0	83.3	0.0	50.0	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	0.0
喜須来(68)	67.6	55.9	33.8	45.6	13.2	13.2	20.6	13.2	19.1	0.0
川之石(68)	63.2	60.3	39.7	51.5	22.1	17.6	36.8	11.8	19.1	0.0
宮内(108)	74.1	56.5	41.7	50.0	24.1	22.2	37.0	12.0	16.7	0.0
磯津(11)	90.9	72.7	54.5	36.4	18.2	27.3	63.6	36.4	27.3	0.0

■は属性ごとに回答割合の高い上位3つ



考察〈問33〉

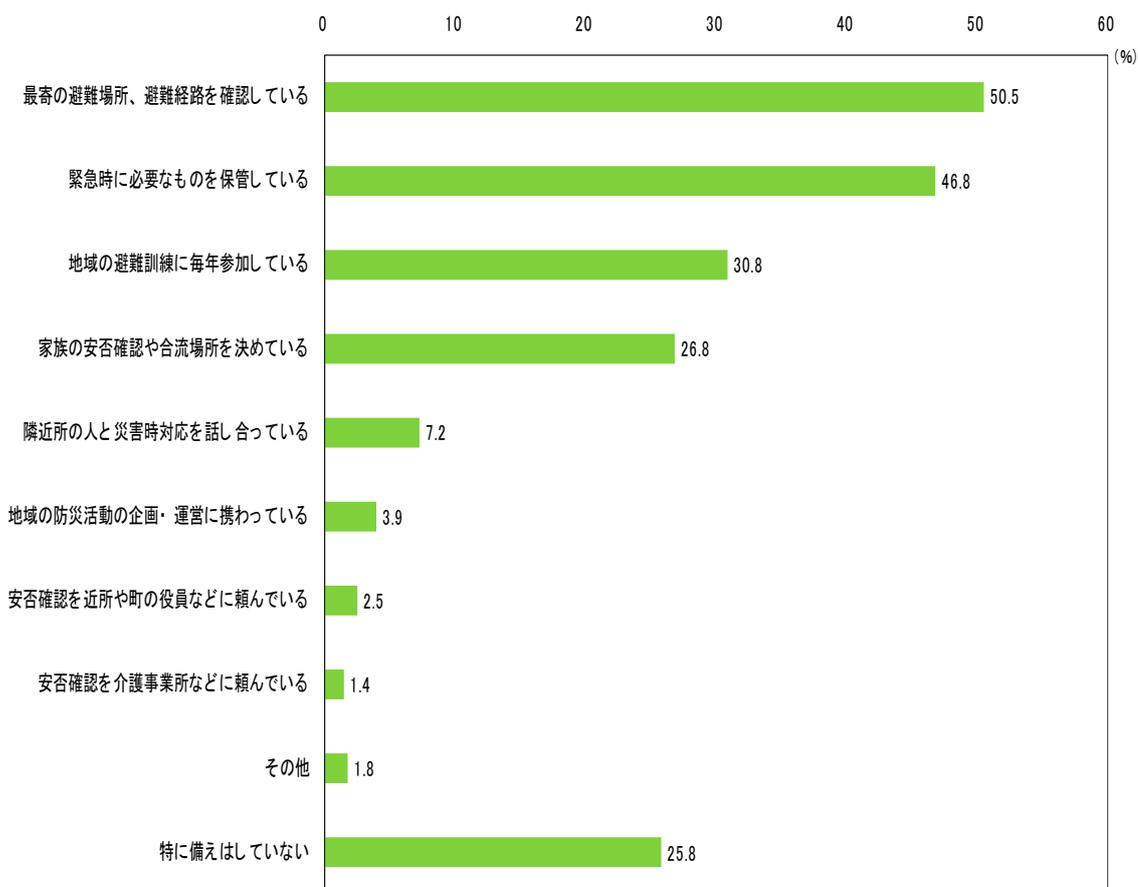
●問33 孤立死の防止に向けては、家族が連絡を密にすることが最も重要と考えられているが、それに次いで「近所の人たちによる声かけ」や「ひとり暮らし家庭の近隣での把握」が高くなっており、近隣での互いの支え合いが必要と認識されている。

問34 地震災害など、いざという時のために日ごろからどのような備えをしていますか。(あてはまる番号すべてに○)

- 全体的には「最寄りの避難場所、避難経路を確認している」が50.5%と最も高く、「緊急時に必要なものをリュック等に入れて保管している」(46.8%)、「地域の避難訓練に毎年参加している」(30.8%)と続く。「特に備えはしていない」人は4分の1程度存在する。
- 性別では、特に傾向の違いはみられない。
- 年齢別では、上位2つの選択肢はほぼ変わらないが、30代、40代では特に「被災したときの家族の安否確認や合流場所についてあらかじめ決めていく」の割合が高くなっている。一方、50代～70代では、「地域の避難訓練に毎年参加している」の割合が高くなっている。80歳以上では、「特に備えはしていない」が唯一3割を超えている。
- 居住地別では、特に傾向の違いはみられない。

	緊急時に必要なものを保管している	家族の安否確認や合流場所を決めている	最寄りの避難場所、避難経路を確認している	地域の避難訓練に毎年参加している	安否確認を近所や町の役員などに頼んでいる	安否確認を介護事業所などに頼んでいる	隣近所の人と災害時対応を話し合っている	地域の防災活動の企画・運営に携わっている	その他	特に備えはしていない
全体(966)	46.8	26.8	50.5	30.8	2.5	1.4	7.2	3.9	1.8	25.8
男性(380)	43.2	25.0	47.4	29.7	1.8	1.3	7.1	4.7	1.1	27.1
女性(567)	49.2	28.0	53.3	31.7	3.0	1.4	7.4	3.5	2.1	24.9
18～29歳(58)	48.3	27.6	44.8	12.1	3.4	1.7	1.7	1.7	0.0	25.9
30～39歳(79)	59.5	35.4	32.9	20.3	1.3	1.3	1.3	3.8	0.0	27.8
40～49歳(95)	53.7	38.9	44.2	32.6	1.1	1.1	4.2	2.1	3.2	26.3
50～59歳(151)	44.4	26.5	50.3	27.8	0.7	0.7	4.6	4.6	3.3	23.8
60～69歳(226)	43.8	20.8	55.8	38.5	1.8	1.8	4.4	5.8	2.2	22.6
70～79歳(236)	50.0	26.7	57.2	36.4	2.5	0.4	10.2	4.2	0.8	23.7
80歳以上(118)	34.7	23.7	48.3	23.7	7.6	4.2	19.5	1.7	1.7	35.6
白浜(135)	43.0	31.9	50.4	20.0	1.5	0.7	2.2	2.2	1.5	32.6
松蔭(81)	42.0	22.2	50.6	11.1	2.5	2.5	6.2	4.9	3.7	30.9
江戸岡(89)	50.6	31.5	55.1	16.9	1.1	0.0	9.0	5.6	1.1	25.8
神山(135)	51.1	21.5	42.2	21.5	3.0	0.0	3.0	0.0	0.7	28.1
日土(32)	40.6	31.3	43.8	50.0	6.3	0.0	9.4	6.3	0.0	25.0
双岩(37)	45.9	32.4	40.5	37.8	2.7	2.7	8.1	8.1	2.7	24.3
大島(7)	71.4	42.9	57.1	100.0	28.6	0.0	28.6	14.3	0.0	14.3
真穴(29)	69.0	41.4	79.3	55.2	0.0	3.4	13.8	13.8	3.4	6.9
川上(25)	44.0	32.0	56.0	48.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	20.0
舌田(27)	48.1	11.1	55.6	55.6	3.7	3.7	3.7	11.1	0.0	22.2
千文(93)	48.4	28.0	44.1	31.2	4.3	6.5	11.8	4.3	4.3	26.9
川之内(5)	60.0	20.0	40.0	100.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0
日土東(6)	50.0	16.7	66.7	100.0	0.0	0.0	16.7	16.7	0.0	0.0
喜須来(71)	43.7	19.7	43.7	26.8	2.8	0.0	11.3	1.4	4.2	22.5
川之石(69)	52.2	23.2	63.8	42.0	1.4	1.4	7.2	4.3	0.0	21.7
宮内(108)	41.7	27.8	51.9	39.8	0.9	0.9	7.4	2.8	0.0	24.1
磯津(12)	25.0	16.7	58.3	41.7	0.0	0.0	8.3	8.3	8.3	25.0

■は属性ごとに回答割合の高い上位3つ



#### 考察 〈問34〉

- 問34 災害などいざというときのための備えとしては、備蓄のほか、「最寄の避難所、避難経路の確認」や「避難訓練への参加」が多くなっている。

#### 考察 〈問29-34〉

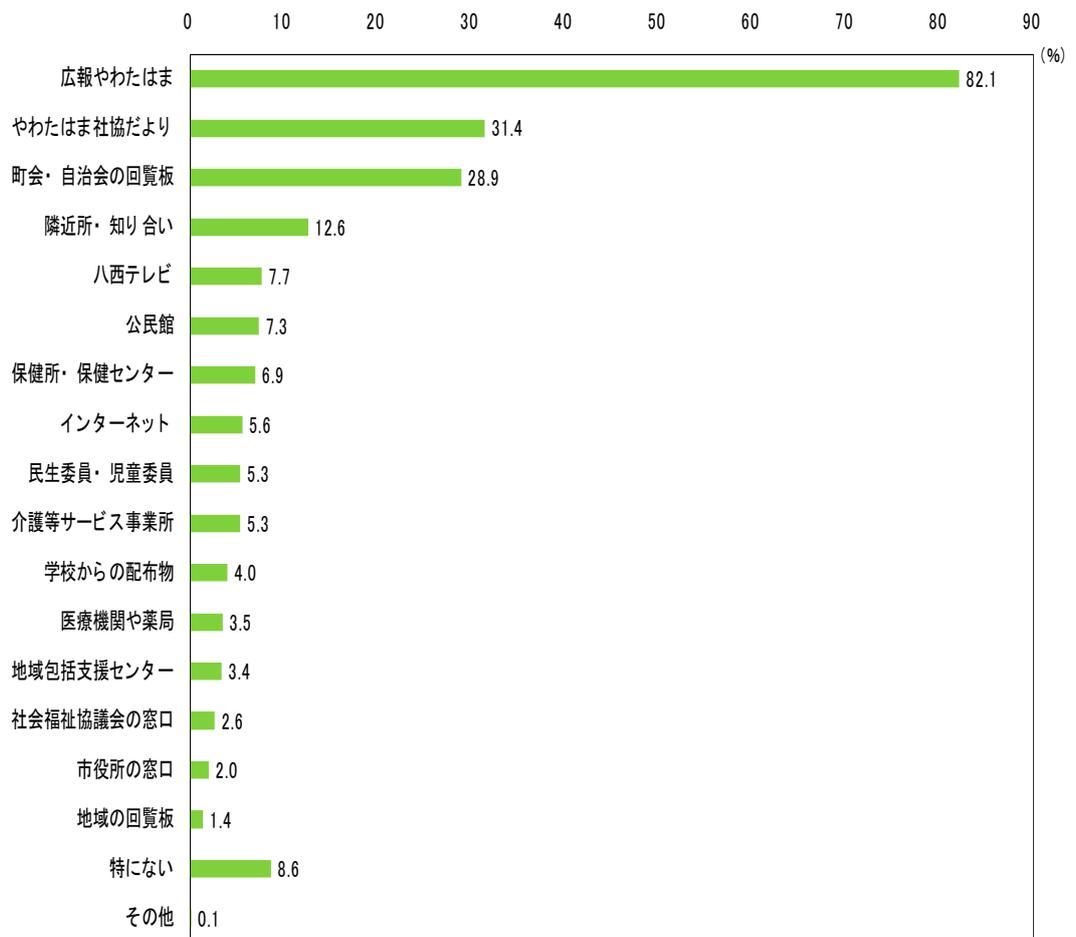
- 問29-34 子どもの虐待、貧困、孤独死や孤立死などは、より身近な問題として捉えられており、地域福祉に対する市民の関心は極めて高い。これらの問題への対応として、経済的支援など公的な面からの支援に加え、他人事としてではなく、我が事・地域事として、見守りや声かけなど負担の少ない活動から相互に支え合っていくことも重要と考えられる。

問35 あなたは、福祉サービスや福祉活動に関する情報をどこから入手していますか。  
(あてはまる番号すべてに○)

- 全体的には「広報やわたはま」が82.1%と最も高く、「やわたはま社協だより」(31.4%)、「町会・自治会の回覧板」(28.9%)と続く。「広報やわたはま」が圧倒的に多い。
- 性別では、特に傾向の違いはみられないが、女性では、「隣近所・知り合い」から入手する方が16%と多く、男性の2倍以上となっている。
- 年齢別では、上位の傾向はあまり変わらないが、18～29歳は「特にない」の割合が20%を超えている。子育て世代である30代、40代では「学校からの配布物」の割合がやや高くなっている。
- 居住地別では、上位の傾向はあまり変わらないが、「隣近所・知り合い」から入手する人の割合が高い地区(例日土地区(20.7%)、舌田地区(18.5%))や、「公民館」から入手する人の割合が高い地区(例 磯津地区(33.3%)、大島地区(28.6%))がみられる。

	広報やわたはま	やわたはま社協だより	町会・自治会の回覧板	地域の回覧板	市役所の窓口	社会福祉協議会の窓口	隣近所・知り合い	学校からの配布物	民生委員・児童委員	インターネット	八西テレビ	介護等サービス事業所	保健所・保健センター	医療機関や薬局	公民館	地域包括支援センター	特にない	その他
全体(954)	82.1	31.4	28.9	1.4	2.0	2.6	12.6	4.0	5.3	5.6	7.7	5.3	6.9	3.5	7.3	3.4	8.6	0.1
男性(571)	78.7	29.4	27.2	1.1	1.3	1.9	7.3	2.7	3.8	6.5	7.3	4.0	6.5	3.8	8.1	2.7	12.1	0.0
女性(567)	84.0	32.8	30.0	1.6	2.3	3.2	16.0	4.9	6.3	4.8	7.8	6.2	7.1	3.0	6.9	3.9	6.3	0.2
18～29歳(55)	56.4	14.5	16.4	1.8	3.6	1.8	1.8	5.5	1.8	12.7	9.1	5.5	10.9	3.6	0.0	0.0	21.8	0.0
30～39歳(79)	81.0	15.2	24.1	0.0	1.3	0.0	10.1	12.7	2.5	16.5	10.1	3.8	0.0	3.8	3.8	0.0	15.2	0.0
40～49歳(96)	84.4	27.1	22.9	1.0	2.1	0.0	7.3	18.8	1.0	12.5	7.3	2.1	4.2	3.1	6.3	1.0	11.5	0.0
50～59歳(151)	79.5	23.2	25.2	1.3	2.0	0.7	7.3	1.3	2.6	7.9	8.6	2.6	2.6	2.6	2.0	2.6	11.9	0.0
60～69歳(228)	89.0	38.6	30.7	1.3	2.2	2.2	11.8	1.3	5.3	2.6	5.7	7.5	10.5	3.9	9.6	3.1	5.3	0.0
70～79歳(228)	85.5	39.0	34.2	1.8	2.2	4.8	18.0	0.9	7.0	1.3	7.5	5.7	7.5	3.9	11.0	3.9	3.9	0.4
80歳以上(114)	75.4	35.1	34.2	1.8	0.9	6.1	21.9	0.0	13.2	0.0	7.9	7.9	9.6	2.6	9.6	9.6	7.0	0.0
白浜(134)	77.6	23.1	38.8	0.0	2.2	4.5	6.7	3.0	9.7	6.0	6.7	8.2	9.7	2.2	8.2	6.7	11.9	0.0
松尾(81)	87.7	34.6	12.3	0.0	2.5	2.5	11.1	3.7	1.2	6.2	6.2	4.9	3.7	3.7	3.7	0.0	7.4	0.0
江戸岡(89)	84.3	27.0	9.0	2.2	3.4	2.2	13.5	3.4	5.6	4.5	6.7	2.2	7.9	4.5	6.7	1.1	12.4	0.0
神山(131)	83.2	29.8	33.6	0.0	0.8	0.8	9.9	2.3	3.1	3.8	4.6	3.8	7.6	0.8	3.8	3.1	9.2	0.0
日土(29)	86.2	41.4	10.3	3.4	0.0	0.0	20.7	6.9	10.3	3.4	6.9	3.4	3.4	6.9	10.3	0.0	3.4	0.0
双岩(57)	78.4	27.0	37.8	0.0	0.0	0.0	10.8	0.0	2.7	13.5	5.4	5.4	8.1	8.1	10.8	0.0	13.5	0.0
大島(7)	100.0	28.6	14.3	0.0	0.0	0.0	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	28.6	42.9	14.3	28.6	14.3	0.0	0.0
真穴(27)	85.2	33.3	29.6	0.0	0.0	0.0	14.8	7.4	11.1	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	14.8	3.7	0.0	0.0
川上(25)	76.0	36.0	20.0	0.0	4.0	0.0	8.0	0.0	0.0	12.0	4.0	8.0	0.0	0.0	8.0	4.0	12.0	0.0
舌田(27)	77.8	40.7	18.5	0.0	3.7	3.7	18.5	0.0	7.4	7.4	7.4	11.1	3.7	3.7	11.1	0.0	7.4	3.7
千丈(93)	89.2	40.9	30.1	7.5	2.2	7.5	11.8	5.4	6.5	6.5	12.9	6.5	10.8	7.5	11.8	5.4	4.3	0.0
川之内(5)	80.0	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	20.0	20.0	0.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0
日土東(6)	83.3	33.3	16.7	0.0	16.7	16.7	16.7	0.0	0.0	33.3	16.7	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7	16.7	0.0
香須末(73)	83.6	39.7	34.2	1.4	2.7	1.4	16.4	8.2	2.7	6.8	15.1	5.5	1.4	2.7	4.1	2.7	8.2	0.0
川之石(67)	77.6	22.4	37.3	0.0	1.5	1.5	11.9	1.5	4.5	3.0	4.5	7.5	6.0	1.5	4.5	6.0	10.4	0.0
宮内(107)	76.6	29.9	38.3	0.0	1.9	2.8	17.8	6.5	4.7	4.7	5.6	1.9	7.5	3.7	3.7	1.9	7.5	0.0
磯津(12)	75.0	50.0	41.7	16.7	0.0	0.0	8.3	8.3	16.7	0.0	25.0	8.3	8.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0

■は属性ごとに回答割合の高い上位3つ



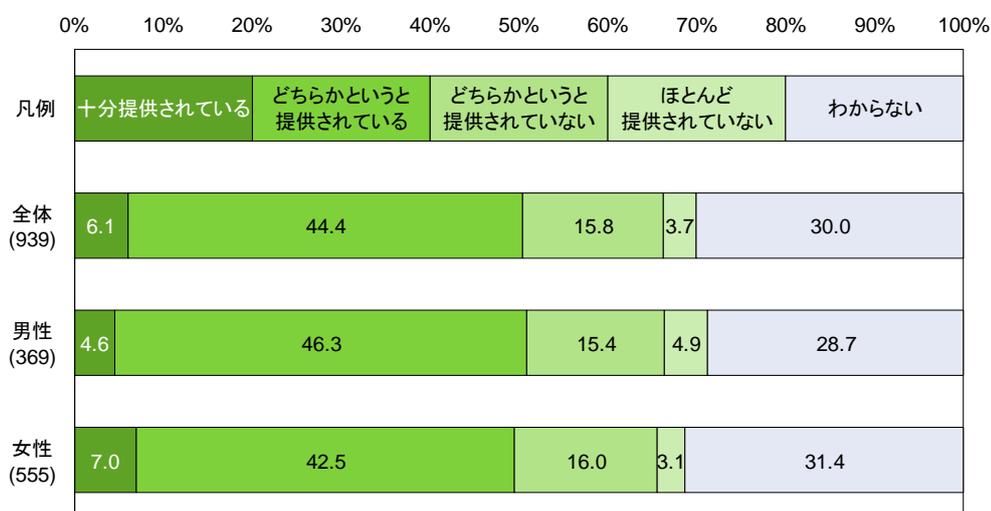
**考察 〈問35〉**

- 問35 福祉サービスなどに関する情報の入手元として、年齢層等に関係なく「広報やわたはま」が活用されていることが明らかとなった。「やわたはま社協だより」、「回覧版」も3割程度利用されているが、それ以外の手段のほとんどは1割を切っており、入手ルートがやや限定されていることがうかがえる。

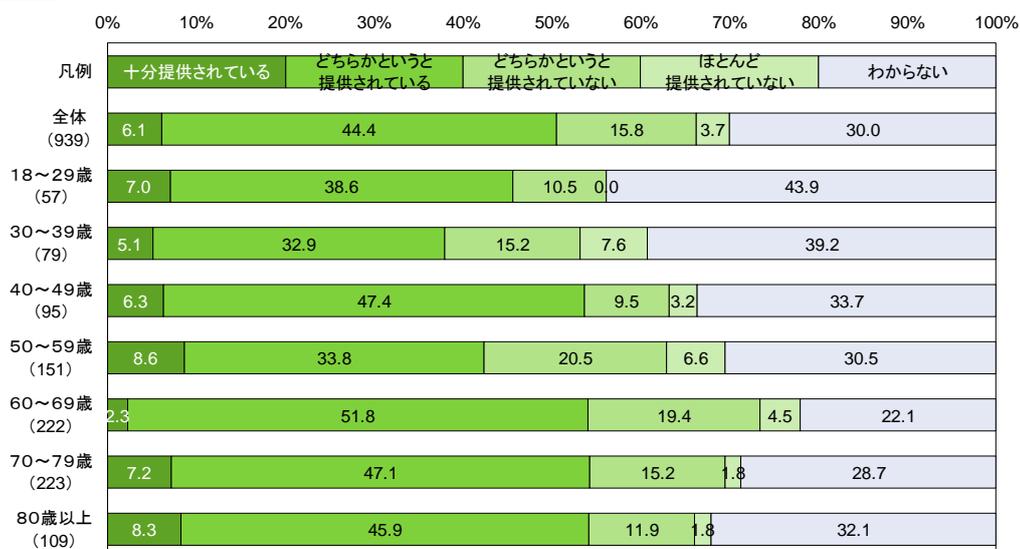
問36 あなたは、八幡浜市での福祉サービスや福祉活動の情報提供について、どのよう  
に感じていますか。(〇は1つ)

- 全体的には「どちらかというと提供されている」が44.4%と最も高く、「わからない」  
(30.0%)、「どちらかというと提供されていない」(15.8%)と続く。
- 性別では、特に傾向はみられない。
- 年齢別では、「十分提供されている」及び「どちらかというと提供されている」を合わせ  
た割合は概ね50%程度を占めているが、一概には言えないが、年齢層が低いほど、「わ  
からない」の割合が高い傾向がみられる。

### 性別



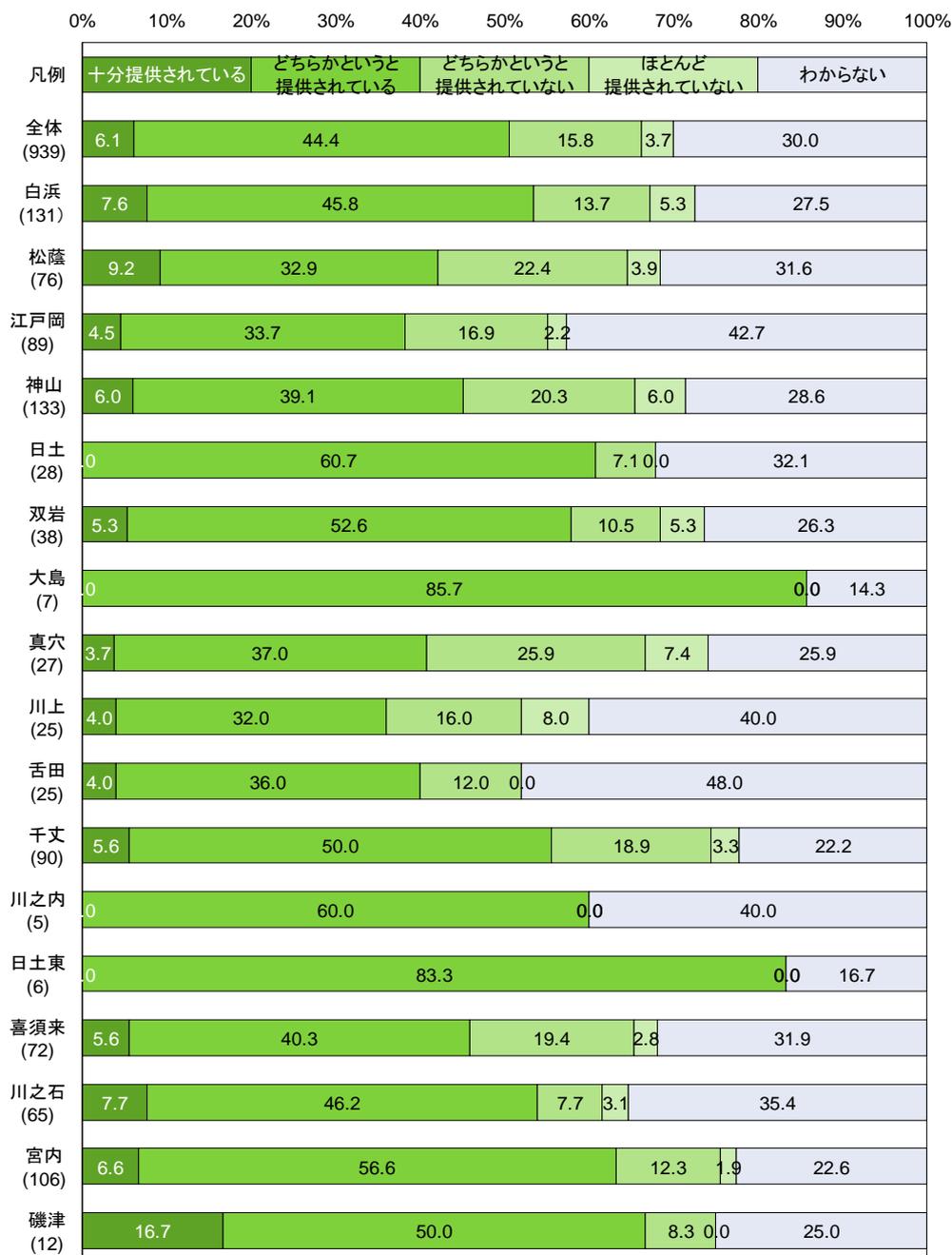
### 年齢別



【続き】問36 あなたは、八幡浜市での福祉サービスや福祉活動の情報提供について、  
どのように感じていますか。(〇は1つ)

●居住地別では、特に傾向はみられないが、地区によって情報提供の充実度に対する感じ方に差がみられる。

### 居住地別



問37 あなたは、福祉に関するさまざまな相談機関やその窓口の場所などの必要な福祉サービス情報を、十分入手できていますか。(〇は1つ)

- 全体的には「ある程度入手できている」が37.5%と最も高く、「あまり入手できていない」(24.2%)、「ほとんど入手できていない」(17.6%)と続く。入手できていると感じる人の割合(40.7%)と、入手できていないと感じる人の割合(41.8%)はほぼ同程度となっている。
- 性別では、特に傾向はみられない。
- 年齢別では、特に傾向はみられないが、問36の設問と同様に、年齢層が低いほど、「わからない」の割合がやや高い傾向がみられる。

**性別**



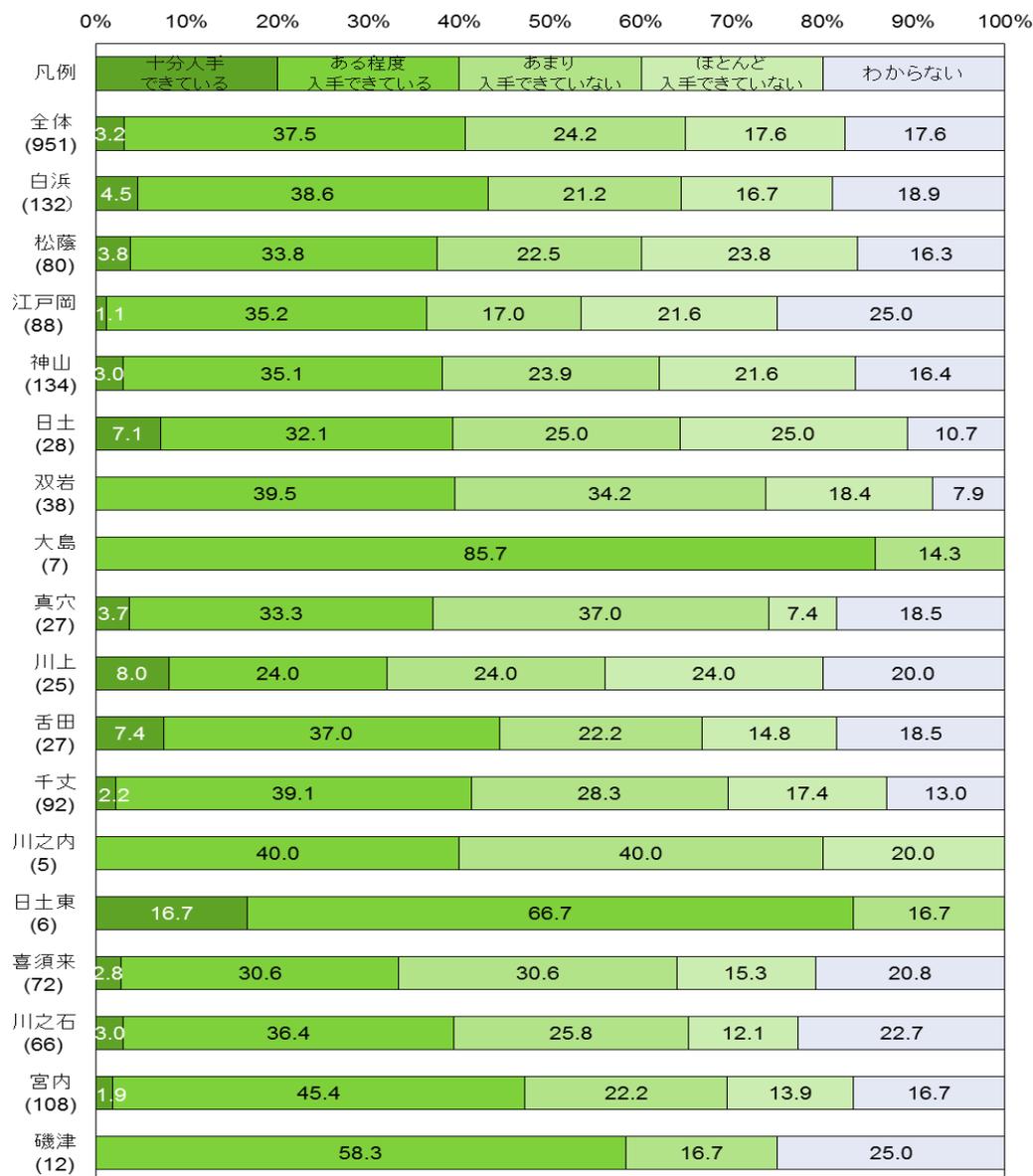
**年齢別**



【続き】問37 あなたは、福祉に関するさまざまな相談機関やその窓口の場所などの必要な福祉サービス情報を、十分入手できていますか。(〇は1つ)

●居住地別では、特に傾向はみられないが、問36の設問と同様、地区によって情報入手の程度に対する感じ方に差がみられる。

### 居住地別



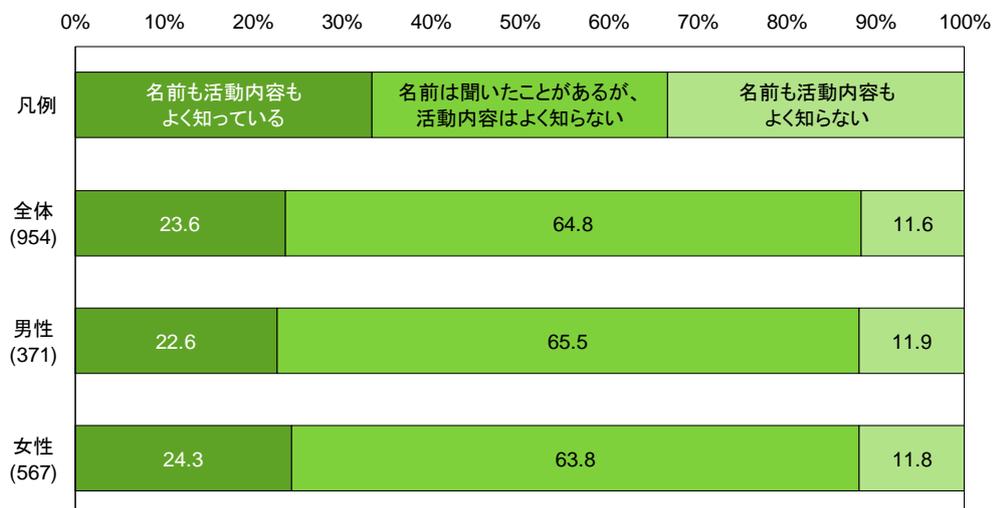
#### 考察〈問36・37〉

●問36・37 本市の福祉サービスや活動、相談機関、窓口の場所などに関する情報の入手度合として、入手できている人の割合は半数程度に留まっている。

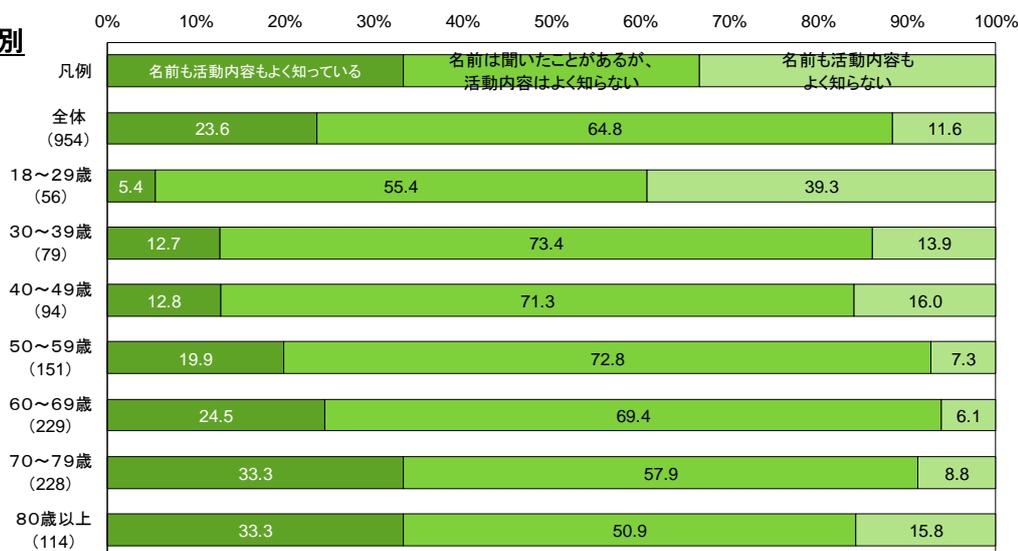
問38 あなたは、「八幡浜市社会福祉協議会」の活動について知っていますか。(〇は1つ)

- 全体的には「名前は聞いたことがあるが、活動内容はよく知らない」が64.8%と最も高く、「名前も活動内容もよく知っている」(23.6%)、「名前も活動内容もよく知らない」(11.6%)と続く。名前の認知度は90%近くあるものの、活動内容は知られていない状況がうかがえる。
- 性別では、特に傾向はみられない。
- 年齢別では、年齢層が高いほど、「名前も活動内容もよく知っている」の割合が高くなっており、70歳以上の認知度は3割に及んでいる。名前の認知度はどの年代も50%を超えており、相応に認知されている。18～29歳では、「名前も活動内容もよく知らない」が約40%と特に高くなっている。

### 性別



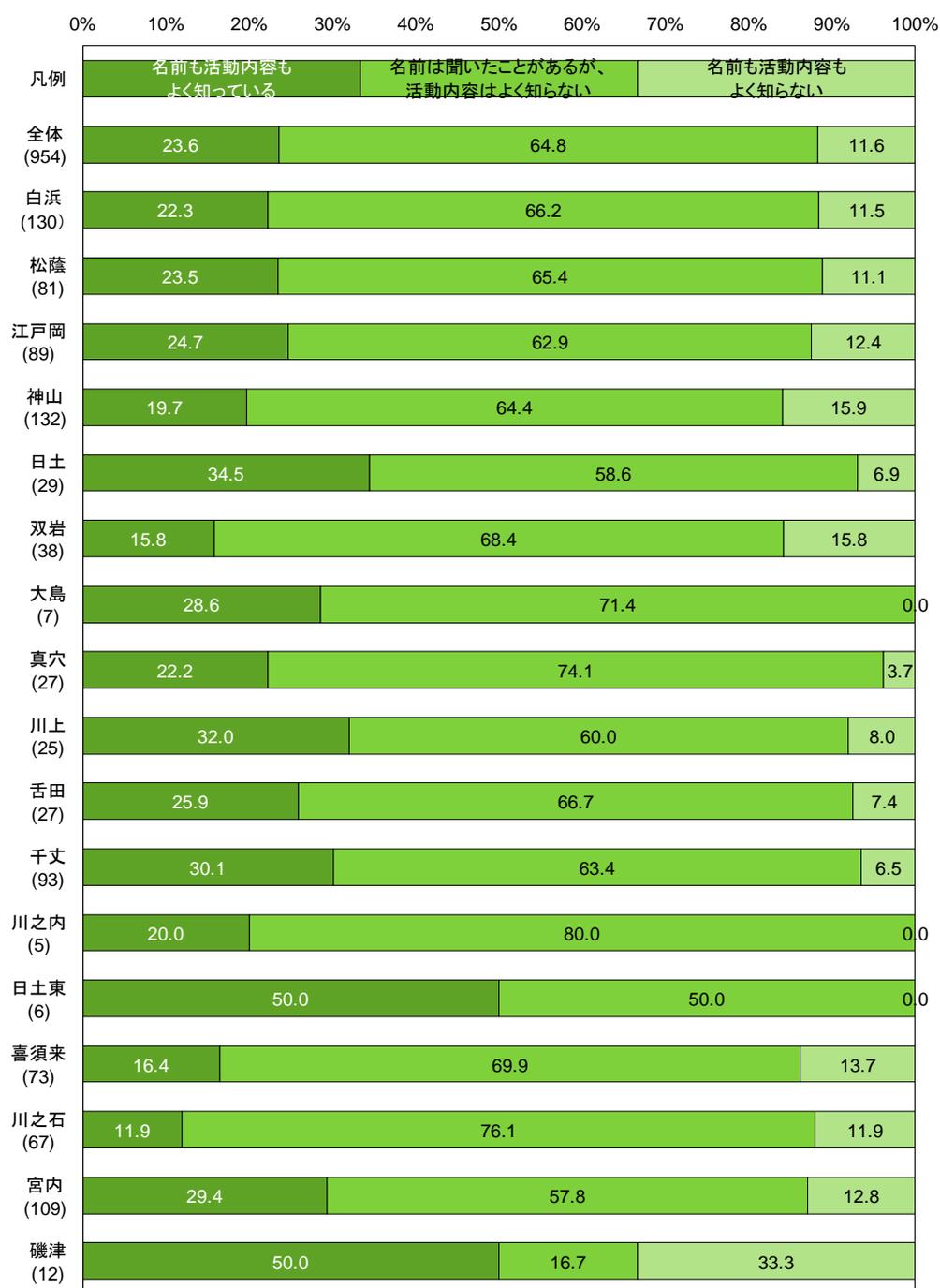
### 年齢別



【続き】問38 あなたは、「八幡浜市社会福祉協議会」の活動について知っていますか。  
(○は1つ)

●居住地別では、特に傾向の違いはみられないが、日土東(50.0%)や磯津地区(50.0%)、日土地区(34.5%)、川上地区(32.0%)、千丈地区(30.1%)は特に、名前と活動内容に対する認知度が高い。

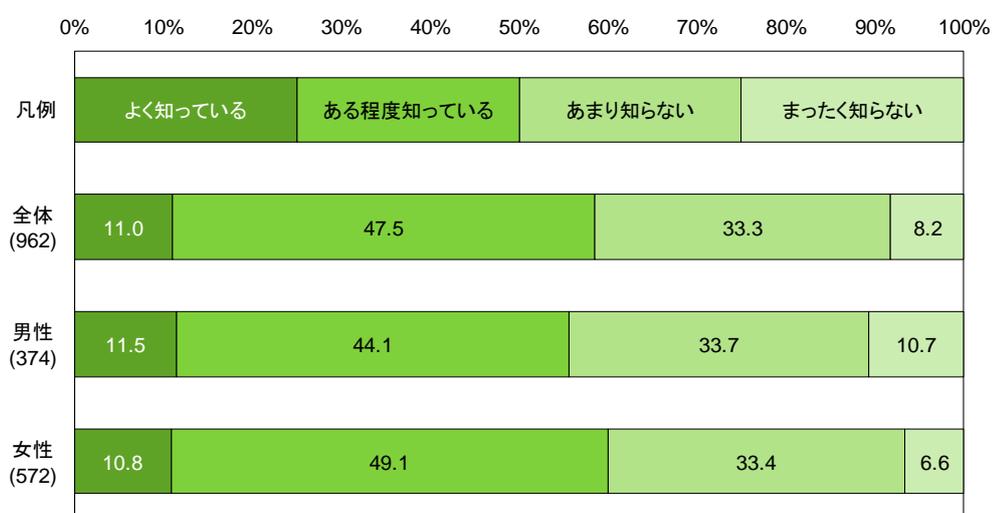
### 居住地別



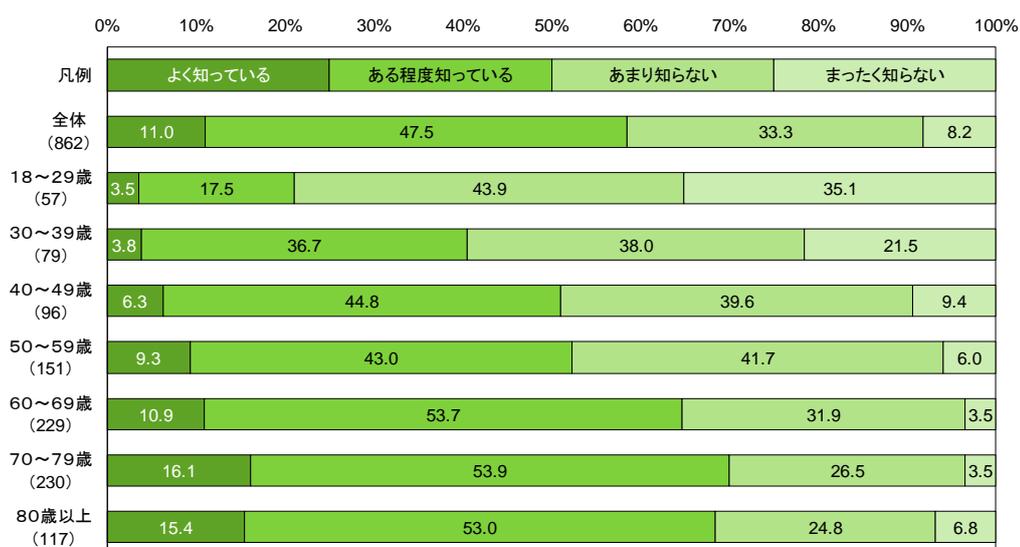
問39 あなたは、民生委員・児童委員の役割を知っていますか。(○は1つ)

- 全体的には「ある程度知っている」が47.5%と最も高く、「あまり知らない」(33.3%)、「よく知っている」(11.0%)と続く。認知度(「よく知っている」と「ある程度知っている」の合計)は60%程度となっている。
- 性別では、特に傾向はみられない。
- 年齢別では、年齢層が高いほど認知度が高く、18～29歳、30～39歳では、「あまり知らない」と「まったく知らない」の合計が半数を超えている。

**性別**



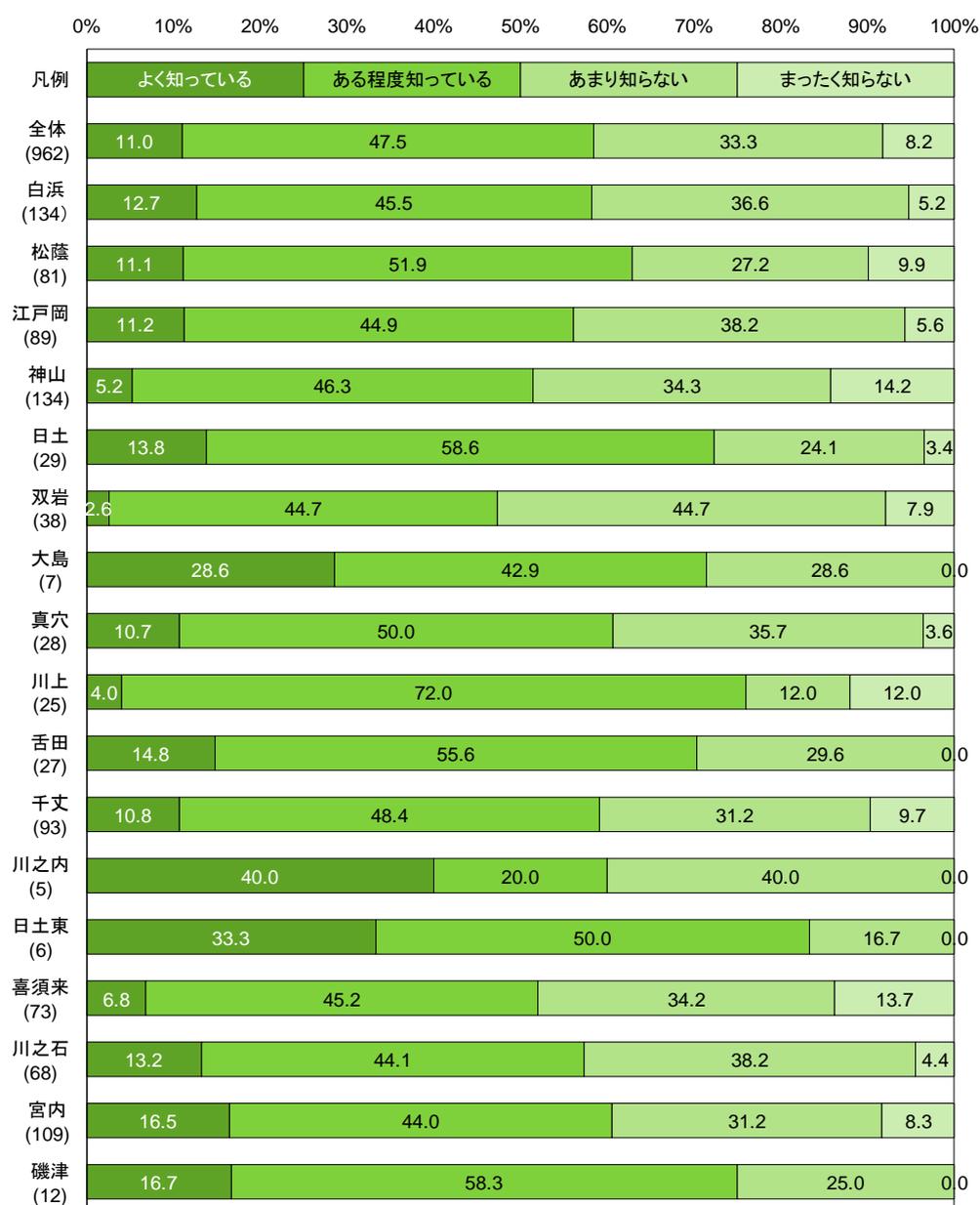
**年齢別**



【続き】問39 あなたは、民生委員・児童委員の役割を知っていますか。(〇は1つ)

- 居住地別では、特に傾向はみられないが、川上地区(76.0%)や日土地区(72.4%)、舌田地区(70.4%)などでは、「よく知っている」と「ある程度知っている」の合計が70%を超えており、他の地区よりも認知度が高い。

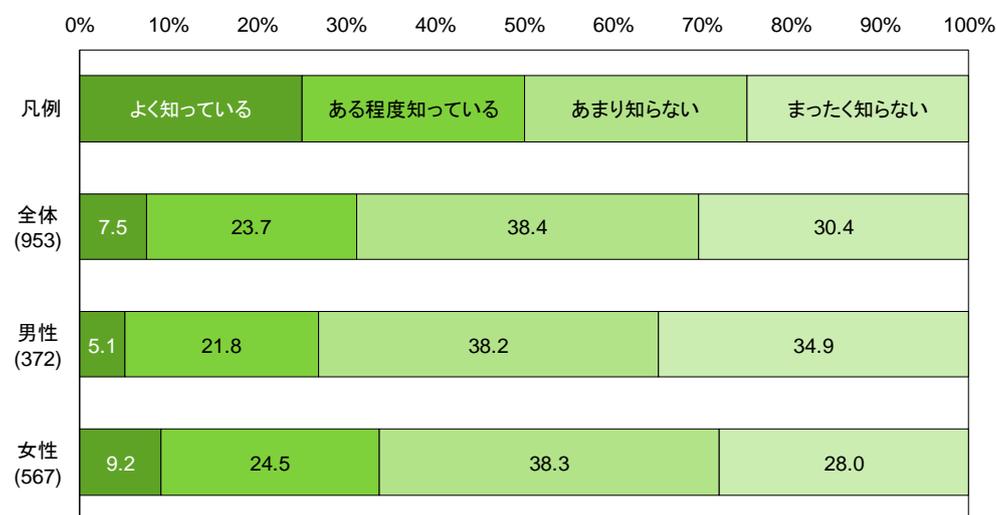
居住地別



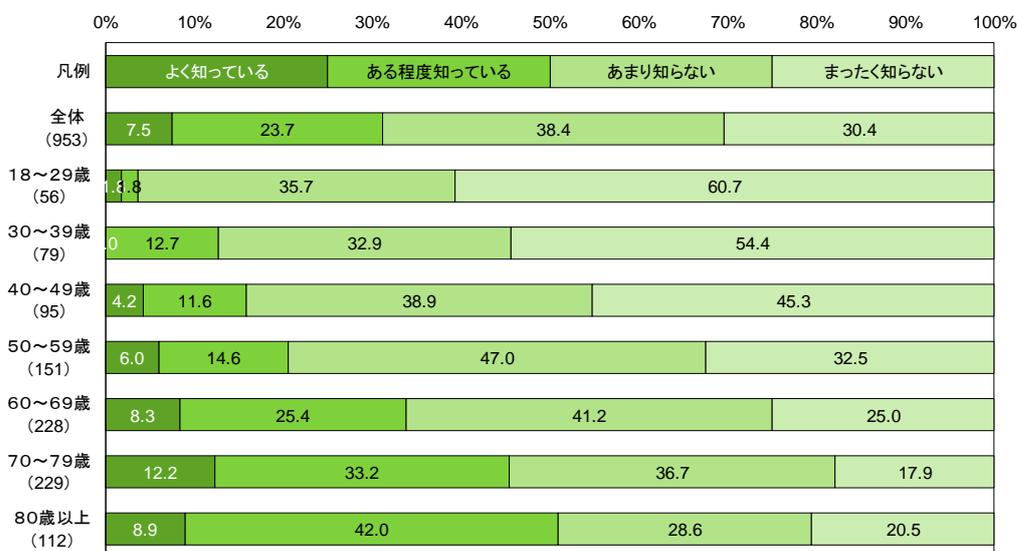
問40 あなたは、独居高齢者等見守りネットワーク事業を知っていますか。(〇は1つ)

- 全体的には「あまり知らない」が38.4%と最も高く、「まったく知らない」(30.4%)、「ある程度知っている」(23.7%)と続く。八幡浜市社会福祉協議会(問38)や民生委員・児童委員(問39)に比べると、認知度(「よく知っている」と「ある程度知っている」の合計)が低い。
- 性別では、大きくは変わらないが、女性の認知度の方がやや高い。
- 年齢別では、問38や問39と同様に、年齢層が高いほど認知度が高くなっている。18～29歳では、「あまり知らない」と「まったく知らない」の合計が96%となっており、ほとんど知られていない状況にある。

**性別**



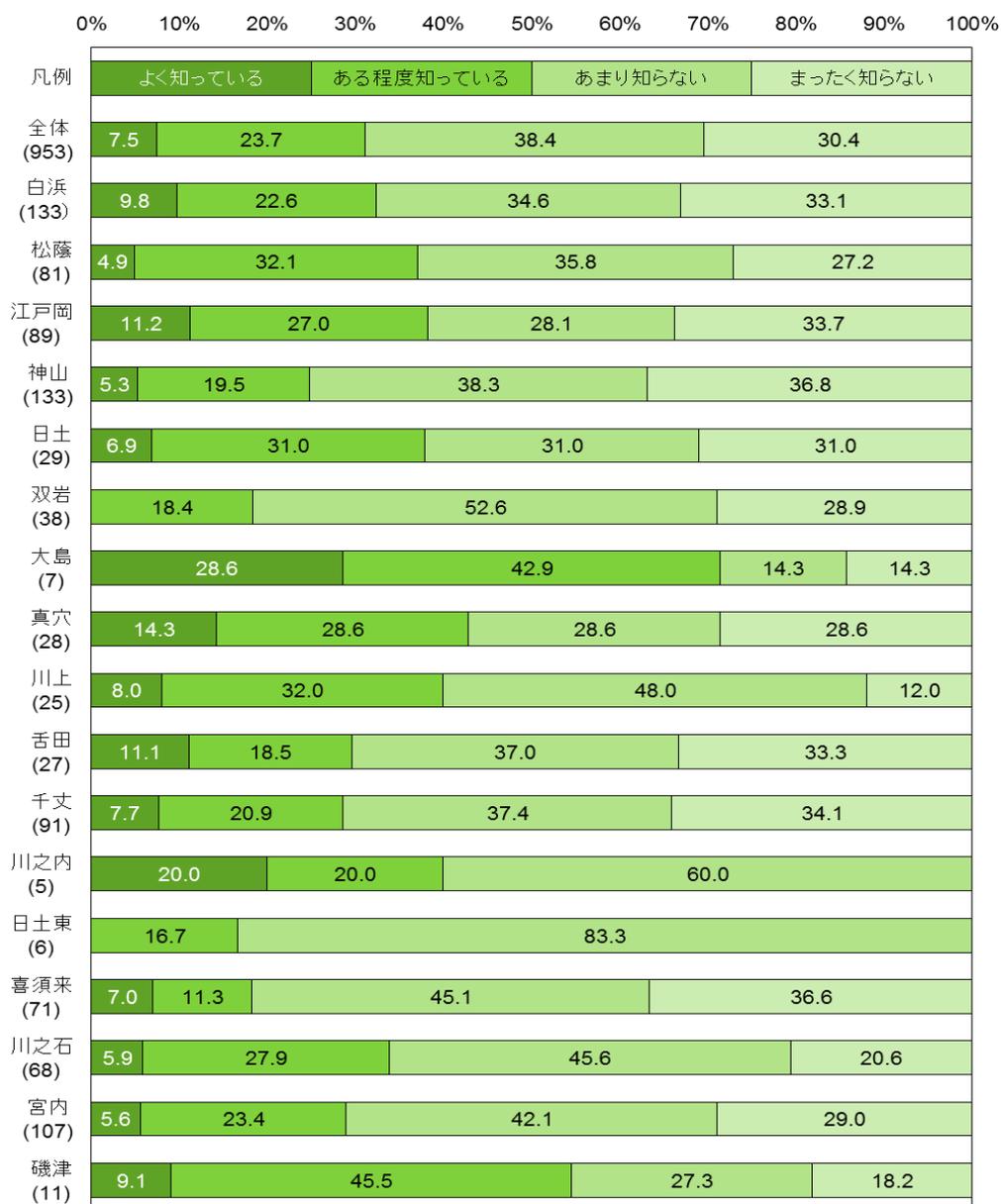
**居住地別**



【続き】問40 あなたは、独居高齢者等見守りネットワーク事業を知っていますか。(〇は1つ)

●居住地別では、特に傾向はみられない。

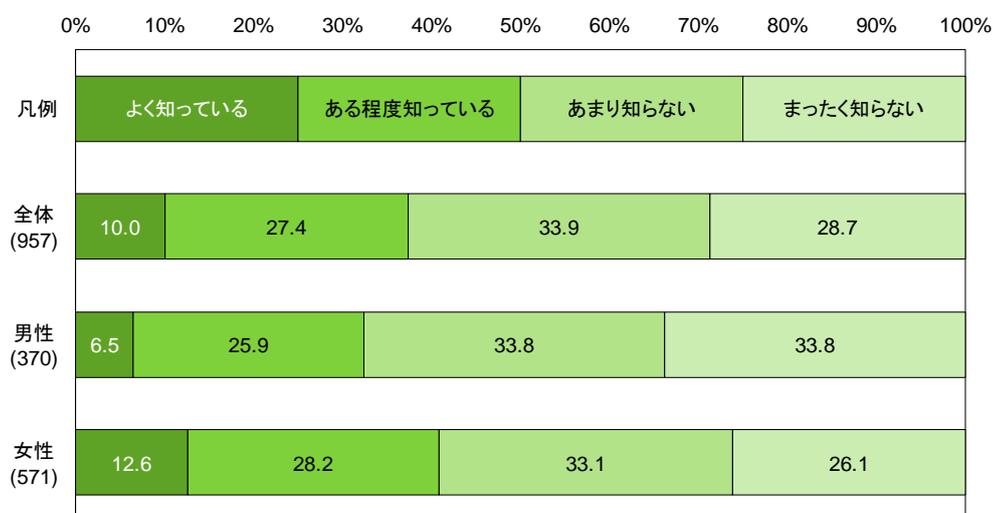
### 居住地別



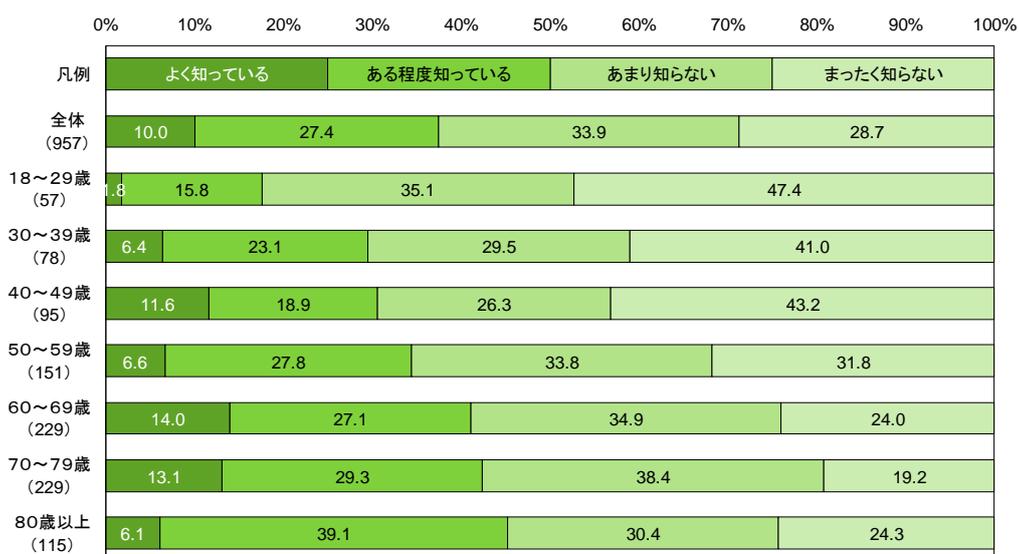
問41 あなたは、高齢者の総合相談窓口である「地域包括支援センター」があることを知っていますか。(〇は1つ)

- 全体的には「あまり知らない」が33.9%と最も高く、「まったく知らない」(28.7%)、「ある程度知っている」(27.4%)と続く。
- 性別では、特に傾向はみられないが、女性の認知度の方がやや高い。
- 年齢別では、問38や問39、問40と同様に、年齢層が高いほど認知度が高くなっている。

### 性別



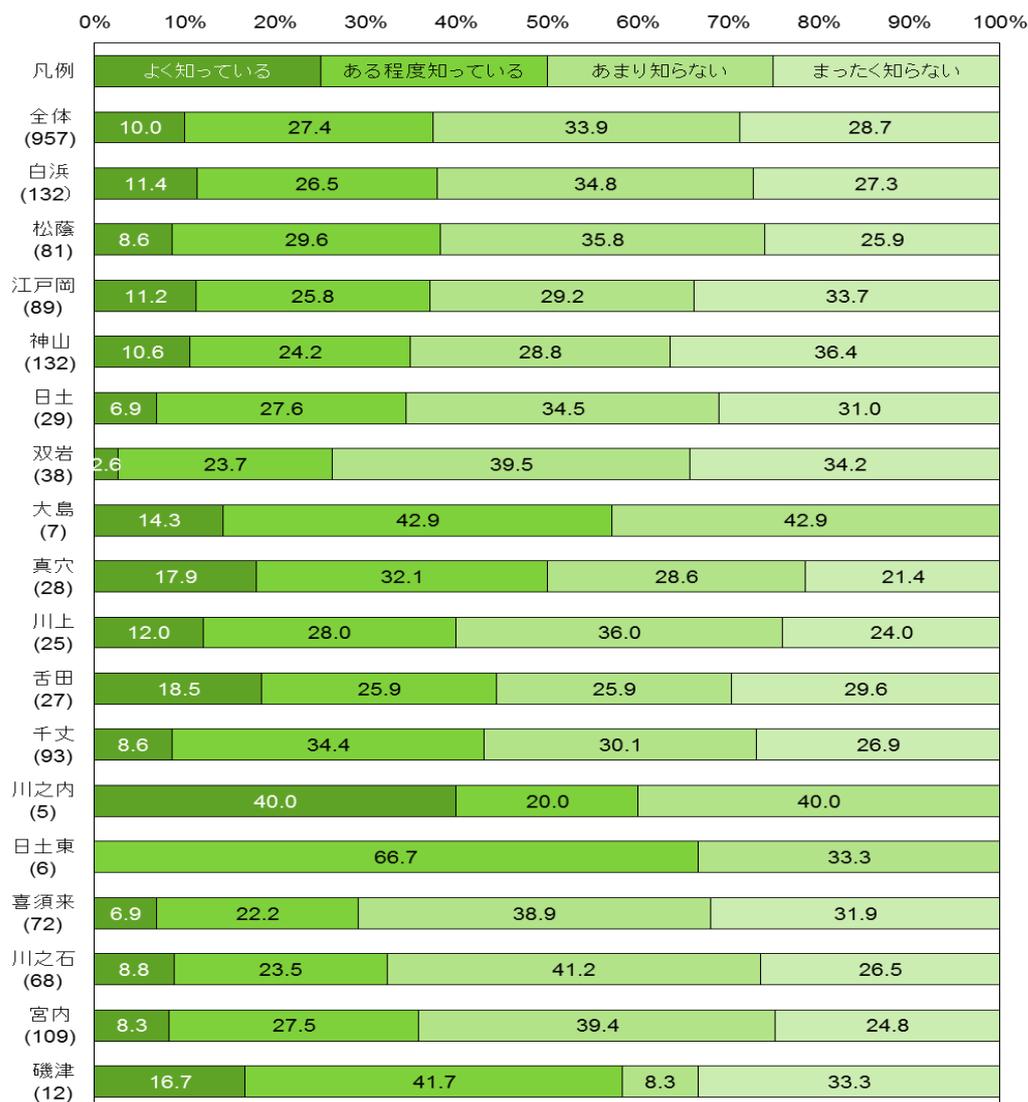
### 年齢別



【続き】問41 あなたは、高齢者の総合相談窓口である「地域包括支援センター」があることを知っていますか。(〇は1つ)

●居住地別では、全体的に認知度は高くないが、認知度が40%を超えている地区もある。

### 居住地別



#### 考察〈問38-41・自由回答〉

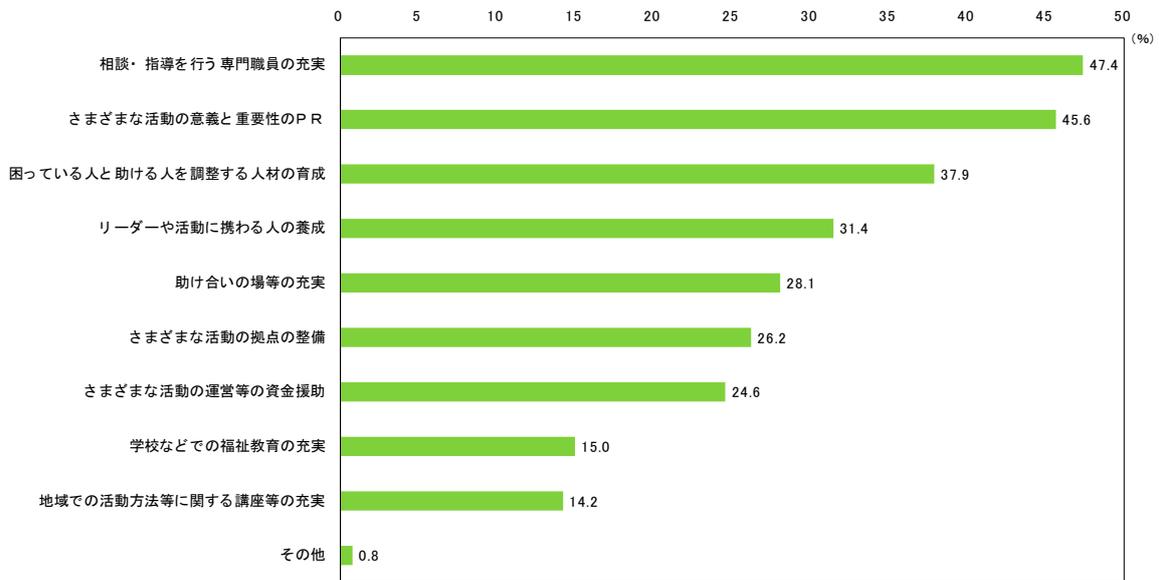
●問38-41・自由回答 「八幡浜市社会福祉協議会」や「民生委員・児童委員」、「独居高齢者等見守りネットワーク事業」、「地域包括支援センター」それぞれの名称、役割の認知度について、「八幡浜市社会福祉協議会」は名前や活動内容まで知っている人が20%を超えているが、それ以外については10%程度に留まっている。また、別冊調査報告書の自由回答の中にも、本アンケート調査を通じて、地域福祉事業について改めて知ったという意見もみられた。

問42 地域福祉を推進していくには、地域での活動をより活発化するとともに、地域のニーズに対応したサービスの提供や施策の展開が求められますが、次の取り組みのうち、重要だと思うものはどれですか。(あてはまる番号すべてに○)

- 全体的には「相談・指導を行う専門職員の充実」が47.4%と最も高く、「さまざまな活動の意義と重要性のPR」(45.6%)、「困っている人と助けることができる人との間の調整を図る人材の育成」(37.9%)と続く。
- 性別では、特に傾向はみられない。
- 年齢別では、上位の選択肢は概ね変わらないが、「リーダーや活動に携わる人の養成」は年齢層が高いほど回答が多く、「学校などでの福祉教育の充実」は年齢層が低いほど多くなっている。

	さまざまな活動の意義と重要性のPR	さまざまな活動の拠点の整備	さまざまな活動の運営等の資金援助	リーダーや活動に携わる人の養成	相談・指導を行う専門職員の充実	助け合いの場等の充実	困っている人と助ける人を調整する人材の育成	地域での活動方法等に関する講座等の充実	学校などでの福祉教育の充実	その他
全体(916)	45.6	26.2	24.6	31.4	47.4	28.1	37.9	14.2	15.0	0.8
男性(352)	46.9	28.7	24.4	31.5	45.2	24.1	36.1	11.6	16.5	0.3
女性(548)	44.2	24.1	24.6	30.8	48.5	30.7	38.3	15.5	13.9	0.9
18～29歳(57)	49.1	36.8	24.6	22.8	28.1	31.6	31.6	8.8	22.8	0.0
30～39歳(77)	42.9	35.1	24.7	24.7	46.8	37.7	31.2	9.1	24.7	1.3
40～49歳(94)	37.2	30.9	21.3	28.7	44.7	34.0	36.2	17.0	22.3	1.1
50～59歳(144)	36.8	27.8	26.4	25.7	51.4	32.6	35.4	11.8	16.7	0.7
60～69歳(223)	44.4	24.2	23.3	34.1	50.2	26.9	45.3	16.6	11.7	0.0
70～79歳(214)	53.7	19.2	25.7	35.0	44.4	21.5	33.2	16.4	11.7	1.4
80歳以上(104)	50.0	26.9	26.0	37.5	55.8	24.0	44.2	12.5	8.7	1.0
白浜(125)	50.4	20.8	19.2	30.4	44.0	35.2	36.0	15.2	15.2	1.6
松蔭(78)	55.1	29.5	25.6	37.2	48.7	33.3	39.7	10.3	16.7	0.0
江戸岡(88)	43.2	33.0	27.3	35.2	47.7	30.7	40.9	11.4	21.6	1.1
神山(127)	40.2	20.5	24.4	28.3	43.3	22.0	38.6	11.0	11.0	0.0
日土(28)	39.3	14.3	28.6	25.0	53.6	32.1	39.3	14.3	14.3	0.0
双岩(35)	48.6	25.7	28.6	37.1	37.1	22.9	25.7	17.1	8.6	2.9
大島(7)	57.1	28.6	28.6	28.6	14.3	0.0	57.1	0.0	0.0	0.0
真穴(27)	29.6	29.6	14.8	37.0	55.6	37.0	29.6	11.1	7.4	0.0
川上(24)	41.7	25.0	25.0	33.3	62.5	29.2	45.8	12.5	16.7	4.2
舌田(26)	53.8	26.9	19.2	19.2	46.2	26.9	57.7	30.8	15.4	0.0
千文(87)	57.5	25.3	31.0	33.3	54.0	28.7	34.5	16.1	21.8	1.1
川之内(5)	80.0	0.0	20.0	40.0	40.0	20.0	40.0	20.0	20.0	0.0
日土東(6)	16.7	16.7	66.7	83.3	33.3	50.0	33.3	33.3	16.7	0.0
喜須来(71)	47.9	26.8	15.5	32.4	49.3	25.4	35.2	12.7	5.6	0.0
川之石(63)	33.3	23.8	25.4	31.7	44.4	22.2	33.3	12.7	15.9	0.0
宮内(104)	40.4	35.6	26.0	23.1	49.0	24.0	38.5	14.4	14.4	0.0
磯津(11)	45.5	27.3	45.5	36.4	45.5	27.3	45.5	36.4	27.3	9.1

■は属性ごとに回答割合の高い上位3つ



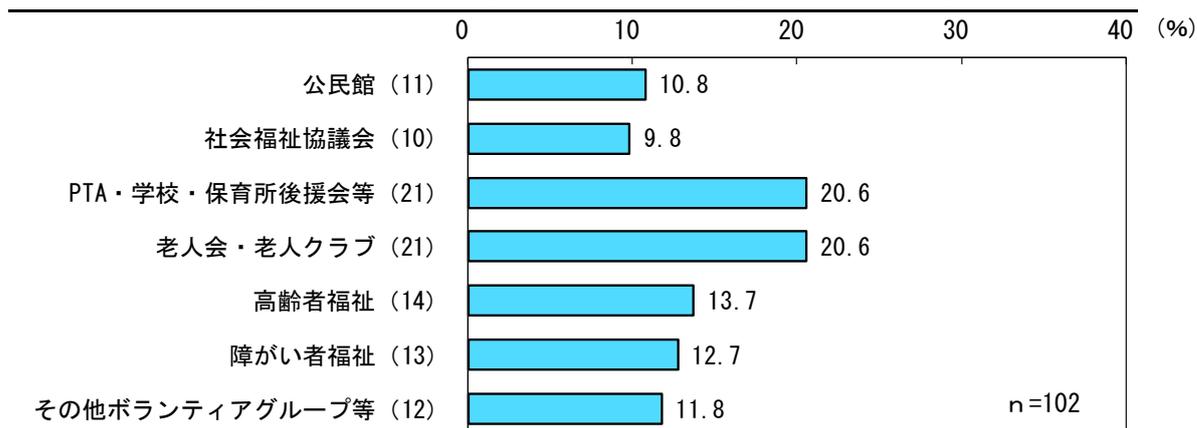
#### 考察〈問42〉

- 問42 地域福祉の推進にあたり、重要だと思う取り組みとして、「さまざまな活動の意義と重要性のPR」は45.6%と2番目に高くなっている。
- 4割近くの方が、日頃の生活で悩みや不安を抱え、85%程度の方が地域の福祉課題に関心を持っている状況の中、実際に自分が困ったときに相談する相手は、家族や友人など近い人が大半を占め、公的なサービス・窓口を利用する方は限られている。上記結果から、地域福祉に関わる団体や事業に関する認知度は依然として低く、情報入手の手段も限定的であることが明らかとなった。地域全体で福祉サービスの充実を図っていく上では、専門職員の充実や活動拠点の整備などを推進する必要があるが、それ以前の取り組みとして、本市の地域福祉を取り巻く現状や提供しているサービス等に関して、市民に広く・深く情報を伝え、認知度を高めるとともに、具体的な内容等への理解度を高めていくことが重要と考えられる。

## ○団体向け調査の結果（抜粋）

### 問1 団体の種類

- 回答のあった104団体を活動内容によっておおまかに分けると、老人会・老人クラブ（21）、PTA・学校・保育所後援会等（21）、居宅介護支援事業所などの高齢者福祉関連団体（14）、共同作業所などの障がい者福祉関連団体（13）、地区公民館（11）、地区社会福祉協議会（10）、その他ボランティアグループ等（12）、不明（2）である。



### 考察

- 今回、回答のあった地域福祉団体には、高齢者の社会参加を促したり、高齢者が地域で安心して暮らし続けるためのさまざまな支援をしたりしているところが多く、高齢化が急速に進む中、その役割はますます重要になっている。
- 一方で、そういった団体の所属者自身の高齢化も進んでいる。また、共働き世帯の増加などで地域活動に時間を割きにくい人も増えていると思われ、所属者の減少やリーダーの不足といった課題を抱える団体も少なくない。
- 組織の高齢化は、ウェブやSNSなどを活用した活動のPRやメンバー募集が不十分となり、活動やメンバーがさらに硬直化するという悪循環をもたらしていると思われる。
- 今後も団体及び活動を維持していくためには、より多くの人々が、短時間でもできる範囲で地域福祉活動に携われるような仕組みづくりが必要となる。
- そのためには、地域住民への啓発のみならず、就労しながら地域福祉活動に携わりやすい職場環境の整備などなど、企業等に対する働きかけも必要である。
- 高齢者や障がい者、子育て世帯など、支援を必要とする人が地域にいても、地域福祉関係団体ではプライバシーの問題から情報を得られず支援ができない、という問題もあがっている。
- 行政による「公助」では足りない部分を、住民同士の「共助」で補っていくためには、行政と地域福祉関係団体等が情報共有を図りながら、適切に役割分担していくことが求められる。
- 今回、回答のあった団体の中には、NPO法人やソーシャルビジネスの事業体は少なかった。実際にそういった組織が市内に少ないのであれば、地域の課題を解決することで収益を上げる自立型の組織が立ち上がる土壌づくりも必要ではないか。

### 【3】 地域福祉の課題

#### (1) 現状やアンケート結果から見えてきた課題

##### ・近所づきあいの希薄化・地域への関心の低下がみられる。

・市民アンケートによると、地域行事に対して無関心な人も一定程度みられるが、地域での人とのつきあいや助け合いは、年齢に関係なく90%程度の人が必要と感じている。地域行事への参加率と定住意向には相関性がみられることから、住み続けられるまちづくりを推進していくにあたっては、地域内での人と人との交流や関係づくりを深めるような情報発信の充実、場の提供などが求められている。

・回答者の半数以上が「自助」や「共助」を主として、足りない部分を「公助」で支援していくのが望ましいと回答を行っているが、若年層においては、その回答割合がやや少ない傾向がみられる。地域福祉を“我が事”として考えることを理解してもらえるよう、よりわかりやすく身近に感じられるような情報提供等が求められる。

##### ・近所づきあいや地域での助け合いを必要と思う人は多い。

・近所に介護や子育て等で困っている家庭がある場合、見守りや話し相手、災害時・急病時の手助け・対応ができると回答した人が多いことから、地域や家庭での悩みごととそれらに対応できるサービス等をうまくマッチングすることで、自助・共助による地域共生社会の推進の一助となることが考えられる。

##### ・地域の担い手や地域活動、福祉に関するサービス・制度が多くの人に普及していない。

・公的なサービス等の活動内容の認知状況を踏まえても、それらの先に相談できることが十分に理解されていないために、身内等に相談せざるを得ない状況になっていることも考えられる。さらに、そもそも相談先を見つけられない人もいることから、悩んでいる人・困っている人などに対して、適切で効果的な方法で情報を伝達していくことが求められる。

- ・地域で支援が必要な人、生きづらさを感じている人が増加している。

・子どもの虐待、貧困、孤独死や孤立死などは、より身近な問題として捉えられており、地域福祉に対する市民の関心は極めて高い。これらの問題への対応として、経済的支援など公的な面からの支援に加え、他人事としてではなく、我が事・地域事として、見守りや声かけなど負担の少ない活動から相互に支え合っていくことも重要と考えられる。

- ・地域活動では、新たな担い手の確保・育成と、既存の担い手への支援が課題となっている。

・回答のあった地域福祉団体には、高齢者の社会参加を促したり、高齢者が地域で安心して暮らし続けるためのさまざまな支援をしたりしているところが多く、高齢化が急速に進む中、その役割はますます重要になっている。

・一方で、そういった団体の所属者自身の高齢化も進んでいる。また、共働き世帯の増加などで地域活動に時間を割きにくい人も増えていると思われ、所属者の減少やリーダーの不足といった課題を抱える団体も少なくない。

・組織の高齢化は、ウェブやSNSなどを活用した活動のPRやメンバー募集が不十分となり、活動やメンバーがさらに硬直化するという悪循環をもたらしていると思われる。

・今後も団体及び活動を維持していくためには、より多くの人々が、短時間でもできる範囲で地域福祉活動に携われるような仕組みづくりが必要となる。そのためには、地域住民への啓発のみならず、就労しながら地域福祉活動に携わりやすい職場環境の整備など、企業等に対する働きかけも必要である。

・今回、回答のあった団体の中には、NPO法人やソーシャルビジネスの事業体は少なかった。実際にそういった組織が市内に少ないのであれば、地域の課題を解決することで収益を上げる自立型の組織が立ち上がる土壌づくりも必要ではないか。

・地域での情報共有、情報把握、支援活動に向けて「個人情報の保護」が壁となっている。

・高齢者や障がい者、子育て世帯など、支援を必要とする人が地域にいても、地域福祉関係団体ではプライバシーの問題から情報を得られず支援ができない、という問題もあがっている。

・地域の担い手・活動団体・専門職などの各主体間の連携・つながりが十分とは言えない。

・行政による「公助」では足りない部分を、住民同士の「共助」で補っていくためには、行政と地域福祉関係団体等が情報共有を図りながら、適切に役割分担していくことが求められる。

## 第3章 計画の基本的な考え方

### 【1】基本理念

#### 「誰もがつながり、地域で支え合うまち 八幡浜」

誰もが住み慣れた地域で自分らしく生き生きと暮らしていくためには、一人ひとりが自分でできることに取り組むとともに、自治会・町内会、老人クラブ、子ども会をはじめとする地域団体や、地域活動、ボランティア活動、NPO、事業所など、様々な地域の主体が連携・協力し合いながら、地域ぐるみの「支え合い」を進めていくことが重要です。

地域福祉は健康・介護・育児・障がい・生活困窮・災害対策等多種多様な分野にまたがります。市民一人ひとりが抱える問題は多様であり、家庭環境や経済的事情を背景の一つとして同じものはありません。

こうした様々な課題を一人で抱え込まず一緒になって解決に向けた道を探ることや、潜在的な福祉ニーズを把握して組織的に対応していくことなどができる社会づくりが求められています。特に、高齢化率が40%に迫ろうとしている八幡浜市においては、高齢者の知識や経験を活用するなど、地域全体の力を集結することが重要です。

しかし、こうした仕組みは行政や社会福祉協議会だけでは作ることはできません。全ての八幡浜市民、事業者も一体となり、「自助」、「互助」、「共助」、「公助」の考え方にに基づきながら、それぞれが役割を持ち、支え合いながら、自分らしく活躍できる地域コミュニティを育成することで、みんなが助け合いながら暮らすことができる「地域共生社会」を実現する必要があります。

地域共生社会の実現を通して、すべての市民が、八幡浜市に生を受け、八幡浜市で育ち、八幡浜市で人生を終えられてよかったと思えるような、夢と希望を持てる「八幡浜」を目指します。

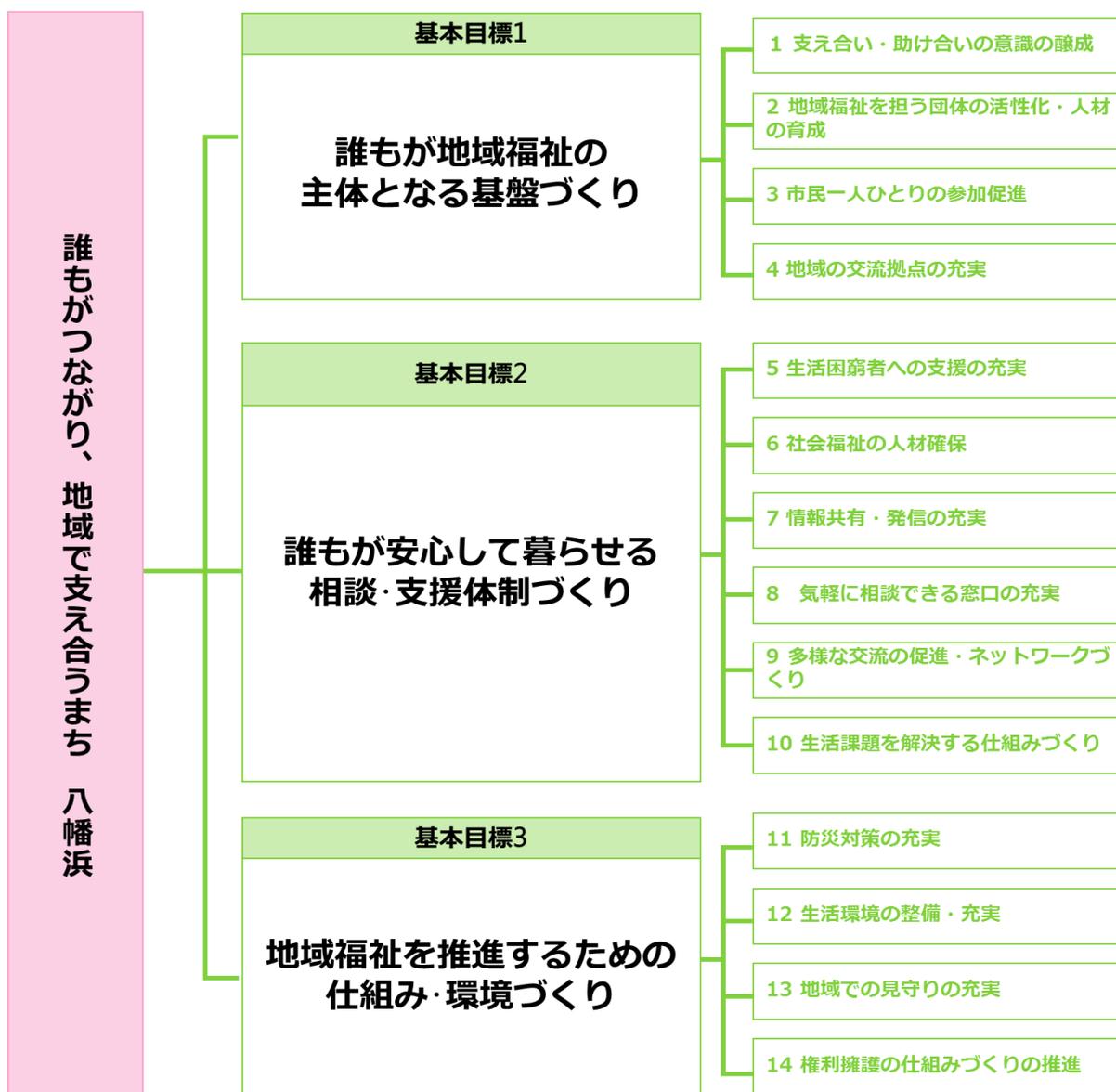
## 【2】 八幡浜市地域福祉計画の骨子（体系）

### 抽出された現状・課題

- |   |   |   |
|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>● 人口減少・少子高齢化の進行に伴う若年層の減少、一方でシニア世代の活躍への期待の高まり</li> <li>● 地域福祉団体の担い手、リーダーの不足</li> <li>● 地域福祉活動参加者の固定化、高齢化</li> <li>● 地域や人、団体、行政等をつなぐコーディネーター的な人材の不足</li> <li>● 地域福祉に関する情報入手元の限定化</li> <li>● 地域団体の活動に対する認知度の不足</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域での人と人のつながり、近所付き合いの必要性</li> <li>● 自助・互助を主とした地域福祉のあり方、地域共生社会の実現</li> <li>● 福祉サービスに関する相談機関、窓口等に対する認知度の不足</li> <li>● 虐待、貧困、孤立死などが身近な問題として浮上</li> <li>● 経済的困窮、障がい、高齢等、必要な支援の多様化</li> <li>● 専門性の高い人材の不足</li> <li>● 課題を抱える者に関する情報共有の不足</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 住みにくさの要因として買物・交通の利便性の低さ、医療機関の少なさ</li> <li>● 公民館の老朽化</li> <li>● 地域福祉団体の担い手不足</li> <li>● 地域福祉団体の情報発信の不足</li> <li>● 市民が地域福祉活動に参加しにくい社会環境</li> <li>● 地域福祉団体が市民の参加を得られていない</li> <li>● 行政、地域福祉団体、住民等の情報共有と役割分担、ネットワーク化の不足</li> <li>● ソーシャルビジネスの不足</li> </ul> |
|---|---|---|

### 対応方針(基本理念・目標)

### 取組施策



## 第4章 基本目標ごとの取組み

### 基本目標 1

#### 誰もが地域福祉の主体となる基盤づくり

市民の福祉意識をより高め、地域での交流の機会を増やし、人と人との絆を強めていきます。さらに地域福祉コミュニティの醸成を図り、地域での助け合い、支え合いを促進します

また、地域福祉活動を推進するため、ボランティアの育成や活動の支援を図るとともに、次代を担う子どもへの福祉教育を充実し、地域福祉の担い手やリーダーを育成します。また、地域福祉活動のネットワークづくりを進め、地域が活動しやすい環境を整備します。

### 基本目標 2

#### 誰もが安心して暮らせる相談・支援体制づくり

誰もが福祉等に必要な情報が得られるよう、わかりやすい情報提供を図るとともに、身近なところで気軽に相談できる体制や複雑化多様化する問題に対応する相談支援体制の充実を図り、適切な支援につなげます。

また、生活困窮者やひきこもり等、制度の狭間にいる方に対し必要な支援ができるよう、関係機関等の支援ネットワークづくりをさらに進めていきます。

### 基本目標 3

#### 地域福祉を推進するための仕組み・環境づくり

高齢者や障がい者等の社会参加を促すことで生きがいややりがいを見出し、いつまでもいきいきとした生活ができるよう支援します。また、地域の防災・防犯体制の強化や移動支援の充実を図ることにより、地域の中で子どもからお年寄りまで健康で安心できる暮らしづくりを推進します。

## 基本目標 1 誰もが地域福祉の主体となる基盤づくり

### 取組施策 1 支え合い・助け合いの意識の醸成

#### 【現状と課題】

地域福祉の基本は、基本的人権の尊重と、他人を思いやり、お互いを助け合おうとする意識にあります。

高齢者をはじめ、認知症や障害のある人など、支援を必要とする様々な人が暮らす中で、平成 30 年 7 月豪雨災害などの災害を契機に、地域や隣近所の人との絆の重要性が再認識されています。

また、日々の暮らしの中では、地域における交流の機会が減少し、相互の理解が不足する状況も生じています。

本市では、学校における福祉教育や、市社会福祉協議会が中心となって行うボランティア体験活動等を通じて、福祉への理解が深められる取り組みを推進していますが、今後さらなる活動の展開が必要です。

日頃のあいさつの実践をはじめ、地域福祉を学ぶ機会の提供や、学校での福祉教育の充実により、福祉意識の醸成と、支え合い・助け合いの心づくりと仕組みづくりの推進が求められます。

#### 【取組方針】

- ・地域福祉についての意識が高い地域を目指します。
- ・気軽に隣近所の人とあいさつを交わし、身近な支え合い、助け合いができる地域を目指します。
- ・人権に配慮し、互いを尊重し合える地域を目指します。

#### 【市や関係機関による取り組み】

- ・学校において福祉教育に対する取り組みを充実します。
- ・広報誌などで地域福祉の考え方や取り組み、また高齢者、障害のある人、妊産婦などにできる手助けについて周知します。
- ・障害のある人が住み慣れた地域で安心して暮らすために、どのようなことに配慮し、手助けをすればよいか、理解に向けた勉強会・交流会を開催します。
- ・認知症など高齢者に多い病気について、正しい理解と対応を行うために学ぶ機会を設けます。

## 取組施策 2 地域福祉を担う団体の活性化・人材の育成

### 【現状と課題】

これまで自治会・町内会や老人クラブ、子ども会などの地域団体が、地域の様々なコミュニティ活動において重要な役割を担ってきましたが、本市においてもメンバーの高齢化や加入者の減少により、団体の維持が難しくなっています。

また、本市では、あらゆる世代の方々を対象に、認知症サポーター養成教室を開催し人材を育て、活躍の場も着実に広げています。

一方で、認知症サポーターや防災士など、様々な役割や資格等を持つ人が、地域の中でそれらを活かすことができる機会が求められています。

地域活動やボランティア活動等を担う人材の発掘・育成と、支援を通じて地域と人とを結びつける役割を担う人材が求められています。

### 【取組方針】

- ・地域活動やボランティア活動等がそれぞれの強みを活かしながら、地域福祉の充実に取り組む地域を目指します。
- ・自治会・町内会や老人クラブ、子ども会などの身近な地域活動やボランティア活動等に積極的に参加し、団体の活性化や人材の育成を行う地域を目指します。
- ・福祉に役立つ知識・技能等を積極的に身に付け、活かす地域を目指します。

### 【市や関係機関による取り組み】

- ・自治会・町内会や老人クラブ、子ども会などの活動支援を行います。
- ・「広報やわたはま」や市ホームページ、また各機関が発行する広報誌等を効果的に利用して、地域活動への参加促進や活性化に向けた支援を行います。
- ・地域において、生活上の課題を抱える個人や家族に対する個別支援と、それらの人々が暮らす生活環境の整備等を含めた総合的・地域支援を担う人材となる「コミュニティソーシャルワーカー」の設置に向けた検討を行います。
- ・商店会、企業、NPO などが関わる地域福祉の人材育成への支援や、困難なケースに多職種で連携する多職種連携、また、人と人をつなぐコーディネーターを担う人材に対し、支援を行います。
- ・誰もが住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、住まい・医療・介護・健康づくり、介護予防・生活支援が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の構築に向け、住民主体の取り組みを推進していきます。

## 取組施策3 市民一人ひとりの参加促進

### 【現状と課題】

地域福祉の推進にあたり、市民一人ひとりが、自分に合った形で地域活動やボランティア活動に関わることが重要です。

アンケート調査では、行事や地域活動、また、ボランティア活動について、参加していない理由として、情報不足を挙げる割合が高くなっています。

活動団体においては、新規メンバーの獲得、メンバーの高齢化、リーダーの育成など、活動を継続する上で多くの課題が見られます。

ボランティア活動に参加してみたいと考える人は多くいますが、情報の入手やきっかけづくりが必要です。

普段の付き合いについても、あいさつをする程度の割合が高くなっていますが、今後は親しくしたいとの意見が多くなっています。

地域活動やボランティア活動等の情報を提供する側の組織づくりや、関係団体への支援、近所付き合いを深める環境づくりなどが求められます。

また、アンケート調査では、地域で優先的に解決すべき課題として、高齢者の社会参加や生きがいづくりが上位に挙がっています。

誰もが生き生きと暮らす地域づくりに向けて、地域活動やボランティア活動等への参加の促進を図ることが重要です。

### 【取組方針】

- ・地域活動やボランティア活動等の情報を誰もが容易に得ることができ、また気軽に参加できる地域を目指します。
- ・普段から隣近所との交流を深め、その交流を通じて地域活動やボランティア活動等への参加が促進される地域を目指します。
- ・地域活動やボランティア活動等への参加を通じて、誰もが生き生きと暮らす地域を目指します。

### 【市や関係機関による取り組み】

- ・誰もが入手しやすい形で、地域活動やボランティア活動等の情報を提供します。
- ・活動団体の継続に向け、相談や助言、補助金の交付などの支援を行います。
- ・市や関係機関、団体等が連携し、高齢者、障害のある人、子どもなど誰もが楽しく参加し交流できるイベントを企画します。

## 取組施策 4 地域の交流拠点の充実

### 【現状と課題】

近所付き合いを深めるきっかけとして誰もが気軽に集える場所や、自治会・町内会、子ども会等の役割への期待が高くなっています。

本市では、地域の活動拠点として、みなと交流館や公民館などが活用されています。

一方、地域団体からは、活動場所の一層の充実が求められるとともに、各団体が連携して活動していけるとよいとの意見が挙がっています。

また、子どもたちがのびのびと活動できる公園など、遊び場の不足も指摘されています。

地域団体の活動場所や、子ども、若者、女性、高齢者、障害のある人など、様々な状況に合わせて、誰もが気軽に交流できる地域の拠点の充実が求められます。

### 【取組方針】

- ・誰もが気軽に集い交流できる場が充実した地域を目指します。
- ・近所付き合いや地域活動が活発な地域を目指します。

### 【市や関係機関による取り組み】

- ・交流拠点に関する情報提供を行います。
- ・既存公共施設の活用促進に向け、リフォームや運営の見直しを行います。
- ・高齢者や障害のある人、妊産婦などが気軽に利用できるよう、施設のバリアフリー化を推進します。

## 基本目標 2 誰もが安心して暮らせる相談・支援体制づくり

### 取組施策 5 生活困窮者への支援の充実

#### 【現状と課題】

本市においても、近年、生活保護世帯数、保護人員ともにここ数年減少傾向となっています。

生活困窮者に対する支援に向けた取り組みが進められていますが、複数の問題が絡み合った状況にあることが少なくありません。

子どもの貧困も増加しており、世代を超えた貧困の連鎖が起こることのないよう、保護者の就労支援や、子どもの学習支援など、総合的な対策が必要です。

また、ニートやひきこもり等困難を抱える子ども・若者への支援や、ひとり親家庭の自立支援に対する対応も課題となっています。

市の関係部署、関係機関等が連携し、生活保護に至る前の段階での適切な相談・支援体制の充実を図ることが求められます。

#### 【取組方針】

- ・生活に困っている人が、安心して自立に向けた生活基盤をつくることのできる地域を目指します。
- ・生活に困っている人が身近にいたら、市やハローワークなどの関係機関に適切につながることができる地域を目指します。

#### 【市や関係機関による取り組み】

- ・生活困窮者自立支援法に基づく各種支援について、社会福祉協議会等と連携して実施します。
- ・市の関係部署、関係機関との連携強化を図り、気軽に相談できるようにします。
- ・相談員等の資質向上を図るなど、適切な相談支援ができる体制づくりに努めます。
- ・ハローワークにおける就労支援や、中間的就労(※)を含む就労支援の充実を図ります

※中間的就労：一般就労（一般労働市場における自立的な労働）と、いわゆる福祉的就労（障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律・平成17年法律123号）との間に位置する就労であり、雇用契約に基づく労働及び一般就労に向けた就労体験等の訓練を総称するもの。

## 取組施策 6 社会福祉の人材確保

### 【現状と課題】

地域で安心して暮らすためには、福祉サービスの質の向上とともに、専門的人材の確保と育成が非常に重要です。

本市でも、福祉を担う様々な人材が活躍しており、専門的知識・技能の向上に向けて県や関係機関と連携しながら、情報提供等を行っています。

アンケートでは、福祉分野の専門的人材が不足していることや、福祉に関する専門的知識を身に付けた市民が、その能力を活かすことが難しい現状が指摘されています。

誰もが安心して福祉サービスを利用できるよう、福祉サービスの質の向上を図るとともに、福祉サービスを支える人材の確保と育成、介護職が離職しないような工夫が必要です。また、地域で福祉等の専門的知識を身に付けた人材が活躍できる環境整備が求められます。

### 【取組方針】

- ・福祉サービスで働く人材を確保し、また人材の育成をバックアップする地域を目指します。
- ・市民が福祉に関する知識や技能を身に付け、その能力を活かすことができる地域を目指します。

### 【市や関係機関による取り組み】

- ・専門的研修の開催や実施に伴う支援を行います。
- ・地域福祉に関わる知識・技能を身に付ける人材養成講座を開催します。
- ・地域福祉に関わる知識・技能を身に付けた市民が能力を活かせる環境づくりを行います。
- ・福祉の専門的人材が、離職することなく長期にわたって活躍できるよう、雇用環境の改善に努めます。

## 取組施策 7 情報共有・発信の充実

### 【現状と課題】

本市では、「広報やわたはま」や市ホームページ、八チャンネル等のSNSにおいて福祉に関する情報を掲載するとともに、チラシやパンフレット等で情報提供を行っています。

アンケートでは、必要な福祉サービスの情報を入手したり、内容を理解することが難しいとの指摘があります。また、災害時などに支援が必要な人の情報入手と共有が困難となっています。

福祉サービスに関する情報を分かりやすく市民に発信するとともに、第三者評価制度などを活用し、サービスの質の確保・向上を図ることが求められます。また、個人情報の保護に配慮しながら、支援に必要な情報の共有に向けた取り組みを地域ぐるみで進める必要があります。

### 【取組方針】

- ・必要とする福祉サービスの情報が容易に入手できる地域を目指します。
- ・災害時などに支援が必要な人の情報を共有し、支援に活かせる地域を目指します。

### 【市や関係機関による取り組み】

- ・市や社会福祉協議会の取り組みをこれまで以上に広く周知します。
- ・災害時などに支援が必要となる人の個人情報を適切に管理・運用します。
- ・情報が届きにくい方々に配慮した情報提供に努めます。
- ・地域懇談会など、地域で福祉に関する情報を発信し共有する機会づくりを積極的に行います。

## 取組施策 8 気軽に相談できる窓口の充実

### 【現状と課題】

市民が抱える悩みや問題に対して、早期に対応し、解決するためには、専門的な相談体制の整備とともに、気軽に相談できる窓口の充実が欠かせません。

本市では、高齢者や障害のある人、子どもなど、様々な相談窓口を設置しているほか、市社会福祉協議会や民生委員児童委員による心配ごと相談事業など、身近な相談活動も展開しています。

子育てや介護、認知症、障害など、日常生活での様々な困りごとについて、相談件数が増加するとともに、内容によっては気軽に相談できる場が不足していることが指摘されています。

福祉・保健に関する困りごとや悩みごとについて、誰もが気軽に相談できる総合相談窓口の設置をはじめとした相談体制の充実が求められます。

### 【取組方針】

- ・日常生活での様々な困りごとや悩みごとについて、誰もが気軽に相談できる地域を目指します。

### 【市や関係機関による取り組み】

- ・新たに、誰もが気軽に相談できる福祉・保健に関する総合相談窓口の整備を図ります。
- ・市の関係部署、関係機関等と連携し、様々な相談に対応できる体制づくりを進めます。
- ・障害、高次脳機能障害、認知症、介護、子育て、DV、引きこもり、生活困窮など、専門的知識が必要となる様々な相談に適切に対応できるよう、職員等の技能向上を図ります。

## 取組施策 9 多様な交流の促進・ネットワークづくり

### 【現状と課題】

本市には、民生委員児童委員活動、社会福祉協議会活動、ボランティア団体活動、NPO 活動など、地域の福祉を支える様々なネットワークが存在します。

福祉関係の機関や団体間においても、様々な交流が図られていますが、こうしたつながりを効果的に活用できていないとの指摘があります。また、全体的に情報を共有し連携できる新たなネットワークがあるとよいとの意見が挙がっています。

既存の多様な福祉関係の機関や団体間でのネットワークを活かした情報共有を進めるとともに、新たな交流・連携のネットワークづくりの促進が求められます。

### 【取組方針】

- ・既存のネットワークにおける関係機関や団体の交流や連携のさかんな地域を目指します。
- ・新たな連携・ネットワークづくりに向けて積極的に働きかけや支援を行い、地域活動が発展していく地域を目指します。

### 【市や関係機関による取り組み】

- ・地域団体同士が連携し、情報共有ができる機会を作ります。
- ・地域団体体間の交流・連携の場を提供します
- ・地域包括支援センターの連絡会議などを軸に、福祉のネットワークを拡充します。
- ・既存のネットワークに加え、縦断的・横断的な新たなネットワーク立ち上げに関する情報を集約し、提供します。

## 取組施策 10 生活課題を解決する仕組みづくり

### 【現状と課題】

地域で安心して日常生活を送るためには、福祉・保健・医療をはじめ、多様な生活分野のサービスや支援が必要です。

本市でも、高齢者の買い物の際の移動手段確保、高齢者のゴミ出しをはじめ、障害のある人の地域での自立支援や子育て家庭への支援、空き家の増加など、日常生活における様々な課題が挙げられています。

これらの多くの課題解決に向けて、地域と市や関係機関との協働を一層進めるため、具体的な仕組みづくりが必要です。また、あらゆる生活分野が相互に連携し、切れ目のない支援体制の構築を図ることが求められます。

### 【取組方針】

- ・生活上の課題解決に向けて、地域と市や関係機関が協働して取り組む地域を目指します。
- ・地域のあらゆる生活分野が相互に連携し、切れ目のない支援が行われる地域を目指します。

### 【市や関係機関による取り組み】

- ・福祉・保健・医療をはじめ多様な分野の連携を図ります。
- ・「八幡浜市空家等対策計画」に沿って、空き家の適正な管理と利活用の促進を図ります。
- ・市民参画と協働による地域づくりを推進します。
- ・福祉事業の実施にあたって、地域団体やボランティア団体等と協働して行う事業を増やします。
- ・医療・介護・健康づくり、介護予防・生活支援を担う関係機関をはじめ、住居の提供などあらゆる生活分野に携わる人たちが連携し、高齢者、障害のある人、介護者、子育て中の人など、支援を必要とする人たちを切れ目なく支える仕組みづくりを行います。

## 基本目標 3 地域福祉を推進するための仕組み・環境づくり

### 取組施策 11 防災対策の充実

#### 【現状と課題】

本市では、地震や風水害等の災害に備えるため、地域防災計画を策定し、食料等の備蓄や資機材の配備、また、発災時に迅速かつ適切な行動が取れるよう、訓練や研修会を実施するとともに各種マニュアル等の作成を行い、防災・減災対策に取り組んでいます。

また、災害時に支援が必要な人の把握と、支援に向けた対策を進めていますが、被害軽減に向けて、地域の自主防災力を高めるなど、地域ぐるみの取り組みを進める必要があります。

本市でも、「八幡浜市避難行動要支援名簿」等を作成するなど、地域の防災力向上に繋がる取り組みを行っています。

アンケート調査では、地域で優先的に解決すべき課題として、災害時の安否確認や避難誘導などが上位に挙がっています。また、災害時に手助けをしたいという方は多くいますが、実際に誰をどのように手助けすべきかが分からないなど、情報入手が困難な状況であったり、組織的な対応がまとまっていないことが伺えます。

災害時に支援を必要とする人の把握と、早めの避難に繋がる避難訓練の実施など、地域ぐるみで災害時の安全確保に向けた取り組みを進めることが求められます。

#### 【取組方針】

- ・ 普段からみんなで防災に対する意識をもち、隣近所で声を掛け合いながら避難訓練などに参加する地域を目指します。
- ・ 身近に支援を必要とする人の情報がしっかりと把握と共有がされ、早めの安全確保行動がとれる地域を目指します。

#### 【市や関係機関による取り組み】

- ・ 消防や警察、学校等と連携し、災害時の対応力強化を目指します。
- ・ 自主防災組織の活性化のため、地域における防災・減災活動を支援します。
- ・ 地域の防災活動を担う個人や団体が、相互に連携できるよう支援します。

## 取組施策 12 生活環境の整備・充実

### 【現状と課題】

本市では、ユニバーサルデザインのまちづくりの一環として、公共施設の整備にあたっては、バリアフリーの考え方を取り入れています。

アンケート調査では、住みよいまちづくりに向けて、歩道の整備に関する要望や、通院や買い物などの際の公共交通の充実、公園や緑地などの充実を求める声が挙がっています。

誰もが気軽に外出し、活動するためには、道路、公園、施設、公共交通等のバリアフリー化に向けた整備充実が求められます。

また、日常生活の中で支援を必要とする人への気配りや手助けが気軽にできる「心のバリアフリー」が広まり、高齢者や障害のある人が、気軽に外出や交流を楽しめる、ユニバーサルデザインに基づくまちづくりに向けた取り組みも求められます。

### 【取組方針】

- ・誰もが気軽に外出し、活動できるよう、バリアフリー化に向けた環境整備が行われる地域を目指します。
- ・高齢者や障害のある人等の困難を自らの問題として認識し、その社会参加に協力する「心のバリアフリー」が普及した地域を目指します。
- ・あらゆる場面でユニバーサルデザインに基づくまちづくりが推進される地域を目指します。

### 【市や関係機関による取り組み】

- ・歩道や公園などの施設整備をはじめ、ユニバーサルデザインに基づくまちづくりを推進します。
- ・市民が利用しやすい公共交通空白地有償運送事業等の整備に努めます。
- ・高齢者や障害のある人等が日常生活や社会生活を安心して送るために、その方々の困難を自らの問題として認識し、施設整備だけではなく、その社会参加に協力する「心のバリアフリー」に関する啓発を行います。

## 取組施策 13 地域での見守りの充実

### 【現状と課題】

本市では、一人暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯、また障害のある人など、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、「独居高齢者等見守りネットワーク事業」の普及に努めているほか、見守り支援の活動をしています。

一人暮らしの高齢者、高齢者のみの世帯や障害のある人など、日頃から見守りが必要となる人が本市でも増えつつあり、子どもや妊産婦のいる家庭なども見守りや支援が求められています。

また、高齢者や障害のある人で、一人で生活していくには不安がある方が、福祉サービスを適切に利用し、安心して生活できるよう、福祉サービスの利用手続きや日常的な金銭管理等を援助する制度の充実と周知が求められます。

このほかにも、介護に伴う高齢者虐待や子どもの養育に伴う虐待など、様々な虐待事例も報告されています。

高齢者や障害のある人、子どもなどの見守りが必要な人に対する地域ぐるみの対応強化を図るとともに、虐待防止をはじめとする人権擁護の体制の充実が求められます。

### 【取組方針】

- ・ 日常生活の中で、困っている人を見つけたり、何か問題があると感じたら、みんなで相談にのることができる地域を目指します。
- ・ 身近で虐待などの異変を感じたら、すぐに相談機関に連絡することができる地域を目指します。

### 【市や関係機関による取り組み】

- ・ 成年後見制度など、権利擁護制度の周知と利用促進及び充実に向けた取り組みを検討します。
- ・ 虐待などが疑われる場合、関係機関と連携し迅速な対応を図ります。
- ・ 民生委員児童委員をはじめとする地域の見守りの担い手への支援を充実します。
- ・ 子どもから高齢者、障害の有無に関わらず、誰もが住み慣れたまちで、いつまでも安心して暮らし続けていけるよう、地域全体で見守り活動を行います。

## 取組施策 14 権利擁護の仕組みづくりの推進

### 【現状と課題】

高齢者、障がい者、子ども等への虐待や、障がい者への差別は依然として社会問題となっています。児童虐待防止法（平成12年施行）、高齢者虐待防止法（平成18年施行）、障害者虐待防止法（平成24年施行）、障害者差別解消法（平成28年施行）が施行されてきましたが、厚生労働省の調査によると、平成30年度の全国の児童相談所の児童虐待対応件数は過去最高を更新し、全国の高齢者虐待件数、障害者虐待件数（養護者による）も増加しています。

専門職を対象とした調査の結果によると、発見しづらい課題の一つとして「虐待」が挙げられていることから、表面化していないケースも少なくないと見込まれます。

虐待等の防止に向けて、市民・団体・事業所等の更なる理解促進を図るとともに、虐待等の実態把握に努めていくことが求められます。

認知症、知的障がい、精神障がい等により財産の管理や日常生活等に支障がある方を社会全体で支えるための成年後見制度はこれまで十分に活用されていませんでした。高齢化の進行に伴い、制度の重要性は今後一層高まることから、平成28年に成年後見制度利用促進法が施行され、成年後見制度の利用促進が進められています。

市民を対象とした調査の結果によると、権利擁護が高齢者が安心して暮らしていくために必要なこととして重要だと考える人は4%に過ぎず、成年後見人制度の対象となる人に限らず、広く市民全体に周知を図っていく必要があります。

### 【取組方針】

- ・ 高齢者、障がい者、子ども等への虐待や暴力の防止に努めるとともに、成年後見制度など判断能力が不十分な状態にある方への支援制度の充実や地域における成年後見制度利用促進体制整備の推進を図ります。
- ・ 権利擁護意識の普及啓発を推進します
- ・ 人権に配慮し、互いを尊重し合える地域を目指します。

### 【市や関係機関による取り組み】

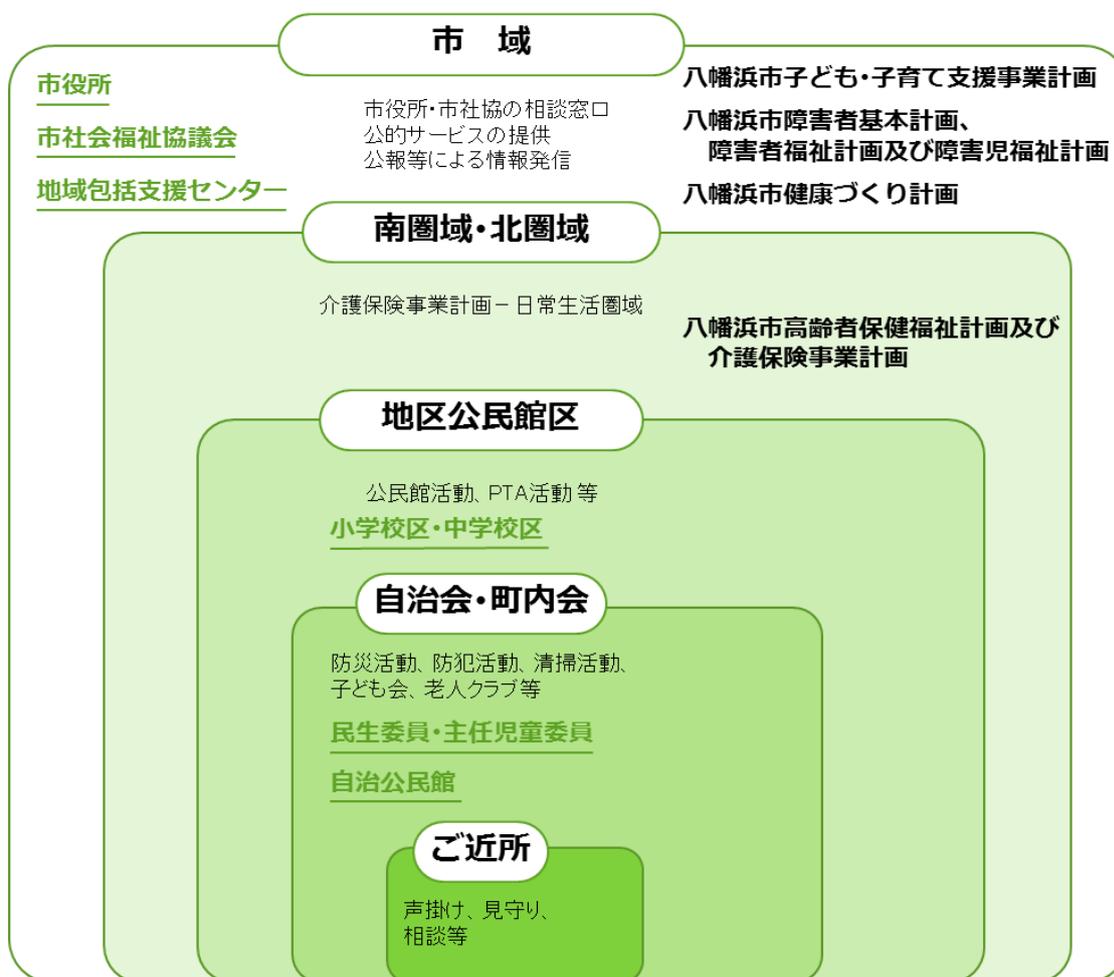
- ・ 法人後見や市民後見等の仕組みづくりや、市長申立て等の利用補助を行うとともに、成年後見制度利用促進基本計画に沿って、成年後見制度の普及促進を図ります。
- ・ 権利擁護の意識を高めるため、普及啓発に努めます。

## 第5章 計画の推進

### 【1】 支えあうための地域の範囲

本計画における「圏域」の考え方は、隣近所や小中学校区を含む地区公民館区圏域を基本とします。また、「市全域」などのより広い範囲での圏域を設けることで、課題を段階的に共有し、新たな活動につなげていきます。このように重層的な圏域を設定することにより、サービスの提供やボランティア活動の展開、ネットワーク構築など、公民協働による地域福祉活動のさらなる推進を目指します。

#### 圏域と関係団体、提供サービス等の関係イメージ



## 【2】 住民及び関係機関などとの連携・協働

地域の多様な生活課題やニーズに対応していくためには、地域住民をはじめとした地域を構成する様々な主体と行政が連携して、潜在している多様な福祉ニーズに対応していくことが必要です。

住み慣れた地域で支え合い、助け合いながら安全で安心して暮らせる地域の福祉コミュニティを形成するため、地域住民をはじめ、民生委員・児童委員、自治会・町内会、ボランティア、NPO、福祉施設・福祉関係事業者、社会福祉協議会と行政がそれぞれの役割を担い、協力し、協働する地域の仕組みを構築することによって、本計画の推進を図ります。

### （1）地域住民の役割

市民一人ひとりが福祉に対する意識や認識を高め、地域社会の構成員の一人であることを自覚することが大切です。

地域で支え合える関係をつくっていくため、地域社会の構成員の一人として、声かけやあいさつ、ちょっとした手伝いなど自分がすぐにでも取り組めることから始め、地域での集まり、地域活動、ボランティア活動などへ積極的に参加するなど、支え合い活動へつながる第一歩を踏み出していくことが期待されます。

### （2）民生児童委員の役割

民生委員・児童委員は、地域の人々が自立して暮らすための様々な支援を行うとともに、安心して暮らせるまちづくりを進める役割を果たしてきました。

民生委員・児童委員には「社会福祉に関する活動を行う者」として地域福祉の推進に努めることが期待されています。

また、虐待や暴力、ホームレス等の問題をはじめ、対応が困難な問題を抱えている人などを早期発見・相談・支援へとつなぐ、より地域に密着した身近な地域福祉の担い手として期待されています。

### （3）自治会・町内会の役割

地域福祉を推進していくうえで、地域の防災・防犯活動や住民相互の親睦を深める交流活動などについては、自治会・町内会の役割がより一層重要となり、より安全で住みよい、魅力あふれる地域づくりに取り組むことが期待されています。

#### **(4) ボランティア、NPOの役割**

ボランティア、NPOには、市民が地域福祉活動への第一歩を踏み出すためのきっかけを提供することが期待されています。

また、地域で様々な福祉活動を行っている団体と連携を図り、活動内容の充実とサービスの多様化を図り、地域の福祉ニーズへの対応を図る活動団体としての役割が期待されています。

#### **(5) 福祉施設・福祉関係事業者の役割**

福祉関係事業者は、福祉サービスの提供者として、利用者の自立支援、サービスの質の確保、事業内容やサービス内容の情報提供及び公開、他のサービスとの連携等に取り組むことが求められています。また、福祉施設等にあっては、施設や施設利用者と地域との距離がより縮まるよう、積極的な発信を行うとともに、各サービス事業者間や地域との連携を図り、地域福祉の拠点となることが期待されています。

また、今後、ますます多様化する福祉ニーズに対応するため、すでに実施している社会貢献事業のさらなる充実や新しいサービスの創出を図るとともに、地域の一員として地域活動へ参加し、より一層の交流や相互の理解が深まることが望まれます。

#### **(6) 社会福祉協議会の役割**

社会福祉協議会は、地域福祉計画の根拠法である社会福祉法において、地域福祉の推進を担う中心的な団体として位置づけられています。

そのため、行政と協働して今回の計画の推進役を担うとともに、その推進において地域住民や各種団体、行政との調整役として大きな役割を担うことが期待されています。

### (7) 行政の役割

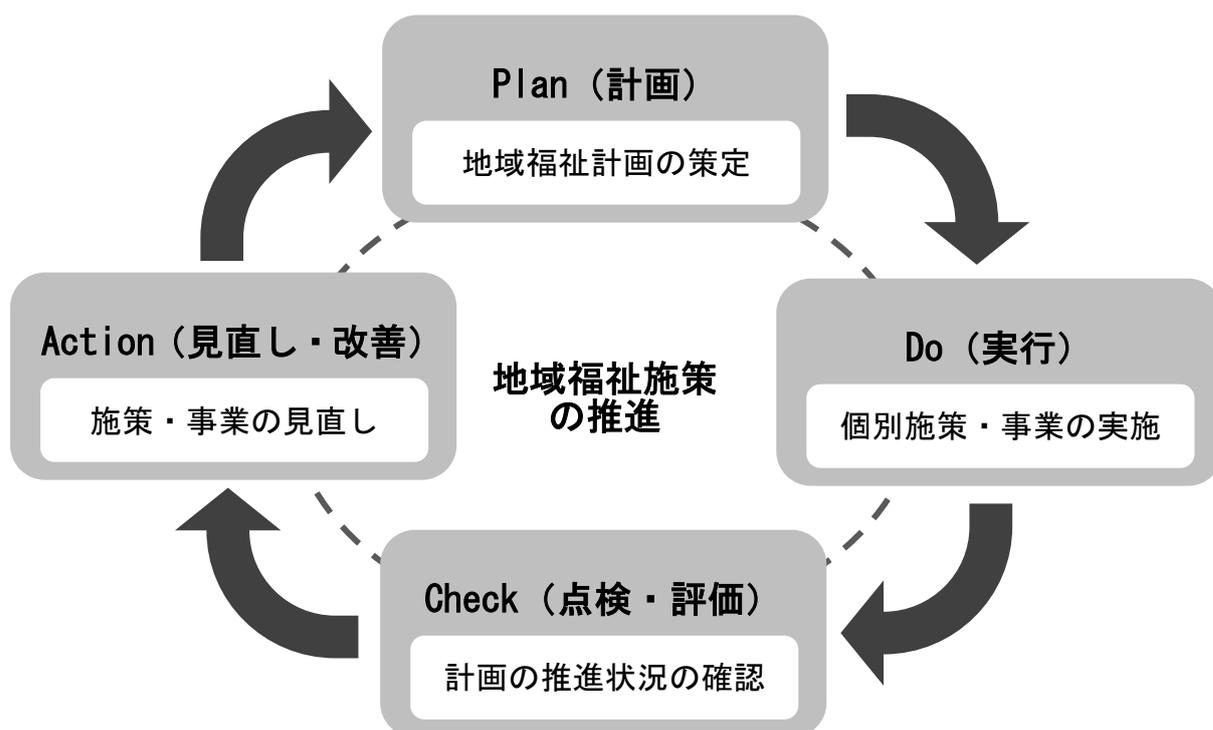
地域福祉の推進にあたっては、地域住民や関係団体等の自主的な取り組みが重要な役割を担います。そして、行政は住民福祉の向上を目指して福祉施策を総合的に推進していく役割を担っています。

地域住民や関係団体等の自主的な取り組みを様々な形で支援するため、民生児童委員、ボランティア、NPO、社会福祉協議会、福祉関係事業者などのそれぞれの役割を踏まえながら、相互に連携・協力を図り、地域の福祉活動を促進させるための支援を行っていくことが必要となります。

また、社会環境（人口減少、少子高齢化、地方分権等）の変化に伴い福祉ニーズも急激に変化してきていることから、それらに対応しつつ、施策の狭間にある福祉課題へ対応するため、高齢者、障がい者、児童福祉施策など各部門施策間の整合性を高め、福祉施策全体としてより効果が見込めるよう、庁内の連携体制を構築することが重要となっています。

### 【3】 計画の進捗管理

本計画の推進にあたっては、『PDCA サイクル』による進行状況の点検・評価を行い、改善・見直しを行います。



## 第6章 成年後見制度利用促進基本計画

### 【1】 成年後見制度の利用促進に向けた取り組み

#### (1) 総論

平成28(2016)年5月に施行された「成年後見制度の利用の促進に関する法律」において、市町村は「国の成年後見制度利用促進基本計画(平成29(2017)年3月24日閣議決定)」を勘案して、当該市町村の区域における成年後見制度の利用の促進に関する施策についての基本的な計画を定めるように努めるとともに、中核となる機関の設立等に係る支援その他の必要な措置を講ずるよう努めることとされています。これを受け、ここに八幡浜市成年後見制度の利用促進に関する施策についての基本計画を定めます。

#### (2) 成年後見制度とは？

成年後見制度とは、認知症、知的障がい、精神障がい等により判断能力が十分でない人に代わって、家庭裁判所から選任された援助者(成年後見人等)がその人の預貯金の管理等(財産管理)や日常生活での様々な契約等(身上監護)の支援を行う制度です。

#### (3) 成年後見制度に関する現状と課題

八幡浜市の平成31(2019)年4月時点における総人口は、33,519人で、65歳以上の高齢者は、13,185人、人口に占める割合である高齢化率は39.3%であり、今後総人口が減少していく中、高齢化率はますます増えていくと推測されます。

「第2章 八幡浜市の現状」に示した通り、要支援・要介護高齢者、知的障がい者、精神障がい者ともに、ゆるやかな増加傾向にあります。こうした状況を背景に成年後見制度の利用者の増加が見込まれ、制度利用につながっていない人がまだ数多くいることが考えられます。

##### <課題>

- ・制度について、知られていない、または正しく理解されていないことで、成年後見制度の利用に至っていない。
- ・市長申立て等、制度を利用するための手続きに時間を要する、または制度自体がわかりにくいことで、本人や支援者が利用しづらさを感じており、適切に制度利用ができていない。
- ・利用者の増加や様々なニーズに対応していくために、新たな後見人の育成やフォローアップ等、成年後見制度の担い手不足を想定した準備ができていない。

#### (4) 基本施策と取り組み

##### 1. 八幡浜市権利擁護センターの活用

- ・市では、平成25年5月に県下で最初の権利擁護センターを開設し、市社協に委託して相談支援、広報・啓発、研修会開催、担い手養成、権利擁護推進協議会の開催等の事業を行っています。今後も権利擁護センターは、行政や各関係機関との連携により、本人の判断能力に応じた相談支援等に努めます。
- ・権利擁護センターは中核機関として、地域における後見支援体制の構築を図ります。成年後見利用支援、地域の後見活動支援、法人後見事業と福祉サービス利用援助事業を一体的に実施し、保証サービスなど既存の法や機関では対応できない市民の生活課題にも取り組んでいきます。

##### 2. 制度広報・普及

- ・市（権利擁護センター）と市社協、関係機関が中心となり、市民、地域の支援者等対象別に講演会を開催し、成年後見制度について正しく周知をします。
- ・行政、地域包括支援センター、障がい者相談支援事業所等の職員を対象にした研修会を開催し、成年後見に関する実務を学ぶとともに、職種間の連携を強化します。

##### 3. 相談支援機能の強化

- ・成年後見制度の利用に関する相談ができる窓口として、市（権利擁護センター）と市社協、関係機関と協議を行い、相談支援体制の強化を図り、切れ目のない生活支援として権利擁護体制を構築します。
- ・地域の支援チームへの制度利用の相談には、八幡浜市権利擁護センターの専門職等がサポートする体制を強化していきます。

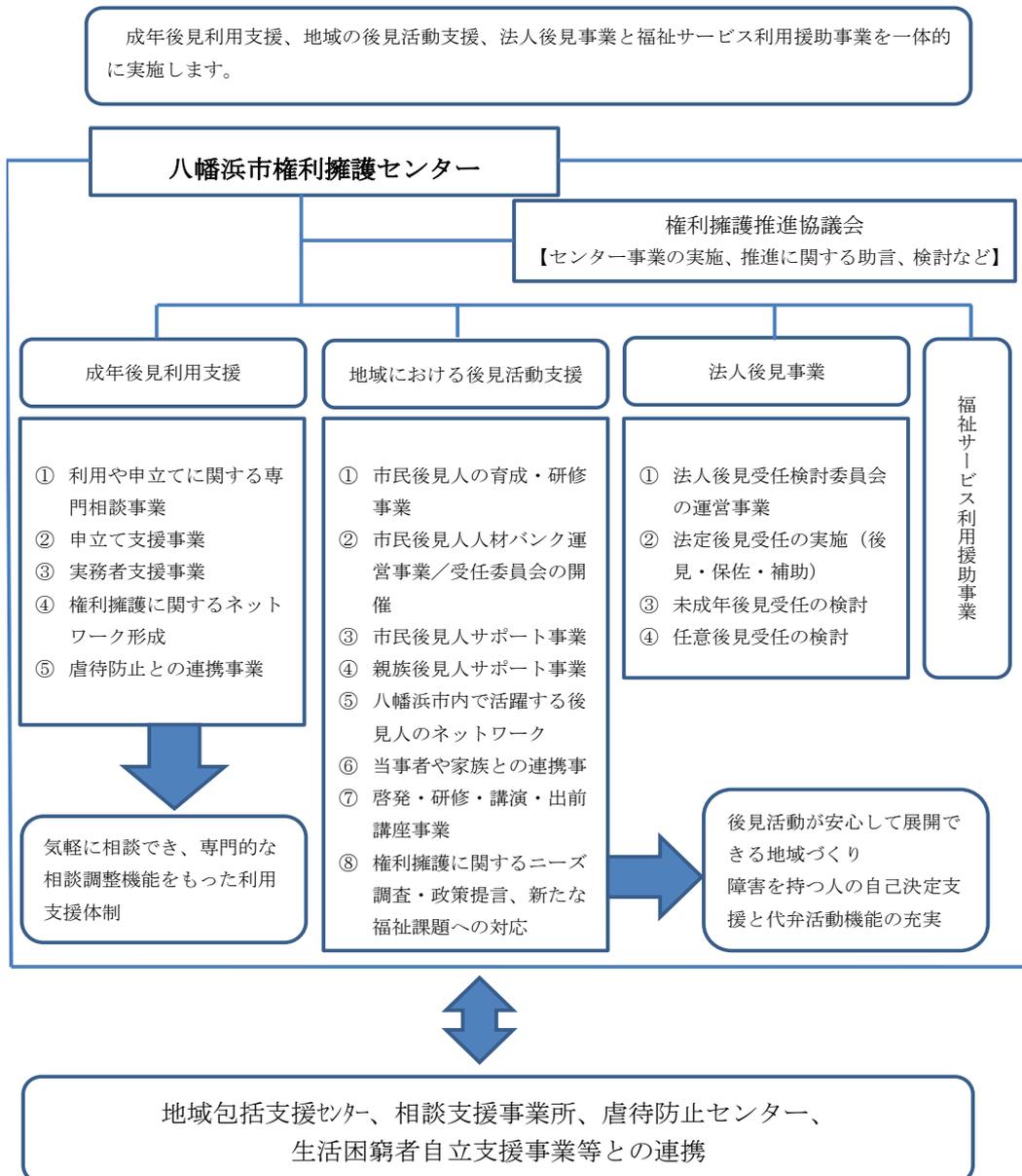
##### 4. 制度の理解者と担い手の育成

- ・新たな後見人となる人材の育成として、成年後見利用促進事業として「市民後見人養成講座」を開催しており、養成した人材を活用するための仕組みを段階的に整備し、関係機関と連携をしながらフォローアップできる体制を目指します。

5. 利用者が安心して利用できる体制づくり

- ・財産管理だけでなく、利用者である認知症高齢者や障がい者の意思決定支援、身上監護を大切にするために、複数後見や法人後見等、利用者の特性や支援ニーズに応じた選任がされるよう努めます。
- ・利用者の支援については、八幡浜市権利擁護センターの専門職が中心となり、後見人をサポートする仕組みをつくり、本人・支援者が安心して利用できるような家庭裁判所や関係機関と連携していきます。
- ・本人の経済的な困窮や、申立てをする親族がない等の場合には、報酬助成制度や市長申立制度の利用につなげられるよう、必要な時に制度が利用できる体制を強化します。

■権利擁護センターの運営体制イメージ図



## 資料編

### 【1】 八幡浜市地域福祉計画策定委員会設置要綱

(設置)

第1条 社会福祉法（昭和26年法律第45号）第107条の規定に基づき八幡浜市地域福祉計画（以下「地域福祉計画」という。）を策定するため、八幡浜市地域福祉計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 委員会は、次に掲げる事項について検討及び協議を行い、策定した地域福祉計画を市長に提出するものとする。

- (1) 地域福祉計画の策定に関すること。
- (2) その他地域福祉計画の策定に関し必要な事項に関すること。

(組織)

第3条 委員会は20人以内の委員で構成し、委員は次に掲げる者のうちから市長が委嘱し、又は任命する。

- (1) 学識経験者
- (2) 福祉関係団体関係者
- (3) 地域関係団体関係者
- (4) 関係行政機関の職員
- (5) その他市長が必要と認めた者

(任期)

第4条 委員の任期は、委嘱し、又は任命された日から第2条に定める任務を完遂する日までとする。

- 2 委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長等)

第5条 委員会に委員長及び副委員長各1人を置き、委員の互選によりこれを定める。

- 2 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議（以下「会議」という。）は、委員長が招集し、議長となる。

- 2 会議は、委員の過半数の出席がなければ開くことができない。
- 3 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは議長の決するところによる。
- 4 委員長は、必要があると認めるときは、会議に委員以外の者を出席させ、その意見を聴くことができる。

(秘密の保持)

第7条 委員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も、同様とする。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、市民福祉部社会福祉課において処理する。

(委任)

第9条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、令和元年10月21日から施行する。

(最初の会議に係る特例)

2 第6条第1項の規定にかかわらず、この要綱の施行後の最初の会議は、市長が招集する。

## 【2】 八幡浜市地域福祉計画推進委員会委員名簿

区分	所属団体	役職等	氏名
(1) 学識経験者	八幡浜市議会民生文教委員会	委員長	竹内 秀明
(1) 学識経験者	八幡浜市教育委員会	主幹	塩見 孝
(1) 学識経験者	八幡浜医師会	会長	清水 久和
(2) 福祉関係	八幡浜心身障害者（児）団体連合会	会長	西園寺 純一
(2) 福祉関係	八幡浜市社会福祉協議会	事務局 次長	田中 奈美
(3) 地域関係	八幡浜市公民館連絡協議会	会長	木下 恵介
(3) 地域関係	八幡浜市民生児童委員協議会	会長	菊池 省三
(3) 地域関係	八幡浜市老人クラブ連合会	会長	二宮 優
(3) 地域関係	八幡浜市保育協議会	会長	赤坂 千津
(3) 地域関係	八幡浜市小中学校PTA連合会	会長	氏間 貴則
(3) 地域関係	八幡浜市女性団体連絡協議会	会長	菊地 千鶴
(3) 地域関係	八幡浜市ボランティア協議会	会長	猪石 壮
(4) 行政機関	八幡浜市市民福祉部	部長	二宮 恭子



## 八幡浜市地域福祉計画

発行年日：令和2年6月

発行：八幡浜市 市民福祉部 社会福祉課

〒796-8501 愛媛県八幡浜市北浜一丁目1番1号

電話 0894-22-3111（代表）